

平成4年度
事業報告書

自 平成4年4月1日
至 平成5年3月31日

社団法人 日本病院会

目 次

平成4年度事業報告

第1	会務報告	1
第2	会 議	10
第3	委員会・部会	45
第4	広 報	86
第5	定例研究会	93
第6	全国研究会	103
第7	セミナー	123
第8	診療録管理通信教育	135
第9	事務長養成過程通信教育	137
第10	海外視察研究会	139
第11	アジア病院連盟(AHF)理事会	140
第12	医療従事者無料職業紹介事業	143
第13	病院幹部医会	144
第14	調 査 室	145
第15	四病院団体連絡協議会	146
第16	第42回日本病院学会	149
第17	第33回日本人間ドック学会	152
第18	第18回日本診療録管理学会	156
第19	'92国際モダンホスピタルショー	162
第20	'92ヘルス展	165
第21	日本病院会政治連盟報告	170
第22	要望書・提言	172
	役員名簿	192
	委員会委員名簿	201
	研究会委員名簿	214
	会員状況	222

第1 会務報告

平成4年
4月1日

諸橋執行部四期目スタート

「日本病院会のめざすもの——会長四選の抱負」を諸橋会長発表

診療報酬改定（実質2.5%）の新点数施行

9日 継続審議の医療法改正案を衆院本会議で趣旨説明

同日夕、民社党のヒアリング要請に河北副会長出席

11日 定例診療録管理研究会を自治医大付属大宮医療センターで開催、50施設61名参加

平成4年度研究会をスタート

15日 新宿御苑で「桜を見る会」。当会から北村・寺田常任理事が招待

25日 理事会開催。委員会・部会等の役員分掌を決定

平成3年度事業報告・収支決算を承認

25日 勤務医委員会と中小病院委員会合同調査の病院長・勤務医・MSWの三者アンケート最終報告書を発表、523病院を集計

25日 診療録管理通信教育の第36回認定証授与式。管理士73人を認定、延べ認定者1,676人

29日 平成4年春の叙勲・褒章受章者発表

当会推薦の財津晃前副会長が勲三等瑞宝章に、また大道学常任理事が藍綬褒章を受章

5月7日 新役員の紹介かね日病顧問議員団（小沢辰男世話人代表）と朝食会

新設の医療保険審議会に病院経営学識経験者代表参画が必要と決議

18日 医薬品流通で諸橋会長ほか幹部が製薬協山田・阿部氏及び卸連内匠屋・秋山氏と懇談、新薬価算定に伴う建値制実施の状況等

20日 諸橋会長、中山副会長ほか幹部と日刊紙論説委員が懇談、病院経営の諸問題等

21日 看護教育施設部会・全体会議を開催、学校運営の実態調査と補助金増額要望の結果など報告

22日 医薬品流通の問題で河北副会長が公取委に照会、製薬メーカーの再販売維持行為の禁止通達事項など確認

22日 日病新役員と顧問が懇談。左奈田・小野田・若月・財津・小野・大浜・宮崎・自見の各顧問が出席

23日 代議員会・総会を開催、平成3年度事業報告と収支決算を承認

23日 昨年4月発足の日病・病院診療報酬体系作成委託研究会の西村周三委員長が「今後の診療報酬のあり方（総括）」を発表

- 25日 全国の大学医局対象の「小児科・放射線科・病理新入局者調査報告」を公表。三科とも入局者が減少傾向。量的質的面から制度的対応が必要と河北副会長がマスコミ説明
- 6月1日 看護婦等の人材確保法案に対する要望書を四病団が提示
特に民間病院の看護婦等の養成・確保に配慮をとの内容
- 10日 自民党全国組織委員会の平成5年度予算要望聴取
河北副会長が出席し、診療報酬改善と看護婦等養成の補助金増額など表明
- 18日 第42回日本病院学会（有澤源蔵学会長）を大阪市・ホテルニューオータニ大阪で開催
～20日 「新時代の病院像——質の向上と機能改革」をテーマに6,000人参加、一般演題305題発表
- 19日 学会会期に合わせアジア病院連盟（AHF、諸橋会長）のスタディツアーを開催
韓国、台湾、フィリピン、インドネシアと、オブザーバー参加の中国を合わせ海外から27人と日本の国際委員会関係者が参加
19日にはAHF理事会と、AHFフォーラム「各国医療制度の問題点」を発表
- 26日 医療法改正案が19日参院本会議で可決、成立したのを受けて医療審議会を開催。大道常任理事、諸橋会長が参画
- 30日 四病団総合部会に日病素案として「病院団体連合（盟）創設の提唱（案）」を提出、各団体の独立性はそのままに、重要事項について共同行動をとる趣旨
- 7月9日 看護業務見直しのため平成4年度事業として業務改善のモデル実施病院を厚生省が指定、日本病院会から総合大雄会病院、聖路加国際病院、天本病院、河北総合病院の4病院
- 9日 92国際モダンホスピタルショウが「価値ある健康、愛される病院」をテーマに池袋サンシャインシティ文化会館で開催
～11日 海外7か国26社ふくみ157社が出展、のべ4万9,000人が入場
ヘルス展も同時開催し、出席66社、のべ4万1,000人を集める
- 17日 現在病院負担となっている外国人患者の医療費未払いに対し、国は救済措置をとるよう四病団名で厚生省等に要望提出
未収金のほとんどが無保険の患者で、全国の病院の未収金額は10億円と推定
- 18日 京都私立病院協会の理事長・院長会で、諸橋会長が「最近の医療問題」を講演
- 25日 社会保険庁の政管健保における健診事業のあり方に関する検討委員会に当会臨床予防医学委員会の笹森委員を推薦
厚生省の死亡診断書等検討委員会委員に当会瀬田常任理事を推薦
- 25日 事務長養成課程通信教育の第13回認定証授与式。修了生9人を認定、のべ130人

- 8月1日 病院長・幹部職員セミナーを東京千代田区のダイヤモンドホテルで開催、150人参加
 ～2日 厚生省小野医療課長の講演と、医療費改定後の対応策を10病院が報告。京大西村教授、中山元外相の講演、マスコミ論説委員の病院に対する提言等
- 3日 中医協の医療経済実態調査を病院経済の立場で独自に分析し、河北副会長が記者会見。一般病院の総収支はマイナス1.6%と算出
- 14日 日病としてエイズ対策を検討しようとエイズ等対策委員会が発足し、初会合。瀬田常任理事を委員長に11委員でスタート
- 22日 厚生省の医療関連サービス基本問題検討会の中の、検体検査院内委託委員会に清瀬臨床予防医学委員を、医療機器保守点検委員会に高橋常任理事を推薦
- 31日 中国医療施設視察団（小山田恵団長）が出発。
 全自病協と共同企画で9月11日までの12日間、12名が北京、ハルビン、西安、桂林、上海を訪問
- 9月1日 北京で開かれた国際病院管理学会に高橋常任理事・国際委員長が出席、4日まで
- 3日 第33回日本人間ドック学会が高知市・県民文化ホールで開催。長崎彬学会長のもと「医療
 ～4日 の進歩に伴う人間ドックの役割」をテーマに1,200人参加、155題の一般演題
 臨床予防医学委員会報告で3月末の短期人間ドック指定施設は556病院、自動化健診指定は145施設
- 4日 新発足の厚生省・医療保険審議会が第一回会合、当会推薦で河北副会長が出席
 医療保険制度の枠組みや給付の範囲、財源確保の方策など幅広く論議
- 7日 IHF事務総長のピッカーリング氏が来日、94年IHF汎地域会議の開催地・横浜の視察をかね当会国際委員会関係者と懇談
- 10日 第18回日本診療録管理学会（山本修三学会長）を横浜市のパシフィコ横浜で開催
 ～11日 「情報化社会への対応」をテーマに850人参加、50題の一般演題
- 19日 厚生省薬務局の医療機器政策検討会の保守管理・流通に関するワーキンググループに当会
 用度研究会塩山委員長を推薦
- 20日 丹野副会長が18日の当会委員会の席上倒れられ、慶応病院救命救急センターに入院された
 が、20日ご逝去
- 21日 平成5年度税制に関する要望・19項目を自民党税制調査会及び全国組織委員会へ提出
- 25日 台湾病院協会の第25回総会に依田副会長が出席

- 10月14日** スウェーデン病院協会の医療施設視察団一行25名が日病を訪問
- 20日
～31日 IHF汎地域会議（ロンドン）参加とヨーロッパ病院視察旅行を実施、牧野参与・IHF副会長をコーディネーターに10名参加
- 20日 雑誌「エコノミスト」の特集“日本の医療が危ない”に諸橋会長の論文「破綻の危機に直面する病院経営」——窮状打開の処方箋をさぐる——全6ページが掲載
- 21日 **医療審議会が改正医療法に係る政省令事項を答申**
特定機能病院の紹介率30%以上、療養型病床群の経過措置特例など。24日の当会常任理事会で大道委員報告
- 23日 中国・吉林省の衛生体制考察団が日病を訪問
- 24日 診療録管理通信教育の第37回認定証授与式。75名を認定
-
- 11月3日** 平成4年秋の叙勲、宮崎常任理事が勲三等瑞宝章を受章
- 5日 日本顕彰会の平成4年度社会貢献者表彰式
当会推薦の藤間弘行藤間病院名誉院長、横田しづ子豊橋市民病院看護婦長、栗田静枝元聖路加国際病院診療記録管理室長が受章
- 6日 厚生省健康政策局の新旧幹部と諸橋会長ほか懇談
- 7日 岡山県病院協会で諸橋会長が「医療環境の現状に伴う今後の病院経営について」講演
- 13日 秋の園遊会に当会から土屋呂武元常任理事が出席
- 25日 **日病顧問議員団と朝食会、諸橋会長、小野政連委員長ほか出席**
病院経営の昨今の危機的状況を説明、「病院団体連合構想」の賛同をえる
- 28日 **理事会開催、平成5年度事業計画案を協議、病院団体連合の設立準備会参加と基本的考え**
など了承
-
- 12月1日** **エイズ等対策委員会報告書（11月28日）を受けてエイズ対策本部（本部長・諸橋会長）が発足、記者発表**
病院におけるHIV抗体検査の公的費用負担、患者診療に関わるエイズ管理料の設定などを厚生省に要望
- 4日 特定治療材料の定価設定で要望書を提出。ペースメーカーの外に、人工骨頭、人工股関節、人工弁、大動脈バルンカテーテル等も必要と厚生省に提示
- 10日 平成5年度予算要望で自民党全国組織委員会国民生活局、並びに社会部会のヒアリングに河北副会長出席
- 12日 宮沢内閣改造、新厚相に丹羽雄哉氏が就任
- 24日 **社会保険診療報酬の緊急是正について四病団で大蔵省、厚生省に要望書提出**

病院経営の危機的状況から来年度予算の緊急措置を求める

- 25日 **看護婦充足のための病院間格差の是正を四病団で要望**
基準看護採用病院の必要以上の看護婦偏在の是正を厚生省、文部省等関係方面へ要請

平成5年
1月13日

NHKスペシャル「病院再建——徹底解剖、経営の舞台裏」が放映。経済優先の誤解を与えかねない内容と諸橋会長がNHKに意見書

- 13日 平成5年度日病指定の短期人間ドック標準料金は前年同額の6万2,000円で健保連と更改。自動化健診料金は若干のアップで平均4万円弱

- 2月3日 米国高齢者ケア視察旅行に出発。

12日までの10日間、ロサンゼルス、サンシティ、テキサスなどを訪問、長澤泰国際委員会委員をコーディネーターに16名参加

- 5日 **中医協総会**。改正医療法にともなう特定機能病院と療養型病床群の診療報酬点数につき諮問・答申、4月1日実施

- 8日 内科系学会社会保険連合第77回例会を開催、次回診療報酬改定の検討を行う。伊賀委員が参画

- 10日 全国病院団体連絡協議会設立準備会西日本地区会議が岡山で開催、病院団体連合構想の推進を確認

- 15日 エイズ対策本部が「エイズの診療体制について」842会員病院のアンケート結果を記者発表、中核病院へ名のり56病院、ネットワーク参加意思211病院など。「相談窓口」も開設

- 27日 **理事会開催**。平成5年度事業計画案及び予算案を承認。新規項目として「日本病院会の事業のあり方とそれに伴う諸規程に関する事項」を追加し、また病院の管理運営・施設の改善向上の項に「経営改善」を追加

- 3月2日 診療報酬改定説明会を神戸市で開催、4日は東京開催で、両会場あわせ818名受講

- 3日 全国病院団体連絡協議会設立準備会東日本地区会議を東京で開催、西日本地区会議とあわせ新年度からの連合構想推進を確認

- 4日 厚生省の医家向け医療用具流通近代化協議会が初会合、諸橋会長参画

- 10日 平成4年病院運営実態調査報告書が完成。日病・公私連の協力調査。1,125病院の病院概況・経営収支表を収載

- 17日 「病院診療報酬の緊急改定についての要望」をまとめ、諸橋会長が厚生省古川保険局長、日病顧問議員団に趣旨説明し、記者発表

- 18日 厚生省・エイズ治療の拠点病院のあり方に関する検討会が初会合、河北副会長参画
- 18日 年度末の教育委員会・研究会委員長会議を開催
定例研究会は17研究会が29回開催し2,061人の参加者。全国研究会は18研究会・21回開催・1,650人参加。セミナーは5研究会・5回開催・参加371人
- 25日 平成4年診療報酬改定影響率調査報告書を統計調査部会がまとめ発行
- 27日 代議員会・総会開催。平成5年度事業計画案、同予算案を承認
理事の補欠選挙が行われ、林雅人平鹿総合病院長、伊賀六一東京都済生会中央病院長、武田惇大阪府済生会泉尾病院長、加藤英夫国際親善総合病院長、岸口繁府中病院理事長の5理事を選出

庶務・人事

叙勲・褒章

4月29日 勲三等瑞宝章

小西 宏 元済生会神奈川県支部（神奈川県・74）

財津 晃 長浜赤十字病院院長（滋賀県・71）

勲四等旭日小綬章

齊藤 達郎 大田原赤十字病院院長（栃木県・72）

兵働 貞夫 国家公務員共済組合連合会浜の町病院院長（福岡県・70）

勲四等瑞宝章

岡山 清 九州記念病院院長（熊本県・72）

美馬 恭一 香川県済生会病院院長（香川県・70）

勲六等单光旭日章

渡邊 純孝 東芝林間病院臨床検査技師（神奈川県・60）

勲六等宝冠章

美馬 節子 水間病院病棟婦長（大阪府・58）

藪田 幸子 北野病院看護部長（大阪府・61）

勲六等瑞宝章

本間 晴男 東部地域病院放射線科技師長（東京都・61）

藍綬褒章

大道 學 大道病院理事長（大阪府・64）

中村 正作 社会保険紀南総合病院院長（和歌山県・66）

9月20日 従五位勲四等旭日小綬章

丹野 清喜 水戸済生会総合病院院長（茨城県・69）

11月3日 勲三等瑞宝章

宮崎 柏 栃木県済生会宇都宮病院院長（栃木県・70）

藤田 長利 元日本赤十字社長崎原爆病院院長（長崎県・71）

阿部 達夫 鶴見総合病院院長（神奈川県・77）

勲四等旭日小綬章

神野 正一 恵寿総合病院院長（石川県・71）

勲五等瑞宝章

佐藤 和身 元駿河台日本大学病院臨床検査技術長（東京都・65）

野間 清子 国公共済広島記念病院看護部長（広島県・61）

勲六等宝冠章

赤根 愛子 第二岩崎病院看護婦長（三重県・60）

相良サチコ 大阪厚生年金病院総看護婦長（大阪府・60）

藤山 年 大阪警察病院看護婦長（大阪府・59）

勲六等瑞宝章

澤田 玲子 大阪済生会中津病院中材室長（大阪府・61）

秦野 千歳 三生会病院看護婦長（山梨県・69）

藤田 達男 聖マリアンナ医科大学病院臨床検査技師（神奈川県・61）

人 事

1. 副 会 長

（就 任）

登内 真（土浦協同病院院長） 平成4年11月28日

（退 任）

丹野 清喜（水戸済生会総合病院院長・死亡） 9月20日

2. 常任理事

（就 任）

瀬田 克孝（社会保険中央総合病院院長） 6月17日

藤沢 正清（福井県済生会病院院長） 11月28日

（退 任）

平野 一彌（港北耳鼻咽喉科病院院長・辞任） 4月1日

宮崎 柏（栃木県済生会宇都宮病院院長・院長退職） 11月30日

有澤 源蔵（有澤総合病院院長・辞任） 平成5年2月27日

3. 理 事

（就 任）

林 雅人（平鹿総合病院院長） 平成5年3月27日

伊賀 六一（東京都済生会中央病院院長） //

武田 惇（大阪府済生会泉尾病院院長） //

加藤 英夫（国際親善総合病院院長） //

岸口 繁（府中病院理事長） //

（退 任）

石井 昭郎（相模原協同病院院長・院長退職） 平成4年3月31日

4. 代議員

(就任)

大林 幸	(キナシ大林病院院長・香川県)	平成4年6月4日
石岡 国春	(水戸協同病院院長・茨城県)	7月20日
金谷 春之	(北上済生会病院院長・岩手県)	7月27日
青山 鍵夫	(青山病院院長・愛知県)	平成5年1月21日
川合 弘毅	(若草第一病院理事長・大阪府)	1月25日
高畑 弘	(都立台東病院院長・東京都)	2月19日
藤田 洋一	(公立南丹病院院長・京都府)	3月1日
内野 治人	(大阪赤十字病院院長・大阪府)	3月25日

(退任)

三宅 和夫	(県西総合病院院長・茨城県・院長退職)	平成4年3月31日
倉光 宏	(北上済生会病院院長・岩手県・院長退職)	3月31日
藤原 憲和	(総合病院回生病院院長・香川県・院長退職)	5月31日
土居 通泰	(都立台東病院院長・東京都・院長退職)	11月30日
牧 安孝	(牧病院院長・大阪府・死亡)	12月14日
大島多年太郎	(大島病院院長・愛知県・死亡)	平成5年1月2日
中橋 彌光	(西陣病院院長・京都府・院長退職)	2月28日
武田 惇	(大阪府済生会泉尾病院院長・大阪府・理事就任)	3月10日

第 2 会 議

総 会

第 1 回総会

H 4. 5 月 23 日(土) ダイヤモンドホテル 出席 122 名

1. 平成 3 年度事業報告書の承認に関する件

原案どおり承認

2. 平成 3 年度収支決算の承認に関する件

原案どおり承認

(一般会計) (単位：円)

A. 収入の部

1. 会 費 収 入	268,596,520
2. 事 業 収 入	123,943,503
3. 賛助会員会費並びに寄附金	25,291,580
4. 雑 収 入	28,612,734
5. 他会計より繰入金収入	16,471,675
当期収入合計	462,916,012
前期繰越収支差額	188,904,473
収 入 合 計	651,820,485

B. 支出の部

1. 事 業 費	265,063,213
2. 負 担 金	1,244,800
3. 会 議 費	29,004,197
4. 事 務 諸 費	143,595,143
5. 他会計へ繰入金支出	110,000,000
当期支出合計	548,907,353
当期収支差額	△85,991,341
次期繰越収支差額	102,913,132

(特別会計)

A. 基本財産

収入の部

1. 雑 収 入	9,916,314
2. 一般会計より繰入金収入	20,000,000

当期収入合計	29,916,314
前期繰越収支差額	137,408,405
収入合計	167,324,719
支出の部	
当期支出合計	6,000,000
当期収支差額	23,916,314
次期繰越収支差額	161,324,719
B. 退職手当積立金	
収入の部	
1. 雑収入	2,352,639
2. 他会計より繰入金収入	4,000,000
当期収入合計	6,352,639
前期繰越収支差額	35,280,485
収入合計	41,633,124
支出の部	
1. 事務諸費	185,460
2. 他会計へ繰入金支出	10,441,810
当期支出合計	10,627,270
当期収支差額	△ 4,274,631
次期繰越収支差額	31,005,854
C. IHF国際交流基金	
収入の部	
1. 雑収入	7,132,648
2. 他会計より繰入金収入	80,000,000
当期収入合計	87,132,648
前期繰越収支差額	45,601,768
収入合計	132,734,416
支出の部	
事業費	3,866,439
負担金	1,466,322
当期支出合計	5,332,761
当期収支差額	81,799,887
次期繰越収支差額	127,401,655

D. 創立40周年記念行事

収入の部

1. 会 費 収 入	5,880,000
2. 雑 収 入	292,683
3. 他会計より繰入金収入	6,000,000
当期収入合計	12,172,683
前期繰越収支差額	19,369,657
収 入 合 計	31,542,340

支出の部

1. 負 担 金	30,878,649
2. 事 務 諸 費	633,826
3. 他会計へ繰越金支出	29,865
当期支出合計	31,542,340
当期収支差額	△19,369,657
次期繰越収支差額	0

※特別講演会

「医療費改定の影響と今後の対応について」

国家公務員等共済組合連合会 参与 黒田幸男先生

第2回総会

H5. 3月27日(土) ダイヤモンドホテル 出席142名

1. 平成5年度事業計画(案)に関する件

原案どおり承認

2. 平成5年度予算(案)に関する件

原案どおり承認

(一般会計)	(単位:円)
当期収入合計	451,904,000
前期繰越収支差額	83,361,000
収 入 合 計	535,265,000
当期支出合計	523,913,000
当期収支差額	▲72,009,000
次期繰越収支差額	11,352,000

(特別会計)

A. 基本財産特別会計

当期収入合計	8,137,000
前期繰越収支差額	169,132,000
収入合計	177,269,000
当期支出合計	2,000
当期収支差額	8,135,000
次期繰越収支差額	177,267,000

B. 退職手当積立金特別会計

当期収入合計	1,854,000
前期繰越収支差額	36,620,000
収入合計	38,474,000
当期支出合計	2,000
当期収支差額	1,852,000
次期繰越収支差額	38,472,000

C. I H F 国際交流基金特別会計

当期収入合計	14,560,000
前期繰越収支差額	127,020,000
収入合計	141,580,000
当期支出合計	12,360,000
当期支出差額	2,200,000
次期繰越収支差額	129,220,000

D. I H F 汎地域会議特別会計

当期収入合計	19,021,000
前期繰越収支差額	4,256,000
収入合計	23,277,000
当期支出合計	17,985,000
当期収支差額	1,036,000
次期繰越収支差額	5,292,000

※特別講演会

「今回の診療報酬改定と今後の方向について」

厚生省保険局 医療課長 篠崎英夫先生

代議員会

第1回代議員会

H 4. 5月23日(土) ダイヤモンドホテル 出席51名

1. 平成3年度事業報告書の承認に関する件
原案どおり承認
2. 平成3年度収支決算書の承認に関する件
原案どおり承認(第1回総会を参照)

第2回代議員会

H 5. 3月27日(土) ダイヤモンドホテル 出席51名

1. 平成5年度事業計画(案)に関する件
原案どおり承認
2. 平成5年度予算(案)に関する件
原案どおり承認(第2回総会を参照)
3. 理事の補欠選挙に関する件
理事5名の選出を承認

林 雅 人(秋田県・平鹿総合病院長)
伊 賀 六 一(東京都・東京都済生会中央病院長)
加 藤 英 夫(神奈川県・国際親善総合病院長)
武 田 惇(大阪府・大阪府済生会泉尾病院長)
岸 口 繁(大阪府・府中病院理事長)

(※任期 H 5. 3/27~H 7. 3/31)

理事会

第1回理事会(常任理事会と合同開催)

H 4. 4月25日(土) ダイヤモンドホテル 出席者59名

1. 5月23日開催の代議員会、総会に提出する議案について
平成3年度事業報告、収支決算等を承認し代議員会、総会へ上程することで了承
2. 会員の入退会について
正会員入会3件、正会員退会6件、賛助会員入会3件、賛助会員退会2件を承認
(4月25日現在 正会員2,439会員、賛助会員420会員)
3. 役員の業務分掌について
会長副会長会議での役員業務分掌検討報告(案)を紹介。委員会、部会の構成人員は6

～7名の構成により、委員構成は委員長に一任することで了承

4. 常任理事補充（1名）について

平野一彌常任理事の辞任を承認。石井昭郎（厚生連・相模原協同病院院長）理事の退職に伴う後任については推せん母体の厚生連より推せんすることで了承

5. 研究研修会の委員委嘱について

平成4年度の各種研究会委員会構成（案）を協議し原案を承認

6. 「研究会の設置及び運営に関する規則」について

諸規程検討委員会、常任理事会での経緯説明報告ののち規則（案）を審議し承認

7. 日本病院学会評議員の推薦について

9名の学会評議員の推薦を承認

（常任理事）

高橋 勝 三（東京都・武蔵野赤十字病院院長）

瀬田 克 孝（東京都・社会保険中央総合病院院長）

笹川 力（新潟県・新潟市民病院院長）

武田 隆 男（京都府・武田総合病院理事長）

上野 英 高（岡山県・津山中央病院院長）

高科 成 良（広島県・広島総合病院院長）

重松 授（愛媛県・愛媛県立病院院長）

福井 順（長崎県・長崎記念病院理事長）

（代議員会副議長）

山本 敬（神奈川県・衣笠病院院長）

8. 短期人間ドック実施施設、自動化健診施設の指定について

下記施設の指定を承認

（短期人間ドック実施施設）

1. 埼玉県・埼玉脳神経外科病院（31床、指定1床）

2. 東京都・あそか病院（265床、指定3床）

3. 山梨県・甲府城南病院（325床、指定5床）

4. 福岡県・川浪病院（188床、指定1床）

（自動化健診施設）

1. 静岡県・聖隷沼津病院健康診断センター

9. 財団法人日露医学医療交流財団の理事就任について

諸橋芳夫会長への就任依頼を承認

10. 各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. '92大阪国際メディカルショーの後援依頼
2. 第14回ME技術講習会の協賛名義使用依頼

依頼元：(社)日本エム・イー学会

(助)医療機器センター

11. 医療費問題について

今回の診療報酬改訂の概要説明ののち、改訂に対する国会としての18項目にわたる意見概要説明、各病院での当てはめ作業を実施し影響率を調査し今後の対応を図ることで了承

12. 医療制度、医療法の改正について

公明党、民社党両厚生部会から医療法改正についての意見拝聴依頼があり実施した旨の報告。国会の意見を医療審議会での場を通じ積極的に提出することで了承

13. 老人保健制度、老人保健施設について

厚生省発表、「老人保健施設の経営実態等調査」の概要説明と現状比較の意見拝聴で了承

14. 看護問題について

国会実施の「平成3年度看護学校運営に関する緊急調査」実態として60%が自主補填であり、看護学校運営の厳しい現状報告等を了承

15. 病院税制について

動向報告を了承

16. 病院経営について

第17回医療経済実態調査の概要報告、医療機関の倒産状況、聖路加国際病院の開院報告等を了承

17. 病院長・幹部職員セミナーの開催について

開催要領(案)を承認

8月1日(土)

講演「今回の医療費改訂の主旨と今後の方向」

厚生省保険局 医療課長 小野昭雄 氏

シンポジウム「医療費改定の影響と我が病院の対応」

講演「国会情勢」 参議院議員 大浜方栄 氏

8月2日(日)

講演「国内外の政治情勢」

女性問題研究所 所長 江利川安栄 氏

講演「医療保険制度・社会保険診療報酬制度の抜本改正」

京都大学 経済学部教授 西村周三 氏

シンポジウム「看護学校運営をめぐる」

「マスコミからみた病院への提言」

日刊紙各社 論説委員

18. 中国医療施設視察団の実施について

全国自治体病院協議会との共催で8月31日～9月11日の実施（案）を承認

19. 公立病院のあゆみと存在意義

諸橋会長の執筆文書を基に公的病院の役割等を再度確認し了承

20. 各委員会の開催報告について

報告を了承

21. 学会の進捗状況について

進捗状況、開催内容等の紹介を了承

22. 厚生省「医業関係職種の効率的業務分担に関する研究会」の開催結果について

報告を了承 岩崎榮参与出席

23. 四病院団体連絡協議会の開催について

3月31日の総合部会、4月24日の看護小委員会の開催報告を了承 諸橋芳夫会長、伊藤研常任理事出席

24. 平成4年春の叙勲、褒章受章祝賀会の開催について

会員、役員関係の受章報告、財津晃顧問（勲三等瑞宝章）、大道学常任理事（藍綬褒章）を慶祝し、5月23日総会終了後に祝賀会を開催することで了承

第2回理事会（常任理事会と合同開催）

H4. 6月17日(水) ホテルニューオータニ大阪 出席者66名

1. 会員の入退会について

正会員入会2件、正会員退会2件、賛助会員入会2件を承認

（6月17日現在 正会員2,442会員、賛助会員420会員）

2. 短期人間ドック実施施設の指定について

下記施設を承認

1. 東京都・立川第一相互病院（65床、指定2床）

2. 東京都・藤崎病院（127床、指定2床）

3. 大阪府・みどりヶ丘病院（359床、指定4床）

3. 各種委員会委員の委嘱について

各委員長に委ねた委員構成案を承認

4. 学会評議員の推せんについて

4名の評議員を承認

- 牧 安 孝（大阪府・牧病院院長）
- 辻 本 兵 博（大阪府・愛染橋病院名誉院長）
- 武 田 惇（大阪府・大阪府済生会泉尾病院院長）
- 佐 藤 真 杉（大阪府・佐藤病院院長）

5. 厚生省等各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 医薬品の臨床試験の実施に関する基準（GCP）説明会後援依頼

依頼元：厚生省薬務局

2. 日本医師会委員会委員の推薦依頼

- (イ) 病院機能評価検討委員会 丹野清喜副会長
- (ロ) 社会保険診療報酬検討委員会 河北博文副会長
- (ハ) 病 院 委 員 会 中山耕作副会長
- (ニ) 医業経営検討委員会 伊藤研常任理事

3. 「'92病院設備・機器展」の協賛名義使用依頼

依頼元：日本病院設備協会

6. 医療費問題について

役員各位から今回の医療費改定の影響報告ののち、診療報酬改定実質2.5%は健全なる病院経営を図るにはほど遠い改定であり、会として良質の医療実施に見合う改定を目指し調査、検討を図り推進することで了承

7. 医療制度、医療法の改正について

医療法改正案の審議状況報告、医療制度委員会では今後政省令で検討される施設機能の体系化に関する事項、病院、診療所等の業務委託に関する事項等27項目について今後検討することで了承

8. 老人保健制度、老人保健施設について

厚生省の動向報告、会としては急速な高齢化社会を迎えるにあたり、保健・医療・福祉の連携を図ることの必要性から適切に対処してゆくことで了承

9. 看護問題について

「看護婦等の人材確保の促進に関する法律案」の内容説明を了承

10. 病院経営について

平成2年度病院経営収支調査報告、医療機関の倒産、周辺産業の業績等実態報告を了承

11. 常任理事の補充について

瀬田克孝（東京都・社会保険中央総合病院長）理事の常任理事推薦を承認

12. 各種制度委員会、研究研修会の開催報告について

報告を了承

13. 厚生省医薬品流通近代化協議会の開催について

6月1日の開催報告を了承 伊藤研常任理事出席

14. 厚生省看護業務検討会の開催報告について

6月2日の開催報告を了承 河北博文副会長出席

15. 小児科・放射線科・病理新入局調査の報告について

80大学の各医局に対してのアンケート調査報告。入局希望の減少を防ぐため専門医、専門施設加算等の制度措置を要望検討することで了承

16. 自民党全国組織委員会懇談会の開催報告について

6月10日の開催に際し厚生省予算への診療報酬の改善、看護婦等養成所にかかる補助金の増額等の要望提出報告を了承

第3回理事会（常任理事会と合同開催）

H 4. 11月28日(土) ダイヤモンドホテル 出席者63名

1. 会員の入退会について

正会員入会3件、賛助会員入会1件、賛助会員退会2件を承認

(11月28日現在 正会員2,456会員、賛助会員413会員)

2. 事務局土曜休みに伴う就業規則の一部改正について

就業規則第9条「勤務時間」11条「休日」の一部改正(案)を承認

3. 各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 第41回日本医療社会事業全国大会及び第13回学会の後援名義使用について

依頼元：(社)日本医療社会事業協会

4. 各委員会、研究研修会の開催報告について

報告を了承

5. 医療保険審議会の開催報告について

11月4日、19日の全員懇談会報告を了承 河北博文副会長出席

6. 看護業務検討会の開催報告について

11月16日の開催報告を了承 河北博文副会長出席

7. 第5回医療関連サービス基本問題検討会の開催報告について

- 11月26日の開催報告を了承 河北博文副会長出席
8. 臨床研修研究会の開催について
平成5年4月17日に「新しい卒後臨床研修プログラムのねらいとその課題」で開催する旨役員各位への協力依頼を了承
9. 医薬品流通近代化協議会・流通改善実態調査の結果について
実態報告を了承 伊藤研常任理事出席
10. 四病院団体連絡協議会の開催報告について
10月28日の総合部会、11月13日の看護小委員会報告を了承
11. 日本病院会顧問議員団との朝食会開催報告について
11月25日に開催し、相続税問題、医療費の財源問題、全国病院団体連合創設等の意見交換等の報告を了承 会長、副会長、小野政連委員長出席
12. 1HF地域会議の報告について
10月21～23日（ロンドン）の開催報告を了承 牧野永城参与出席
13. ㈱岡山県病院協会での会長講演について
11月7日「医療環境の現状に伴う今後の病院経営について」と題しての講演報告を了承 諸橋芳夫会長講演
14. 平成4年秋の叙勲について
会員関係の受章報告を了承（勲四等以上記載）
- ・勲三等瑞宝章
宮崎 柏（常任理事・栃木県済生会宇都宮病院院長）
藤田 長利（元代議員・元長崎原爆病院病院長）
阿部 達夫（会員・神奈川県・鶴見総合病院院長）
 - ・勲四等旭日小授章
神野 正一（元代議員・恵寿総合病院院長）
15. 厚生省医療機器保守点検委員会について
ガイドラインの作成にあたり役員各位への意見提出依頼を了承
16. 第44回日本病院学会の企画・運営について
本部主催のため諸橋会長を学会長とし、実行委員会を主軸とした運営、学術、財務各委員会構成(案)を承認
17. 医療費問題について
医療費の現状報告、医療資源の効率的な活用、医療財源のあり方等の報告、中医協の動向報告と医療保険審議会での検討事項への意見提出事項を協議し了承
18. 医療制度、医療法改正について

10月21日答申の「改正医療法に係る政省令事項等」についての概要報告、大道学常任理事の医療審議会委員の継続を承認

19. 老人保健制度、老人保健施設について

10月1日実施の新老人病院制度の現状報告、今後の老人問題の重要性から、会として強力に対処、推進することです承

20. 看護問題について

厚生省通知の「看護婦の人材確保の促進に関する法律の施行」についての内容説明

(社)日本看護協会の活動報告、看護婦不足対策の一案として伊藤常任理事考案の看護勤務体制の紹介等を了承

21. 病院税制について

自民党社会部会が厚生省に提出した「平成5年度税制改正に関する意見」の概要報告を了承

22. 病院経営について

諸橋会長が週刊「エコノミスト」に厳しい病院環境の実態による病院の倒産状況、医療周辺産業の繁盛現状、地方の病院団体が結束し、全国病院団体連合会（仮称）を創設し医療保障のあり方、財源問題、病院の実態と問題点、解決策を提言できるよう推進いたした旨の執筆内容、病院倒産状況説明を了承

23. エイズ対策について

エイズ対策委員会の活動状況報告を了承

24. 平成5年度事業計画(案)について

例年の事業に加え、「日本病院会の事業のあり方とそれに伴う諸規程に関する事項」を追加した(案)の説明、第一次(案)を承認

25. 病院団体連合(盟)の創設について

創設に向けての趣旨説明を了承、推進することを承認

26. 役員の補充について

丹野副会長の後任に登内真常任理事を副会長に、宮崎柏常任理事の後任に藤沢正清理事を選任することで承認

第4回理事会（常任理事会と合同開催）

H5. 2月27日(土) ダイヤモンドホテル 出席者58名

1. 会員の入退会について

正会員入会4件、正会員退会4件、賛助会員入会4件、賛助会員退会3件を承認

(2月27日現在 正会員2,459会員、賛助会員415会員)

2. 短期人間ドック実施施設、自動化健診施設の指定について

下記施設を承認

(短期人間ドック)

1. 千葉県・我孫子東邦病院 (210床、指定2床)
2. 千葉県・玄々堂君津病院 (128床、指定2床)
3. 長野県・相沢病院 (422床、指定8床)
4. 大阪府・大阪労働衛生センター第一病院 (261床、指定2床)

(自動化健診施設)

1. 神奈川県・アルファメディック・クリニック

3. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 医療用具の臨床試験マニュアル説明会の後援依頼
依頼先：厚生省 薬務局 医療機器開発課
2. 第22回日本総合健診医学会・国際健診学会東京大会の後援依頼

4. 平成5年度事業計画(案)について

事業の新規項目に「病院の管理運営・施設の改善向上に関する事項」に「経営改善」事項の追加、「日本病院会の事業のあり方とそれに伴う諸規程に関する事項」を追加し、調整された研究会、セミナーの開催計画を承認し、代議員会、総会に上程することで了承

5. 平成5年度予算(案)について

予算作成に伴う骨子の説明、他団体の会費状況説明、厳しい財務現状により平成6～7年度には会費値上げを検討することを了承、5年度予算(案)を原案どおり承認し、代議員会、総会に上程することで了承

6. 各委員会、研究研修会の開催報告について

報告を了承

7. 医療保険審議会の開催報告について

2月24日の開催報告を了承 河北博文副会長出席

8. 四病院団体連絡協議会の開催報告について

1月27日の看護小委員会、2月25日の総合部会報告を了承 諸橋芳夫会長、伊藤研常任理事出席

9. 全国病院団体連絡協議会設立準備会西日本地区会議への出席報告について

2月10日岡山市で開催された会議の概要報告を了承 諸橋芳夫会長出席

10. 内科系学会社会保険連合第77回例会の開催報告について

2月8日の例会で平成5年度の医療費改定に関しての要望作成等報告を了承 伊賀六一

委員長出席

11. 日露医学医療交流財団理事回の開催報告について
2月17日の出席報告を了承 諸橋芳夫会長出席
12. 国際医療技術交流財団の理事会・評議員会合同開催の報告について
2月23日の開催報告を了承
13. 診療報酬改定説明会の実施について
3月2日神戸市、3月4日東京での開催を了承
14. 代議員の交代について
平成4年6月～5年2月間の交代報告を了承
香川県・大林 幸（キナシ大林病院）
茨城県・石岡 国春（水戸協同病院）
岩手県・金谷 春之（北上済生会病院）
愛知県・青山 健夫（青山病院）
大阪府・川合 弘毅（若草第一病院）
京都府・藤田 洋一（公立南丹病院）
東京都・高 畠 弘（都立台東病院）
15. 役員の退任について
有沢常任理事の辞任届を承認、計5名の理事欠員に伴い補欠選挙を実施することで了承
16. 事務局職員の採用について
下記職員の採用を承認
2月15日付 林 素子（企画調整課配属）
17. 診療報酬改定について
4月実施の診療報酬改定について特定機能病院、療養型病床群の点数設定の内容説明、
中医協の動向報告を了承
18. 医療費、医薬品について
医療費の動向、伸び率の動向報告のほか、外国人治療未払いの現状、薬価の価格交渉状
況報告等を了承
19. 医療法改正について
改正医療法の政省令告示、療養型病床群の諸解説等を了承
20. 医療制度、医療保険制度について
平成5年度厚生省予算の概要説明、社会保障制度審議会の検討内容報告等を了承
21. 老人保健制度、老人保健施設について
人口動態統計、老人保健福祉マップ、老人保健施設の調査概要報告を了承

22. 病院経営について

平成3年度地方公営企業決算報告、NHKスペシャル「病院再建」に対する諸橋会長の意見書説明とNHKからの回答説明、その他病院経営に関する実態と資料説明を了承

23. 医師、看護婦について

認定医制度、日医会員数の現状報告を了承

24. エイズ、院内感染について

エイズ対策本部の記者会見報告、今後の対策報告を了承

25. 理事の補欠選挙について

理事欠員（公・4名、私・1名）に伴う選挙告示(案)の紹介、実施を了承

26. 3月代議員会・総会の開催日程について

3月27日の開催要領を了承

代議員会・総会 14:50～15:50

特別講演会 16:00～17:00

「今回の診療報酬改定と今後の方向について」

厚生省 保険局 医療課長 篠崎英夫 氏

常任理事会

第1回常任理事会

H4. 4月25日(土) ダイヤモンドホテル

第1回理事会と合同開催（理事会参照）

第2回常任理事会

H4. 5月23日(土) 日病会議室 出席者36名

1. 医療費問題について

今回の診療報酬改定の影響率を役員（理事以上）の所属病院に実施した調査結果報告、今後は社会保険老人保健、医療経済両委員会、統計調査部会、医事研究会での調整を図り今後の対応を推進することです承

2. 医療制度、医療法の改正について

厚生省通知の保険（医療）給付と重複する保険外負担の是正に関する概要説明、東京都が実施した外国人医療費と行旅病人取扱法適用、公立病院の使命として諸橋会長が「地方公営企業としての公立病院」を執筆し、使命、また、民間病院においては、法人格（特定法人）を取得し社会福祉法人並の税制優遇を図るべきとの内容報告を了承

3. 老人保健制度、老人保健施設について

老人保健施設の実態報告、今後の医療と福祉の関連を重要視し、慎重に検討、対処することです承

4. 看護問題について

日本看護協会調査の「離職ナースの就業意向調査報告」概要説明等を了承

5. 病院税制について

現状報告を了承

6. 病院経営について

聖路加国際病院の新築オープン紹介ほか病院経営の実態報告を了承

7. 常任理事の補充について

常任理事1名の欠員に伴い後任として瀬田克孝理事を選任することを承認し、6月期理事会上程です承

8. 会員の入退会について

正会員入会3件、賛助会員退会1件を承認

(5月23日現在 正会員2,442会員、賛助会員418会員)

9. 各種制度委員会の委嘱について

委員構成(案)を検討し原案を承認

10. 各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 第21回日本病院設備学会の後援名義使用

依頼先：日本病院設備協会

2. '92(第6回)企業フィットネス賞の協賛名義使用依頼

依頼先：(社)日本経営協会

3. 第4回「国民の健康会議」の協賛方依頼について

依頼元：全国公私病連盟

4. 日本医師会委員の推薦について

病院機能評価検討委員会

被推薦者：河北博文副会長

5. (財)日本医療食協会理事再任依頼について

依頼先：諸橋芳夫会長

6. (財)医療機器センター専門委員会の推薦依頼について

委員会名：メンテナンスシステム委員会

被推薦者：瀬田克孝理事

11. 平成4年度社会貢献表彰候補者の推薦について

下記4名の推薦を承認

1. 藤 間 弘 行 藤間病院名誉院長
 2. 横 田 しづ子 豊橋市民病院総看護婦長
 3. 栗 田 静 枝 元、聖路加国際病院診療記録管理室長
 4. 赤 坂 守 保 総合病院旭中央病院副看護部長
12. 各種制度委員会及び研究研究会の開催報告について
開催報告を了承
 13. 顧問議員団との朝食会開催報告
5月7日に開催し、医療法改正、診療報酬改定等本会の意見説明、要望報告を了承
 14. 顧問との懇談会開催報告について
5月22日の開催報告として医療費問題、医療法改正の現状についての情報交換等の報告を了承
 15. 今後の医薬品流通の取り扱いについての懇談会開催報告について
5月18日に医薬品業界との懇談会を実施し今後の医薬品流通の取り扱い等の意見交換報告を了承
 16. 報道関係者との懇談会開催報告について
5月20日に医療費改定等の現状等につき論説委員（朝日、読売、毎日新聞）との懇談報告を了承
 17. 四病院団体連絡協議会の開催報告について
4月28日の総合部会、5月20日の看護小委員会報告を了承
 18. 看護業務見直し改善事業の実施について
厚生省の看護業務見直し改善事業の実施に伴いモデル実施病院として総合大雄会病院、聖路加国際病院、天本病院、河北総合病院が本会から指定された旨の報告等を了承
 19. 病院診療報酬体系作成委託研究会の報告について
病院診療報酬体系作成委託研究会（委員長：西村周三氏）から今後の診療報酬のあり方（総括）が提出され内容説明を了承
 20. 病院長・幹部職員セミナーの開催について
8月1日～2日の開催要領を了承
 21. 日本病院会政治連盟の活動状況について
衆参同時選挙を想定し、今後の活動対策を役員各位に要請し了承

第3回常任理事会

H4. 6月17日(休) ホテルニューオータニ大阪

第2回理事会と合同開催(理事会参照)

第4回常任理事会

H4. 7月25日(土) 日病会議室 出席者38名

1. 会員の入退会について

正会員入会6件、正会員退会1件、賛助会員入会3件、賛助会員退会3件を承認
(7月25日現在 正会員2,445会員、賛助会員420会員)

2. 短期人間ドック、自動化健診実施施設の指定について

下記施設の指定を承認

(短期人間ドック実施施設)

1. 神奈川県・茅ヶ崎中央病院(59床、指定2床)

(自動化健診実施施設)

1. 静岡県・静岡東部健康管理室

2. 東京都・アジュール竹芝総合健診センター

3. 神奈川県・茅ヶ崎徳州会総合病院健康管理センター

3. 平成4年度第1四半期収支決算、監査報告について

報告を承認

4. 平成5年春の叙勲、及び褒章候補者の推せんについて

該当者がなく今回は推薦しないことでした

5. 厚生省等各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 政管健保における健診事業のあり方に関する検討委員会委員の推薦について

依頼元: 社会保険庁

依頼先: 笹森典男(牧田総合病院副院長)氏

2. 災害弱者利用施設等防災安全対策検討会委員の推薦依頼について

依頼元: 消防庁予防課

被推薦者: 岡山義雄顧問(前任と同様)

3. 病院等マニュアルにおける火災避難用保護具検討委員会委員の推薦依頼について

依頼元: (財)日本消防設備安全センター

被推薦者: 岡山義雄顧問(前任と同様)

4. 防災製品不及分科会委員の推薦依頼について

- 依頼元：(財)日本防災協会
被推薦者：倉持一雄（防災対策部会委員）氏
- (5) 病名ファイル開発委員会委員の推薦依頼について
依頼元：(財)医療情報システム開発センター
被推薦者：山内一信（名古屋大学医学部教授）氏
- (6) 第14回フード・ケータリングシンポジウムの協賛依頼について
依頼元：(社)日本能率協会
- (7) 第5回「子どもに無煙環境を！全国キャンペーン」の後援名義使用依頼について
依頼元：子どもに無煙環境を推進協議会
- (8) コージェネレーションシンポジウム'92（第8回）の協賛依頼について
依頼元：日本コージェネレーション研究会
- (9) '92医業経営国際セミナーの後援依頼について
依頼元：医療経営財務協会
- (10) 第27回健康強調月間に対する協力依頼について
依頼元：健康保険組合連合会
- (11) 「死亡診断書等検討委員会」の委員推薦依頼について
依頼元：厚生省大臣官房統計情報部長、厚生省健康政策局長
被推薦者：瀬田克孝常任理事
6. 各種委員会、研究研修会の開催報告について
報告を了承
7. 医療審議会の開催報告について
6月26日、7月17日の開催報告を了承、7月29日の開催時には大学病院関係者から特定機能病院に関する意見拝聴を予定している旨の現状報告等を了承
8. 四病院団体連絡協議会の開催報告について
6月25日の看護小委員会、6月30日の総合部会の開催報告として、病院団体連合(盟)創設の提唱(案)を次回の総合部会で検討する旨の報告を了承
9. 「理事長・院長会」の講演について
京都私立病院協会からの講演依頼があり7月18日に諸橋会長が「最近の医療問題」と題したの講演報告を了承
10. 外国人患者の治療費未払の要望書提出について
7月17日に四病院名による要望書を厚生、外務、法務各省に提出した旨の報告を了承
11. 医療費問題について
医療費の現状、改定影響報告、今後の診療報酬のあり方（西村周三委員長）の発表報告

ののち、会として国民、医療関係者が納得する医療制度の確立、診療報酬の抜本的改正等を推進してゆくこと了承

12. 医療制度、医療法の改正について

医療法改正案が6月19日の衆参本会議で可決、成立し、厚生省は7月1日付で各都道府県あて医療法の一部改正通知をしている旨現状報告、社会保険審議会が医療保険審議会と改組され病院団体からの委員選出を図るため運動展開している現状報告を了承

13. 老人保健制度、老人保健施設について

政府の生活大国五カ年計画の中に長寿福祉社会構築への高齢者保健福祉推進十か条戦略、保健・医療福祉の連携、医療施設機能の体系化、医療保険制度の総合的検討等が盛り込まれている現状から会としてもこれらの諸問題を適切に対処してゆくこと了承

14. 看護問題について

看護職員生涯教育検討委員会の動向報告等を了承

15. 病院税制について

日医が厚生省に提出した税制改正要望事項の概要説明を了承

16. 病院経営について

医療経営実態調査報告の一部内容説明、病院と周辺産業の収益率比較状況、看護婦不足の実態報告等を了承

17. エイズ対策について

厚生省のエイズ対策状況、病院職員の安全確保を図るため各病院の実態調査を図りながら河北副会長と旭中央病院臨床検査技師長により実態、対策等のとりまとめを行うこと了承

第5回常任理事会

H 4. 8月22日(土) 日病会議室 出席者34名

1. 会員の入退会について

正会員入会 8件、正会員退会 4件、賛助会員退会 3件を承認
(8月22日現在 正会員2,449会員 賛助会員417会員)

2. 自動化健診施設の指定について

下記施設の指定を承認

1. 東京都・東京中央放射線診療所
2. 東京都・働三越厚生事業団 三越健診センター

3. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 医療保険審議会委員の推薦
依頼元：日本医師会
依頼先：河北博文副会長
2. 検体検査院内委託委員会委員の推薦
依頼元：厚生省
被推薦者：清瀬潤新東京病院院長（臨床予防医学委員会委員）
3. 医療機器保守点検委員会委員の推薦
依頼元：厚生省
被推薦者：高橋勝三常任理事
4. 老人福祉施設倫理綱領策定本委員会委員の推薦
依頼元：全国老人福祉施設協議会
依頼元：河北博文副会長
5. 救急フェア '92の後援名義使用依頼
依頼元：(財)日本救急医療研究・試験財団
6. 第3回アジアメディカルショウの後援名義使用
依頼元：(株)日本工業新聞社
4. 各委員会、セミナーの開催報告について
報告を了承
5. 医療審議会の開催報告について
7月29日の会議での政省令事項、特定機能病院（医師のカウント、外来紹介率）問題等の現状報告を了承
6. 四病院団体連絡協議会の開催について
7月29日、8月21日の総合部会、7月27日の看護小委員会報告を了承
7. 中医協医療経済実態調査に関する見解について
平成3年6月医療経済実態調査（医療機関調査）を分析した結果、△1.6%の赤字現状、他産業と一般病院との経常利益率等大幅に下回っている現状から、医療費改定の経済的裏付けとなっていない事を指摘し国民へ正しく理解してもらうため8月3日に厚生省記者クラブで本会の見解発表等を了承
8. 救急病床の効率的運用のあり方に関する研究について
厚生科学研究の補助を受け本年度は「救急病床の効率的運用のあり方に関する研究」を実施することを了承
9. 事務局職員の4週7休実施について
9月からの実施を了承

10. 医療費問題について

8月1日、2日開催の病院長・幹部職員セミナーにおける、「今回の医療費改定の主旨と今後の方向」の講演内容を基に医療供給体系の見直し等今後の課題を検討、西村周三京大経済学部教授による病院診療報酬作成検討会報告として、病院体系に合った点数設定の必要性、病院経営の財源問題等の概要報告、引き続き病院経営の健全化を図るため診療報酬改定を強力に推進することで了承

11. 厚生省医療保険審議会の発足について

医療保険審議会の施行にあたり本会から河北副会長を推薦することで了承

12. 医療制度、医療法の改正について

医療法改正の概要報告ののち、特定機能病院、療養型病床群の機能等につき役員各位の意見拝聴で了承

13. 老人保健制度、老人保健施設について

老人病院の入院医療管理病院状況、介護機能の適正評価等の現状報告、意見拝聴で了承

14. 看護問題について

看護婦養成の実態報告、偏在、実態等を掌握し今後対策を講じることで了承

15. 病院税制について

現状報告を了承

16. 病院経営について

国立病院・療養所の経営改善策の概要説明、厚生省の評価指標（経営管理、医療管理事項）の明確化提言説明等を了承

17. エイズ対策について

エイズ等対策委員会の今後の方針としてガイドライン、マニュアル等の作成等を了承

第6回常任理事会

H4. 9月19日(土) 日病会議室 出席者25名

1. 会員の入退会について

正会員入会1件、賛助会員入会1件、賛助会員退会5件を承認

(9月19日現在 正会員2,450会員 賛助会員413会員)

2. 短期人間ドック実施施設の指定について

下記施設の指定を承認

1. 京都府・京都四条病院(60床、指定2床)

3. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 保守管理・流通に関するワーキンググループの検討メンバーの委員推薦
依頼元：厚生省薬務局医療機器開発課
被推薦者：塩山雅英（聖路加国際病院医事課長）
2. PAN-PACIFIC FORUM ON RESPIRATORY CARE 1993 における顧問就任と後援依頼について
依頼元：医工学治療研究会呼吸器分科会
依頼先：諸橋芳夫会長
3. 医療廃棄物処理講習会の協賛依頼について
依頼元：社団法人 日本臨床衛生検査技師会
4. 平成4年度臨床検査月間の協賛名義使用依頼で
依頼元：社団法人 日本衛生検査所協会
5. メディカルインフォメーション '92の後援名義使用依頼
依頼元：医事コンピューター協議会
6. '93シニア／シルバーライフ総合フェアの協賛依頼
依頼元：日本工業新聞社
7. 秋田県病院大会の後援依頼
依頼元：社団法人 秋田県病院協会
4. 各委員会、研究研修会の開催報告について
報告を了承
5. 医療審議会の開催報告について
開催報告を了承
9月9日 諸橋芳夫会長、大道 学常任理事出席
6. 医療保険審議会の開催報告について
開催報告を了承
9月4日 河北博文副会長出席
7. 四病院団体連絡協議会の開催報告について
9月1日の看護小委員会、16日の医療制度委員会報告を了承
8. 学会の開催報告について
第33回日本人間ドック学会、第18回日本診療録管理学会の報告を了承
9. 中国医療施設視察団の報告について
8月31日～9月11日実施の施設視察報告を了承
10. 厚生省医療機器保守点検委員会の開催報告について
役員各位への問題点、意見提出依頼で了承、高橋勝三常任理事出席

11. 医療費問題について

平成5年度厚生省予算概要要求の内容説明、国民医療費の現状、医療費の診療別構成（平成2年は病院59.8%、診療所27.4%、歯科を除くと病院69%、診療所31%）等の現状報告を了承

12. 医療制度、医療法の改正について

9月9日開催の医療審議会報告として医療法に係る政令・省令事項骨子(案)、紹介患者の取扱いについての基本的考え方、既存病院からの内容説明、特定機能病院の選定、療養型病床群への転換に際しての病床面積、人員配置に関しての意見拝聴

このほか医療保険審議会の動向報告を了承

13. 老人保健制度、老人保健施設について

平成5年度厚生省予算概算要求での高齢者対策、福祉対策費の概要説明、高齢者保健福祉推進十カ条戦略の推進状況報告を了承

14. 看護婦問題について

厚生省予算概算要求での看護職員の養成等確保対策の現状、本会が自民党全国組織委員会へ提出した「看護婦養成所にかかる補助金増額」の内容説明、このほか厚生省看護業務検討委員会の動向報告、看護婦不足の現状報告を了承

15. 病院税制について

厚生省がまとめた「平成年度税制改正」の概要報告を了承

16. 病院経営について

医療機関の倒産現状報告と厚生省が検討している医療経営専門官の設置と経営指標についての現状報告を了承

17. エイズ対策について

医療関係者の安全対策を努めながら今後も推進してゆくことで了承

18. 病院団体の団結について

本会役員会での病院団体連合(盟)の創設経緯説明、提案を了承し11月期理事会、3月代議員会、総会に上程することを了承

第7回常任理事会

H4. 10月24日(土) 日病会議室 出席者28名

1. 会員の入退会について

正会員入会4件、正会員退会1件、賛助会員入会5件、賛助会員退会4件を承認
(10月24日現在 正会員2,453会員 賛助会員414会員)

2. 平成4年度第2四半期一般会計、特別会計の収支報告、監査報告について
収支報告、監査報告を了承
3. 日本診療録管理学会の新役員について
名誉会員4名、監事1名、評議員10名の推薦を承認
4. 役員業務分掌の一部変更(案)について
下記異動を承認

(新)

- ・医療制度委員会 委員長：伊賀六一 委員
 - ・日本医師会 病院機能評価委員会 委員：河北博文 副会長
5. 各団体からの依頼について
下記依頼を承認
 1. 日本健康科学センター設立構想の発起人依頼
依頼元：千葉県医師会
依頼先：諸橋芳夫会長
 2. 第5回公開討論会「民病研フォーラム '92」の後援依頼
依頼元：民間病院問題研究所
 6. 各委員会、研究研修会の開催報告について
報告を了承
 7. 医療保険審議会の開催報告について
開催報告を了承
10月7日 河北博文副会長出席
 8. 医療審議会の開催報告について
開催報告を了承
9月22日、10月14日、19日、21日 諸橋芳夫会長、大道学常任理事出席
 9. 四病院団体連絡協議会の開催報告について
10月8日の看護小委員会を開催し、①看護(士)充足のための病院間格差の是正に関する要望、②看護婦等医療従事者の採用時留意事項に関する要望等の協議、検討報告を了承
 10. 平成5年度税制改正要望書の提出について
平成5年度税制改正要望事項をまとめ、9月21日に自由民主党、政務調査会、全国組織委員会あて提出した旨の報告を了承
 11. 丹野清喜先生の叙位叙勲について
10月16日の閣議で勲四等旭日小綬章の受章が決定し、19日に厚生省顧問室で伝達式の実施報告を了承

12. 勲日本顕彰会平成4年度社会貢献者被表彰者の決定について

下記3名の表彰決定報告を了承

藤間 弘行 (埼玉県・藤間病院名誉院長)

横田 しづ子 (愛知県・豊橋市民病院看護婦長)

栗田 静枝 (元 聖路加国際病院診療記録管理室室長)

13. 海外医療施設団の日病訪問について

下記2件の訪問報告を了承

10月14日 スウェーデン(ストックホルム県)医療施設団(26名)

10月23日 中国吉林省衛生局長をはじめ医療衛生体制考察団(7名)

14. 事務局職員の10年表彰について

表彰式の実施、報告を了承

表彰者: 高橋 彦太郎(入社 昭和57年10月)

15. 事務局幹部職員の人事異動について

報告を了承

10月1日付

総務課長 西沢 孝洋

企画調整課長 中谷 一美(広報課長兼務)

16. 厚生省看護業務検討委員会の開催報告について

10月19日に開催し、勤務体制の見直しの問題点と基本的考え方等の検討報告を了承

河北博文副会長出席

17. 台湾病院協会第25回定時総会への出席報告について

9月25日の定時総会出席報告を了承 依田忠雄副会長出席

18. 中国病院視察の開催報告について

報告を了承

8/31~9/11の日程でハルピン、西安、北京等の4施設の病院視察報告を了承

19. 日本医師会医業経営検討委員会の開催報告について

開催報告を了承 伊藤研常任理事出席

20. 医療費問題について

中医協の診療報酬基本問題小委員会の検討内容報告、全国公私病院連盟発表の「平成4年診療報酬及び薬価基準改定影響率調査」の影響率分析報告、参議院決算委員会での山下厚相の保険医療問題答弁等の報告を了承

21. 医療制度、医療法の改正について

10月21日の医療審議会で検討した「改正医療法に係る政令、省令及び告示案要綱」の各

事項の内容説明、大学病院の医療費問題としての教育、研究費のあり方等の附帯決議等の報告を了承

22. 老人保健制度、老人保健施設について

老人保健施設の現状報告等を了承

23. 看護問題について

日本看護協会が実施した「病院看護基礎調査」の内容報告等を了承

24. 病院税制について

日本医師会が自民党税制調査会に提出した税制措置意見書の内容説明を了承

25. 病院経営について

諸橋会長が病院経営環境の実態につき執筆し週刊「エコノミスト」に破綻の危機に直面する病院経営として掲載され、その内容説明、日赤病院の決算状況報告等を了承

26. エイズ対策について

厚生省新規事業のエイズストップ作戦の概要報告と会として医療関係者の安全対策等の推進強化実施等を了承

27. 平成5年度事業計画(案)について

新規事業として、「日本病院会の事業のあり方とそれに伴う諸規程に関する事項」を追加した第一次(案)を承認

第8回常任理事会

H4. 11月28日(土) ダイヤモンドホテル

第3回理事会と合同開催(理事会参照)

第9回常任理事会

H4. 12月16日(土) 番町グリーンパレス 出席者35名

1. 会員の入退会について

正会員入会1件、賛助会員入会1件、賛助会員退会2件を承認

(12月26日現在 正会員2,457会員 賛助会員412会員)

2. 自動化健診施設の指定について

下記2施設の指定を承認

1. 東京都・南赤坂クリニック

2. 京都府・(叻)京都パストゥール研究所 付属京都パストゥール診療所

3. 平成5年度短期人間ドック・自動化健診料金の契約について

短期人間ドック利用料は62,000円を標準料金、自動化健診料金は各施設からの申請料金

で契約した報告を承認

4. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 第35回成人病予防週間の後援依頼

依頼元：厚生省

2. レセプト電算処理システム基本マスターに関する懇談会委員派遣依頼

依頼元：日本医師会

依頼先：三宅浩之委員長

3. 第1回ジャパンメディカルオープン卓球選手権大会後援依頼

依頼元：日本メディカル卓球連盟

5. 事務局職員のベースアップについて

実施を承認

6. 各委員会、研究研修会の開催報告について

報告を了承

7. 医療保険審議会の開催報告について

平成5年度予算における国民健康保険の対応についての開催報告を了承

12月21日 河北博文副会長出席

8. 看護業務検討会の開催報告について

看護業務見直し改善事業視察、検討事項の整理等の報告を了承

12月14日 河北博文副会長出席

9. 医療機器保守点検検討委員会の開催報告について

医療機器分類(案)の紹介説明を了承

高橋勝三常任理事出席

10. 四病院団体連絡協議会の開催報告について

12月10日の看護小委員会、12月21日の総合部会報告を了承

11. エイズ等対策委員会報告書の記者発表について

12月1日、3日に医療関係紙、一般紙へエイズ等対策委員会報告書の記者発表報告を了承

12. 特定治療材料の安価設定に関する要望について

ペースメーカーの購入価格が円の為替相場と連動していない現状、業者の一方的な価格で販売され医療費の高騰に連がっている現状から定価設定の要望実施報告を了承

13. 自民党の平成5年度予算に対する要望ヒアリングについて

社会保険診療報酬の改善に必要な経費、病院の増改築に伴う資本費用に対する公共投資

を含めた公的補助、看護婦等養成所に係る補助金確保の事項を12月10日全国組織委員会、政務調査会あての要望実施報告を了承

14. 平成5年度の学会進捗状況について

下記学会の進捗状況報告を了承

1. 第43回日本病院学会（小山田 恵 学会長）

日 時 平成5年6月17日(木)～19日(土)

場 所 岩手県・盛岡市・岩手県民会館

2. 第34回日本人間ドック学会（佐藤 祐造 学会長）

日 時 平成5年8月26日(木)～27日(金)

場 所 愛知県・名古屋市・名古屋市中小企業振興会館

3. 第19回日本診療録管理学会（岡 益尚 学会長）

日 時 平成5年9月9日(木)～10日(金)

場 所 大阪府・大阪市・大阪国際交流センター

15. 診療報酬改定（影響、今後の方向）について

中医協、全員懇談会の現状報告、特定機能病院、療養型病床群の設置に関する診療報酬改定の現状報告等を了承

16. 医療費、医薬品について

平成2年の国民医療費の流れとして制度区分別、財源別、分配現状、医療費体系の現状報告を了承

17. 医療法改正について

特定機能病院、療養型病床群等に係わる政省令事項の内容説明を了承

18. 医療制度、医療保険制度について

厚生省 赤松健康政策局長、篠崎医療課長が述べている「医療供給・医療保険の動向と課題」の内容報告等を了承

19. 老人保健制度、老人保健施設について

厚生省発表の平成3年社会福祉施設の概況報告等を了承

20. 病院経営について

病院経営に関する現況報告と民間病院における看護婦不足の実態につき意見交換を了承

21. 病院税制について

自民党社会部会の税制改正要望事項の概要説明を了承

22. 医師、看護婦について

日医の勤務医構成比率の紹介、公営企業決算概況から見た医師、看護婦等の職種別給与実態報告を了承

23. エイズ、院内感染について
エイズ等対策報告書の記者会見内容、対策本部設置に伴う今後の活動報告を了承
24. 外国人患者の医療費問題について
四病団名による外国人患者の治療費未払いの要望実施報告、各役員所属病院の実態報告を了承
25. 平成5年度事業計画について
第二次(案)の紹介、説明があり承認され2月期理事会に上程することで了承
26. 平成5年度予算(案)について
研究研修会の実態報告、来年度は研究会のあり方等を検討、平成6年の日本病院学会、1HF汎地域会議に伴い会員各位への寄付協力等実施報告を了承
27. 役員の業務分掌、外部派遣委員の一部変更について
登内真副会長の就任、宮崎柏常任理事の退任に伴う業務分掌等の一部変更を承認
28. 病院船構想検討委員会の設置について
中山太郎前外務大臣から依頼のあった病院船構想の紹介、協議され、早急に委員構成を図り推進することで了承
29. 平成5年秋の叙勲候補者の推薦について
北村行彦常任理事を推薦することを承認

第10回常任理事会

H5. 1月23(土) 日病会議室 出席者32名

1. 会員の入退会について

正会員入会3件、正会員退会1件、賛助会員入会2件を承認、全国自治体病院協議会に入会している中小病院に対して入会勧誘の実施報告を了承

(1月23日現在 正会員2459会員 賛助会員414会員)

2. 短期人間ドック実施施設の指定について

下記施設の指定を承認

1. 広島県・西広島リハビリテーション病院(病床数150床、指定2床)

3. 平成4年度第3四半期一般会計、特別会計の収支報告及び監査報告について

収支報告、監査報告を承認

4. 各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 「所内研究評価委員会」の委員委嘱依頼

依頼元：国立医療・病院管理研究所

依頼先：河北博文副会長

2. 医家向け医療用具流通近代化協議会（仮称）の委員委嘱依頼

依頼元：厚生省 薬務局

依頼先：諸橋芳夫会長

3. ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム '93の協賛名義使用依頼

依頼元：社団法人 日本能率協会

5. 各委員会、研究研修会の開催報告について

報告を了承

6. 医療保険審議会の開催報告について

1月20日全員懇談会を開催し、厚生大臣諮問の「国民健康保険制度の改正要綱」の検討報告、次回審議会では公的医療保険の役割、保険給付の範囲・内容等の検討項目の紹介がありました承 河北博文副会長出席

7. 第45回日本病院学会の開催について

岡本道雄（神戸市立中央市民病院長）氏を学会長とし兵庫県での開催を承認

8. 診療報酬改定（影響、今後の方向）について

改正医療法に対応した特定機能病院、療養型病床群の診療報酬問題と財源問題等を協議し了承

9. 医療費、医薬品について

厚生省保険局発表の「最近の医療費の動向（9月分）」による医療費、受診率等の説明、抗生物質の適正使用についての意見交換があり、岡崎常任理事、岩崎参与により適正使用をまとめることで了承

10. 老人保健制度、老人保健施設について

平成3年現在の老人保健施設（総数、主体別）現状報告を了承

11. 病院経営について

本会会計経理研究会がまとめた平成3年度病院経営収支状況、厚生省の新規事業である医療機関経営健全化対策検討委員会、医療法人制度検討委員会の設置状況とその問題点を協議、NHKにスペシャル「病院再建」に対する意見拝聴後、誤解なき放映内容の配慮を願うためNHK川口会長あて意見書を提出することで了承

12. 病院税制について

自民党税制調査会の「平成5年度税制改正大綱」の内容報告等を了承

13. 医師、看護婦について

日医会員数の現状、推移についての報告、厚生省の医療関係者審議会保健婦助産婦看護婦部会が厚生、文部両大臣から「看護婦等の確保を促進するための措置に関する基本的な

指針」についての諮問を受け、看護婦等の夜勤負担軽減に関する表現の一部修正をし、ほぼ原案どおり答申した旨の現状報告を了承

14. エイズ、院内感染について

エイズ管理料等エイズ患者の診療費用確保についての要望書を厚生省あて提出、会員病院にエイズの診療、検査体制の現状を掌握するため緊急アンケートを実施している現状を了承

15. 平成5年度事業計画(案)について

平成5年度の研究会実施を教育委員会で実施しており、2月期理事会には調整、修正し上程することで了承

16. 平成5年度予算(案)について

エイズ担当者の人件費、IHF地域会議の予算、病院経営相談室の設置等の諸経費を加味し2月期理事会に上程することで了承

17. 理事の補欠選挙について

理事4名の欠員により2月27日に選挙告示、3月27日の代議員会での選出を了承、公的病院の欠員については推薦母体より選出を図ることとし選挙管理委員会を設置し委員構成を承認

(委員構成)

公 的 池 谷 亘 (元常任理事)

〃 戸 川 潔 (元監事)

私 的 田 所 昌 夫 (東京・河北総合病院院長)

〃 三 宅 浩 之 (病院幹部医会副会長)

中 立 井 出 健 (日病事務局長)

18. 病院長・幹部職員セミナーの開催について

8月7日(土)、8日(日)に東京で開催し企画に関しては登内真副会長が担当することで了承

19. 事務局職員の採用について

下記職員の採用を承認

2月15日付 林 素子 (企画調整課へ配属)

20. 第43回日本病院学会の進捗状況について

概要報告を了承

第11回常任理事会

H5. 2月27日(土) ダイヤモンドホテル

第4回理事会と合同開催 (理事会参照)

第12回常任理事会

H 5. 3月27日(出) 日病会議室 出席者31名

1. 会費の入退会について

正会員入会 2件、正会員退会 7件、賛助会員入会 4件、賛助会員退会 4件を承認
(3月27日現在 正会員2,454会員 賛助会員415会員)

2. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 「エイズ治療の拠点病院のあり方に関する検討会」委員の委嘱依頼

依頼元：厚生省保健医療局長

依頼先：河北博文副会長

2. 第17回日本プライマリ・ケア学会組織委員会顧問の委嘱依頼

依頼元：千葉県医師会

依頼先：諸橋芳夫会長

3. 評価認定制度委員会 院内清掃部会の委員推薦依頼

依頼元：(財)医療関連サービス振興会

被推薦者：河北博文副会長

4. (財)医療経済研究機構の設立発起人依頼

依頼元：厚生省

被推薦者：登内真副会長

5. 平成5年度「看護の日」及び「看護週間」の協賛依頼

依頼元：厚生事務次官

6. 「第1回中四国メディカルショー」の後援依頼

依頼元：広島県医科器械組合、日本工業新聞社

7. 糖尿病の臨床疫学に関する国際ワークショップの後援依頼

依頼元：糖尿病の臨床疫学に関する国際ワークショップ組織委員会

8. 第42回日本理学療法学会の後援依頼

依頼元：(社)全国病院理学療法協会

3. 各委員会、研究研修会の開催報告について

報告を了承

4. 医療審議会の開催報告について

改正医療法関係の経緯、特定機能病院の承認等の事務についての報告を了承

3月17日 諸橋芳夫会長 大道学常任理事出席

5. 医療保健審議会の開催報告について
 全員懇談会の概要報告を了承
 3月11日 河北博文副会長出席
6. 看護業務検討会の開催報告について
 看護業務検討会報告書(案)の概要説明を了承
 3月22日 河北博文副会長出席
7. 医家向け医療用具流通近代化協議会の開催報告について
 開催報告を了承
 3月4日 諸橋芳夫会長出席
8. エイズ治療の拠点病院のあり方に関する検討会の開催報告について
 開催報告を了承
 3月18日 河北博文副会長出席
9. 全国病院団体連絡協議会設立準備会東日本地区会議への出席報告について
 開催報告を了承
 3月3日 諸橋芳夫会長他出席
10. 病院診療報酬の緊急改定についての要望について
 厚生省、国会議員への改定要望、実施報告、記者会見の開催報告を了承
11. 理事補欠選挙の立候補状況について
 理事5名の立候補者の紹介、3月27日の代議員会で選出を審議することで了承
 (公的)
 秋田県・林 雅人・厚生連・平鹿総合病院
 東京都・伊賀六一・済生会・東京都済生会中央病院
 大阪府・武田 惇・済生会・大阪府済生会泉尾病院
 (私的)
 神奈川県・加藤英夫・その他法人・国際親善総合病院
 大阪府・岸口 繁・医療法人・府中病院
12. 日本病院会代議員会・総会に於ける会長挨拶の要旨について
 協議事項13～21の事項については、挨拶要旨の中で解説をしているため省略
13. 診療報酬改定について
14. 医療費、医薬品について
15. 医療法改正について
16. 医療制度、医療保健制度について
17. 老人保健制度、老人保健施設について

18. 病院経営について
19. 医師、看護婦について
20. エイズ、院内感染について
21. 病院団体連合について
22. 平成5年度社会貢献表彰候補者の推薦について
推薦者がある場合は事務局あて連絡することで了承
23. 5月代議員会・総会の開催日程について
北川参与の特別講演を了承
5月22日(土) 特別講演：国立医療・病院管理研究所 北川定謙所長
講演テーマ：「病院経営上の諸問題について」

第3 委員会・部会

1. 医療制度委員会

1. 開催回数 10回
2. 出席者数 111名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 病院開設主体の検討
 - 2) 医療法改正について
 - 3) 改正医療法の政省令について
 - 4) 医療制度委員会の今後のあり方
 - 5) MRSA対策のマニュアル作成について
 - 6) インフォームド・コンセント検討小委員会について
 - 7) 病団連について
 - 8) 病院類型化の方向について
 - 9) 医療審議会の報告について
 - 10) 看護業務検討会について

4. 総 評

「病院開設主体の検討」の関係法令について黒木延氏、「医療業の組織とその所得課税制度の現状」について公認会計士の後藤氏、「MRSA」については、慶応義塾大学の近藤健文氏とそれぞれレクチャーをいただき議論を行った。

また、7月の医療法改正について医療審議会大道委員に加わっていただき検討を重ねた。誠に残念なことは、長年当委員会の委員長を務められた、丹野清喜先生が急逝された。後任として、伊賀委員が就任され、委員会が進められている。

2. 統計調査部会

1. 開催回数 9回
2. 出席者数 60名（延べ人数）
3. 協議項目
 - 1) 平成4年診療報酬改定による影響率調査の実施および集計について
 - 2) 本年度調査予算について
 - 3) 本年度調査について（公私病院連盟との協力調査）
 - 4) 療養型病床群に関する委託調査について
 - 5) 来年度統計調査の検討について

4. 総 評

本年度は、例年どおり「平成4年病院実態分析調査」を実施し「病院概況調査報告書」としてまとめた。

また緊急調査として「診療報酬改定による影響率調査」（結果をまとめ冊子とした）と「療養型病床群に関する調査」を実施した。

なお、来年度に「病院経営実態調査」を実施するにあたりワーキング委員を選出し具体的検討に入った。

3. 医療事故対策部会

1. 開催回数 7回
2. 出席者数 43名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 委員の選出について
 - 2) 7月開催のセミナー計画
 - 3) 11月開催予定のセミナー計画
 - 4) セミナーのプログラム計画
 - 5) 神戸開催セミナーの反省
 - 6) 平成5年度のセミナーの開催計画
 - 7) セミナーの計画について

4. 総 評

本年度も「医療紛争防止のためのセミナー」の企画を中心に進められた。

医療事故になる以前の事例として情報収集の必要性も出され、今後の検討課題。

4. 防災対策部会

1. 開催回数 5回
2. 出席者数 36名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 第12回防災セミナーの結果について
 - 2) 来年度防災セミナーの開催について
 - 3) スプリンクラー設置義務に対し、部会の対応について
 - 4) 消防庁等各団体からの委員推薦依頼について

4. 総 評

今年度は釧路沖地震が発生、来年度は関東震災70年目にあたり部会の話題は大規模災害における病院の対応に多くの時間を割いた、また、スプリンクラーの設置義務があと2年以内となり設置が遅々としてすまない現状から防災部会各委員の苦汁がひしひしと感ずる。

5. 労務・福利厚生・用度部会

本年度は教育委員会傘下の研究会の活動に委ね、委員会としての開催はなかった。

6. 給食委員会

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 7名
3. 協議項目
 - 1) 病院給食に対する日本病院会としての意見調整
 - 2) 全国給食協同組合連合会からの要望について
4. 総 評

厚生省医療保険審議会での病院給食に関する内容で、①患者のサービス選択の幅の拡大について、②保険外負担について、どう考えるかについて意見をまとめることとした。

7. 勤務医委員会

病院幹部医会のセミナーである、「病院医療の質を考えるセミナー」プログラム企画立案を行った。

8. 教育委員会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 67名
3. 協議項目
 - 1) 4月7日(火) 3時～6時 ダイヤモンドホテル
 - ①研究会に関する事項
 - ・研究会目標について
 - ・研究会委員長業務について
 - ②教育委員会に関する事項
 - 2) 10月2日(金) 3時～5時 日本病院会
 - ①平成5年度研究会実施計画基本方針について
 - 3) 10月19日(月) 2時半～5時 日本病院会
 - ①平成5年度研究会開催計画(案)について
 - 4) 3月18日(木) 3時半～5時半 ダイヤモンドホテル
 - ①平成4年度研究会(セミナー)開催報告について
 - ②平成5年度研究会(セミナー)開催計画について

4. 総 評

研究会開催に当たり、今までそれぞれの研究会の自主性を尊重し行ってきたが、今後の本委員

会の方針として、指導力を推進し、各研究会が将来に向けて確かな展望をもって運営できるように、企画し調整することとなった。又、役員会、研究会委員、事務局の三者が協調して意見交換を行い、研究会活動に取り組むことになった。

9. 通信教育委員会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 13名
3. 協議項目

第1回 4月14日(火)午後6時30分～9時00分 日本病院会 役員室

- 1) 診療録通信教育講師・教科書の検討
- 2) 事務長養成課程通信教育講師教科書の検討
- 3) 通信教育委員の検討
- 4) 講師会開催日程

第2回 9月25日(月)午後1時～3時 日本病院会 会議室

- 1) 診療録通信教育試験合否判定について
卒業試験 受験者98名 合格者75名 不合格者23名
進級試験 受験者69名 合格者65名 不合格者4名
認定者累計1,751名
- 2) 第37回診療録管理士認定証授与式開催について
10月24日(土)午後5時30分～ 東京ダイヤモンドホテル
- 3) 国際医療管理専門学校滋賀校の編入指定校申請について
2年次編入校指定申請については今回は保留とし次期通信教育委員会で検討する。
- 4) 診療録管理通信教育用教科書について
診療録管理室運営の教科書については、各地区担当講師陣によりレジメをもとに統一教科書を作成する。
- 5) 事務長養成課程合否判定について
第14回生1年次後期 受験者17名 合格者17名
第14回生1年次前期追試験 受験者2名 合格者0名
- 6) 事務長養成課程講師交替について
 - ・左奈田 幸 夫（診療管理担当）
 - ・上 林 三 郎（病院物品管理担当）講師辞退の申し出があったので交替を検討する。

第3回 11月13日(金)午後1時～3時 日本病院会 会議室

1) 国際医療管理専門学校滋賀校の編入指定校申請について

開講したばかりで実績がなく時期尚早である。

来年4月以降に1年間の実績の提出を求め改めて審議とすることになった。

2) 2年次編入試験結果について

受験者210名 合格者171名 不合格者 39名

なお、編入試験について次のことを決定した。

- ・編入指定校の該当科目講師は診療録通教試験出題者であってはならない。指定校の講師を行う場合は他の者に試験問題作成を依頼する。
- ・今後試験問題は毎年同一にならないよう留意する。

3) 2年次編入指定校の基準について

川崎医療福祉大学医療情報学科(4年制)から編入指定校申請の申し出があったが、今回は編入試験資格とし、今後の実績をみたくうえで認定試験資格としていくかを検討することとした。

4) 通信教育カリキュラム見直しについて

診療録通信教育は開講20年、事務長養成課程は、15年を経過し見直す必要が出てきたため、カリキュラム検討小委員会を設置することになった。

第4回 3月23日(火)午前10時～12時 日本病院会 会議室

1) 診療録管理通信教育合否判定について

卒業試験 受験者105名 合格者82名 不合格者23名

進級試験 受験者 62名 合格者58名 不合格者 4名

認定者累計1,833名

2) 第38回診療録管理士認定証授与式開催について

4月24日(土)午後5時15分～ 東京ダイヤモンドホテル

3) 事務長養成課程通信教員合否判定について

第14回生 2年前期 受験者12名、合格者12名

第15回生 1年前期 受験者 7名、合格者 6名

なお、不合格者は次回スクーリング時に不合格の科目のみ追試を行う。

4) 講師交替について

退任 左奈田幸夫(診療管理)、後任は小委員会にて科目検討中のため当面、岩崎 榮委員長が担当する。

10. 臨床予防医学委員会

1. 開催回数 5回（常任委員会4回、人間ドック実施認定委員会1回）
2. 出席者数 69名（延出席者数）
3. 協議項目
 - (1) 白血球について
 - (2) 梅毒検査について
 - (3) 短期人間ドック実施認定委員（実査委員）の補充について
 - (4) 「人間ドック実施認定委員会議（実査委員会義）」の開催について
 - (5) 短期人間ドック実施指定内規について
 - (6) 「健康医学」Vol. 7 No. 2 1992. 7（原著論文集）発行について
 - (7) 日本人間ドック学会 平成4年度・平成5年度の事業計画(案)・一般会計収支予算(案)について
 - (8) 臨床予防医学委員会報告（平成4年版）について
 - (9) 社会保険庁「政管健保における健診事業のあり方に関する検討会」の報告について
 - (10) 日本臨床化学会よりの承認依頼について
 - (11) 検体検査院内委託委員会委員の推薦について
 - (12) 平成5年度短期人間ドック契約料金について
 - ① 短期人間ドック契約料金について
 - ② 自動化健診契約料金について
 - ③ 健保連からの申し入れ事項について
 - (13) 短期人間ドック検査項目及び判定基準値について
 - (14) ヘルス展委員会委員委嘱依頼について
 - (15) 保健叢書（やさしい保健シリーズ）制作について
 - (16) 平成4年度「健康医学」の発行について
 - (17) 臨床予防医学委員会新委員の委嘱について
 - (18) 短期人間ドック・自動化健診契約料金について（報告）
 - (19) 短期人間ドックの指定について
 - (20) 第34回、第35回日本人間ドック学会について

4. 総 評

本年度の当委員会活動は、検討する事項が山積みとなり非常に多忙をきわめた1年であった。

毎年、健保連と協議し改訂している短期人間ドック（1泊2日）実施料金は、内外の事情を考慮してC型肝炎の検査項目を追加するため現行料金の値上げを交渉したが、平成5年度については平成4年度と同様、「62,000円を標準料金とする」という契約で妥結した。

医療機関だけではなく、ドック受診者に対する啓蒙活動の一環として、一昨年から「やさしい保健シリーズ」を刊行しているが、本年度は「胆のう・すい臓のはなし」の執筆者が決まり、来年度5冊目の刊行を目ざし準備を進めることとなった。

従来、健康保険組合連合会との短期人間ドック並びに自動化健診の実施料金改訂の協議については、毎年、日病側と健保連側の主張にへだたりがあり難行するため、一定の料金算出方式を導入するべく、「人間ドック認定小委員会」を設置し健保連側と協議・交渉をしていくこととなった。

既指定施設については、指定当時とはすでに内容が変更されているケースも多く、年1回の実態調査を実施し再チェックすることとした。また、新規指定については、申請のあった時点で「人間ドック認定小委員会」で内容を検討したのち、各地の実査委員へ立入調査を依頼するダブルチェックを実施し、質の良い医療機関を指定していくこととなった。

最後に、長年当委員会活動にご尽力いただいた藤間弘行先生（藤間病院名誉院長）が急逝されましたことに対し、ご冥福をお祈りいたします。

11. 社会保険・老人保健委員会

1. 開催回数 10回
2. 出席者数 81名（延べ人数）
3. 協議項目
 - 1) 税金問題について
 - ① 相続税（医療法人社団・個人）
 - ② 法人税（減価償却等）
 - ③ 所得税（所得控除を中心に）
 - ④ 間接税
 - ⑤ 地方税
 - ⑥ 事業税
 - ⑦ その他
 - 2) 診療報酬改定について
 - ① 平成4年改定の内容の分析
 - ② 次回改定の要望（%の提示・項目別点数含む）
 - ③ 改正医療法との関連について
 - ④ 病院の外来のあり方とその診療報酬（診療所とどう違うのか）
 - ⑤ 給食の問題について
 - ⑥ 医療廃棄物の問題について
 - ⑦ その他

3) 医療費の体系について

- ① 出来高払いと定額制
- ② 技術料とホスピタルフィー（運営コストと資本コスト）
- ③ 地域格差と公私格差
- ④ 病院の外来の在り方について
- ⑤ 付添看護の問題について
- ⑥ 薬剤の取り扱いについて
- ⑦ 福祉との関連について
- ⑧ その他

4) 財源について

- ① 社会保障の中での医療保険の在り方について
- ② 厚生省・自治省・地方自治体等公共投資の問題について
- ③ 自賠責等民間保険の問題について
- ④ 外国人の医療費について
- ⑤ 福祉との調整について
- ⑥ 給食の問題について
- ⑦ その他

5) 公的医療保険の役割と保険給付の範囲・内容について

6) 厚生省医療保険審議会のアンケート実施について

4. 総 評

平成4年度は4月から診療報酬の改定が実施され、つづいて医療法の改正の国会通過・施行に伴い特定機能病院、療養型病床群に診療報酬上の点数が明確化された。このような激動の中で、一委員会にて対応できない事項が多く医療経済（税制）委員会・統計調査部会と連携し合同委員会も開催しながら小委員会を中心に上記協議事項を検討している。

12. 医療経済（税制）委員会

- 1. 開催回数 6回（小委員会、合同委員会含む）
- 2. 出席者数 61名（延べ人員）
- 3. 協議項目
 - 1) 委員会運営のあり方について
 - 2) 医療費財源についての検討
 - 3) 平成5年度税制改正要望について
 - 4) 外国人患者の治療費未払いの件についての要望
 - 5) 社会保険診療報酬改定に伴う要望について

- 6) 税金問題について
- 7) 診療報酬改定について
- 8) 医療費の体系について
- 9) 財源について
- 10) 統計調査について
- 11) 診療報酬改定影響率調査票の結果について
- 12) 専門小委員会開催について
- 13) 診療報酬改定要望の検討
- 14) 現行診療報酬の矛盾点及び要望について

4. 総 評

今年度も9月に「平成5年度税制に関する要望」を自由民主党政務調査会税制調査会、全国組織委員会宛へ提出。

また、医用電子機器の耐用年数の実態調査を(株)日本医師会、(株)日本電子機械工業会、(株)日本放射線機器工業会との協力で実施。

委員会活動としては、統計調査部会、社会保険・老人保健委員会との合同で開催。意義ある会議をもてた。

13. 国際委員会

- 1. 開催回数 8回
- 2. 出席者数
- 3. 協議項目
 - 1) 今年度の海外視察ツアー企画
 - 2) 大阪・日病学会時のAHF関連行事(6/17~20)の経過報告
 - 3) JICA・長谷川医療課長より(株)日本国際協力システムのガーナ共和国「基礎機材整備計画」に関わる病院見学協力の要請について
 - 4) ロンドンIHFF汎地域会議(10/20、21、22)の参加報告(牧野IHFF副会長)
 - 5) 来年度委員会計画
 - 6) AHF定款改正案(牧野AHF事務局長案)について

4. 総 評

今年も幅広い活動が展開できた。

14. 組織委員会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 17名(延べ人数)
3. 協議項目 (1) 新入退会員の状況報告
(2) 会員病院の職員数調査について
(3) 「入会のすすめ」制作について
(4) 退会慰留と事後処理について
(5) 中小病院の勧誘について
(6) エイズ対策の中核病院問題
(7) 今後の組織拡大について

4. 総 評

組織の拡大について協議した。

本年度は、中小自治体病院の勧誘を実施し、数件の病院が入会しました。会員の退会慰留についても対応を重ね、成果をあげている。

会員数の把握が従来の病院・病床数調査に加え医師、看護婦等の職員数調査を実施し、6割近くの回答をえてこれを推計した。今後の日病組織対策として活用していく。

又、「入会のすすめ」のリーフレットも一新し日病会員の増強のため委員会活動を継続する。

15. 学術委員会

1. 開催回数 11回
2. 出席者数 延べ98名、一回平均9名)
3. 協議項目 1) 日本病院会雑誌 '92 6月号～'93 5月号の編集について
2) 日本病院会雑誌 '92 7月号～'93 6月号の企画について
3) 英文誌「Japan Hospitals」No. 11の編集及び刊行について

4. 「日本病院会雑誌」平成4年度('92 4月号～'93 3月号)

主要掲載記事

(4月号) 148頁

グラフ：第17回日本診療録管理学会

巻頭言：自由と規律(河北博文)

記事：講演 人を生かすもの(渡辺和子)

シンポジウム 医薬分業と病院薬剤師

(5月号) 160頁

グラフ：公立陶生病院

巻頭言：良い医療について思う（上田 侃）

記事：講演 看護婦不足解消への離職防止策と完全週休二日制の検討（伊藤 研）
シンポジウム 建値制導入と病院経営

（6月号）164頁

グラフ：新東京病院

巻頭言：第42回日本病院学会開催にあたって（有澤源蔵）

記事：講演 患者サービスのあり方（中山耕作）

講演 法医学からみた医療事故－診療録のはたす役割（福井有公）

（7月号）180頁

グラフ：松波総合病院

巻頭言：第33回日本人間ドック学会に向かって（長崎 彬）

記事：講演 佐賀医科大学における診療録管理の理念と実際（只野寿太郎）

シンポジウム 委託業者からみた病院の問題点

（8月号）184頁

グラフ：日鋼記念病院

巻頭言：第18回日本診療録管理学会の開催にあたって（山本修三）

記事：座談会 MSWの連携コーディネート機能と将来

研究論文 HIV感染をめぐる米国のリスクマネジメント（浜島信之）

銷夏随筆（61編）

（9月号）148頁

グラフ：国際モダンホスピタルショウ

巻頭言：日病広報活動の更なる発展を（丹野清喜）

記事：調査報告 「日本文化」とは何か（河野 稔他）

医師をめぐる贈答の研究（中野 進）

（10月号）168頁

グラフ：藤沢市民病院

巻頭言：総合病院の存廃（小山田 恵）

記事：シンポジウム 臨床試用医薬品の取扱について

MRSA感染について（清水喜八郎）

医療関連サービス産業の実態（赤城真寿美）

（11月号）180頁

グラフ：第42回日本病院学会

巻頭言：生活大国にふさわしい厚生（医療）行政を願う（依田忠雄）

記事：座談会 第42回日本病院学会を顧みて

講演 エイズの動向と予防対策（曾田研二）

（12月号）188頁

グラフ：第33回日本人間ドック学会

巻頭言：日本病院学会大阪方式と病院管理（登内 真）

記事：全国集計成績－平成3年人間ドック・自動化健診－（笹森典雄）

研究論文 病院薬剤部運営上の一考察（早坂孝則他）

（1月号）160頁

グラフ：中国医療施設視察旅行

巻頭言：年頭所感－病院経営の健全化をめざして（諸橋芳夫）

記事：講演 医療の質について（岩崎 榮）

シンポジウム マスコミからみた病院への提言

中国医療事情視察印象記（小山田 恵）

（2月号）172頁

グラフ：小牧市民病院

巻頭言：厚生とは何か（高橋勝三）

記事：シンポジウム 看護学校運営をめぐる

エイズ等対策委員会報告書

（3月号）172頁

グラフ：大分県立病院

巻頭言：査定対策委員会（織本正慶）

記事：講演 看護業務の省力化（野尻昭代）

シンポジウム 医療法の改正と病院の対応

5. 総 評

(1) 日本病院会雑誌

ア. 一冊平均168頁で前年度（154頁）に比しかなり増加した。

これは、セミナー・研究会等関係者からの積極的な資料提供に負うところ大であり、協力に感謝したい。

イ. 「イタリア紀行（井上加代子）」6回、「病院図書室は今（図書研究会）」12回、「医学のルーツを尋ねて（星 和夫）」8回 等、連載が出来たことは特筆すべきことで、執筆者の努力に感謝申し上げる。

ウ. 銷夏随筆は61編の寄稿があり、例年なみであった。

(2) 英文誌

Japan Hospitals No. 11は、12編98頁で例年なみに発刊できた。

16. 広報委員会

1. 開催回数と出席者数（のべ人数）

- ① 委員会 6回・34人
- ② 座談会 1回・5人
- ③ 記者会見 3回

2. 協議事項

(1) 委員会

- ① 日病ニュースの企画・編集について
「中小病院コーナー」創設とレギュラー・スタッフ選定及び紙面構成の検討
- ② 対外的広報活動のあり方
活動対象や方法など継続的に論議
- ③ 「日病ニュース読者アンケート」の企画

(2) 座談会

新春座談会1月1日号掲載、諸橋芳夫会長、河北博文副会長、大道学常任理事、須藤祐司理事、(司会) 廣田耕三広報委員長

(3) 記者会見

- ① 「エイズ対策本部設置」
- ② 「エイズ対策本部、会員アンケートの結果報告及び相談窓口設置について」
- ③ 「病院診療報酬の緊急改定についての要望」

3. 総 評

1) 日病ニュースの発行

平成4年度は第432号(4月10日)～453号(3月25日)と号外(4月1日)を含む計23回の発行となった。4ページ建て20回、8ページ建て2回、12ページ建て(号外)1回と、ほぼ例年並みの発行であった。

4月1日の診療報酬改定に伴い、恒例の「質疑応答100問集」(号外)を発行、改定点数の算定の手引きをめざした。

6月の第2次医療法改正を受けて、9月に特定機能病院及び療養型病床群を含む政省令事項の策定が行われ、翌2月には各々の診療報酬点数が確定されたが、本紙では大道学医療審委員及び岩崎栄医療制度委員を中心として改定の考え方を始め、療養型病床群の転床に伴う点数置き換え試算などを随時紹介、会員の理解につとめた。

さらに新春座談会で病院経営の安定化に関して改正医療法の流れを中心として、医療経済、医療文化、病院団体の役割などの観点で論議、病院の将来を展望した。

2) 対外的広報活動

12月1日に発足した日病エイズ対策本部の活動に関し、同対策本部報告書を提示するなど国民向けに2回の記者発表を実施。患者と医療従事者双方の人権の取扱いに対し、一般国民のコンセンサス獲得に課題も示されるなど、今後、慎重な取組みが求められることとなった。

17. 企画・規程検討委員会

1. 開催回数 6回
2. 出席者数 43名(延べ人員)
3. 協議項目
 - 1) 当委員会の使命と今後の活動方針について
 - 2) 農業共同組合の組織について
 - 3) 当委員会の名称変更について
 - 4) 当委員会としての日本病院会の今後の活動への提言について
 - 5) 事務局の土曜休みに伴う就業規則の見直しについて
 - 6) 当会事業と組織のあり方について
 - 7) 研究会、研修会の見直しについて

4. 総 評

第1回委員会において従来当委員会の活動は内部諸規程の検討であったが、当委員会の使命と今後の活動方針はどうあるべきかを検討した。当会には事業の見直し・調整を図る機関がなく社会の要請に即応した日本病院会のあり方、又、21世紀に向けての組織作りを検討する必要性が強いことから副会長(4名)の出席を仰ぎ委員会の方向、活動等に誤りなきような委員会の体制を図った。これに伴い、委員会名称も従来の諸規程検討委員会から企画・規程検討委員会と改称し当会の事業内容、組織の整理等を継続して検討を図ることとした。

事務局土曜休みに伴う就業規則の一部改正について

現 行	改 正
<p>(勤務時間)</p> <p>第9条 職員の勤務時間は、1週につき38時間とし、その割り振りは、月曜日から金曜日までは9時から17時まで、土曜日は9時から12時までとする。</p>	<p>(勤務時間)</p> <p>第9条 職員の勤務時間は、<u>土曜開催役員会の週は38時間とし、その他の週は35時間とする。</u> <u>その割り振りは月曜日から金曜日までは9時から17時まで、勤務する土曜日は9時から12時までとする。</u></p>
<p>(休 日)</p> <p>第11条 休日は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 日曜日</p> <p>(2) 国民の祝祭日（その日が日曜日に当たるときは、その翌日）</p> <p>(3) (略)</p>	<p>(休 日)</p> <p>第11条 休日は、次のとおりとする。</p> <p>(1) <u>土曜日、日曜日（役員会のある土曜日は除く）</u></p> <p>(2) 国民の祝祭日</p> <p>(3) (略)</p>

18. 中小病院委員会

1. 開催回数 5回
2. 出席者数 24名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 前回の活動状況報告
 - 2) 委員会の今後のあり方について
 - 3) 今後の活動方針について
 - 4) 診療報酬改定影響率調査
 - 5) 中小病院委員会の活動方針
 - 6) 他委員会との関連について
 - 7) 「中小病院のひろば」の計画
 - 8) 日病会員への働きかけの具体化
 - 9) 委員 故 牧 安孝氏の後任について

4. 総 評

日病会員中、約半数が中小病院であることを再認識、当委員会の責務の重大性から、十分に今後の委員会活動について検討。「中小病院のひろば」、「中小病院経営講座」を中心として、短・

中・長期の活動方針を決め以後具体化してゆく予定。

来年度からの活発な活動の計画を中心とした委員会活動であった。7月11日には日病常任理事と中小病院委員会委員計13名を集め、岩崎榮先生を囲んでの座談会を行ない、医療法改正について話し合いをもった。

〔部 会〕

1. 看護教育施設部会

常任幹事会

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 14名
3. 協議項目
 - 1) 平成4年看護学校運営に関する調査実施(10月)とまとめ
 - 2) 看護学校学生傷害保険について
 - 3) 看護教育における衛星放送構想について

全体会議

1. 開催回数 1回(5月21日)
2. 出席者数 45名
3. 協議項目
 - ① 平成3年看護学校運営に関する調査報告書について
 - ② 有田幸子日本看護協会長の特別講演「医療構造の改革の進展における看護教育の影響」
 - ③ 部会活動のあり方
 - ④ 四病団、日本看護協会とともに国立看護学校の専任教員を4名から7名への増員を働きかけ
 - ⑤ 平成5年度の看護養成所運営費補助の増額要請

4. 総 評

昨年に引き続き看護学校運営に関する調査を実施した。

アンケート結果より、看護養成所の運営所の問題点が多く、健全なる運営維持のために抜本的措置のため活動したい。

2. 老人保健施設部会

基礎資料の収集を行った。

3. 私的病院部会

1. 開催回数 5回

2. 出席者数 37名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 今後の活動について
 - 2) 私的病院の分類について
 - 3) 医療の公共性と非営利性について
 - 4) 私的病院の抱える問題点について
 - 5) 医療審議会活動報告
 - 6) 医療費の地域格差について

4. 総 評

今年度より新たに発足した当部会であるが、めまぐるしく変動する医療情勢に対し、柔軟に対応をし、私的病院のさまざまな問題に会合、活発な議論がもたれている。

〔特別委員会〕

1. 病院情報センター委員会

1. 開催回数 5回
2. 出席者数 68名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 病院情報システム・ガイドライン（標準機能仕様）の策定について
 - 2) 「レセプト処理システム基本マスタに関する懇談会」について
 - 3) 通信衛星システムについて

4. 総 評

昨年に引続き病院情報システムガイドライン（標準機能仕様）の策定を中心に、1泊委員会をも実施し、中間報告および今後検討すべき専門委員会設置に関する企画書の提示され、来年度には専門プロジェクトが発足する予定である。

2. 国際病院連盟汎地域会議関連委員会

運営委員会（高橋勝三委員長）

1. 開催回数 5回
2. 出席者数 21名（のべ人数）
3. 協議項目
 - ① 会議の叩き台をまとめた。
 - a. 開催日／1994年（平成6年）10月6、7、8日（木、金、土）開催。前日5日に会議登録、6、7日は本会議、8日はホスピタル・ビジット
 - b. 開催会場／横浜・パシフィコ
 - c. テーマ／ヘルスケア その理想と現実
 - d. 会議等について／

- ・公用語はメイン会場、分科会ともに日英の2カ国語とする。
- ・6日のウェルカム・パーティーは15年前の東京でのIHF国際会議を参考に入場無料で、内容は通常海外で行われる同パーティーの形式でクラッカーとお酒くらいの質素な形のものとする。
- ・7日のフェアウェル・パーティーは2案が候補としてあがり、A案は船上パーティー、B案はホテルでアトラクション付きのものとする。
- ・8日のホスピタルビジットは5コースとする。その内容は、精神、高度先進医療、老健施設、癌の各専門4コースと関西方面、特にボバース記念病院を含む1コース。
各コース、バス1台(定員40名)とし先着順とする。関西方面コースは交通費、宿泊費がかかると思われるのでこれのみ参加者より費用をとる。通訳については、前回IHF国際会議やAHFスタディーツアーに習い、国際委員会を中心とした適任者を随行させる。また、各病院での研修、見学の際の通訳は受入れ側でもらうこととする。
- e. 招待者について
 - ・IHF会長とIHF事務局長は招待する。
- f. 企業展示について
 - ・これに関する会場費用と収入は会議の収支と別の会計とする。
- g. DMについて
 - ・担当するコンベンション会社に約5千通ほどを国内外3回くらい発送委託する。
- h. PR活動について
 - ・明年度4月のスペイン・マドリードでのIHF総会で横浜開催の会場、横浜のPRビデオ放映とパンフレット配布を担当するコンベンション会社に依頼。

学術委員会(牧野永城委員長)

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 13名(延べ人数)
3. 協議項目 次の案がまとまった(3月15日現在)。

THEMES & SUBTHEMES (Draft lists for selection)
FOR 1994 IHF PAN-REGIONAL CONFERENCE

Theme: HEALTH CARE: IDEALS & REALITIES (*)

Subthemes:

- Private/Public Sector Debate (*)
- Social Service or Customer Service
- Health Care in Ruaral Areas & Developing Countires in Asia (Film and video) Poster session (*)
- Medical Litigation (*)
- International/Regional Differences in Medical Practices (Klim McPherson, University of Oxford, Department of Community Medicine and General Practice, Oxford, OX26HE, UK) (*)
- Bureaucracy in Governmental Hospitals
- Does Health Promotion save the Health Cost?
- Management Education in Asia (Health Service Management Education (**))
- New Trend in Quality Assurance, (Quality Assurance revisited)
- Social worker's role in hospitals
- Priorities and Rationing in Health Care (*)
- Contemporary Role of Traditional Medicine
- Design for Healing Environment (*)
- New Medical Technology
- Medical Collaboration in Disasters
- Foreign Workers in Hospitals
- Shortage of Nurses
- Human & Job Relationships in Hospitals
(Physicians, Nurses, Paramedics, Administrative staffs)

1994 IHF Pan-Regional Conference

Program draft #2

Plenary Session

1 Pl. Session 1

Opening Ceremony

(Presiden of JHA, IHF, JMA, Secretary of Health)

2 Pl. Session 2

Key-note Address #1 (From Asia)

(Dr. Hahn--WHO, Mr. Kuan Lee of Singapore, or?)

3 Pl. Session 3

Japanese Health Care System (Dr. Morohashi or Dr. Kawakita)

4 Pl. Session 4

Private/Public Sector Debate, chair (Mr. O'Leary?)

5 Pl. Session 5

Market Approach vs. Regulatory Approach to Health Care

6 Pl. Session 6

Key-note Address #2 (From Western Countries)

Priorities and Rationing in Health care

7 Pl. Session 7

Health Service Management Education

Concurrent Session

- International/Regional Differences in Medical Practice
- Design for Healing Environment
- Quality of Life in Geriatric Care Facility
- Specialization of Nurses
- Quality Assurance revisited
- Problems involved in Drugs
- Social Worker's Role in Hospitals

Poster Session

Health Care in Developing Countries in Asia

(Photographs from WHO & member countries of AHF)

	10/5	10/6 (Thur)	10/7 (Fei)			10/8
		Main Hall	Main Hall	2nd Hall	3rd Hall	
9:00	R	Opening Ceremony (9:00~10:00)	Plen. Sess. 3	Concurrent Session 1	Conc. Sess. 4	HOSPI- TAL VISITS
10:00	E G	Key-note Addr. 1 (10:00~10:40)	(9:00~10:30)	(9:00~10:30)	(9:30~10:30)	
11:00	I S T	Japanese Health Care System (10:45~11:30)	Plen. Sess. 4 (10:30~12:00)	Conc. Sess. 2 (10:30~12:00)	Conc. Sess. 5 (10:30~12:00)	
12:00	R	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	
1:30	A T	Plenary session 1 (1:30~3:00)	Plen. Sess. 5 (1:30~3:00)	Conc. Sess. 3 (1:30~3:00)	Conc. Sess. 6 (1:30~3:00)	
3:00	I	Break	Break	Break	Break	
3:15	O N	Pl. Sess. 2 (3:15~4:45)	Key-note Addr. 2 (3:15~4:30)			
5:00						
6:00	Welcome Reception (Folklore Prog.)	Banquet	Farewell Party			

以 上

組織委員会（河北博文委員長）

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 23名（のべ人数）
3. 協議項目

① 会議について

- ・正式名称は「国際病院連盟汎地域会議」とする。
- ・会期については、同年に行われる日病学会（諸橋芳夫学会長、10月4、5日開催）に引き続いて6日、7日、8日（木、金、土）の3日間。
- ・テーマ「ヘルスケア その理想と現実」
- ・ステイタスとして、第一候補に皇太子殿下、第二候補に秋篠宮殿下が挙げられた。
- ・この汎地域会議の学会長（プレジデント）は、諸橋会長。
- ・共催、後援については、前者にはIHF、後者には厚生省、日医としたい。
- ・参加者の対象は、医師・看護婦をはじめとする医療従事者。

- ・特別講演については、緒方貞子・国連難民高等弁務官などが挙げられた。
- ・通訳については、会期中はすべての会場で日英同時通訳を採用し、必要に応じて1日1会場で日英仏西の4ヶ国同時通訳をとり入れる。

② 運営について

- ・第44回日本病院学会と国際病院連盟汎地域会議は、インターグループ社に業務委託する。
- ・登録料については、過去のIHF諸会議や国際会議を参考に、IHF会員\$400/1名(約5万円)、その同伴者\$100/1名、非IHF会員\$500。
- ・ファーストアナウンスメントは、平成5年4月19日から23日、スペイン・マドリッドIHF総会開催の折に配布。セカンドアナウンスメントは、8、9月までにまとめ、各国へ11月に届くように予定。

③ その他

- ・IHF本部との窓口は必要に応じて牧野IHF副会長に依頼する。
- ・IHF会長とIHF事務局長は招待する。
- ・参加者の個人別ディスカウントはしない。

4. 総 評

平成3年度に発足された国際病院連盟汎地域会議準備委員会(河北博文委員長)より前記3つの委員会が設置され今年度10月1日から始動した。

準備委員会では、汎地域会議の構想を練ったが、各委員会ではより具体的に細部まで慎重にまとめている。

3. 国際モダンホスピタルショウ委員会

(1) '92国際モダンホスピタルショウ医療機器部会

日 時：平成4年4月8日(木)18:00~20:00

会 場：(株)日本病院会 会議室

議 題：企画展示の内容について

- ① 医療廃棄物の問題について
- ② 病院給食の問題について
- ③ 病院内における患者(職員)の健康管理について
- ④ 患者に対するサービスについて

企画展示のレイアウトについて

出席者：藤田良三部会長以下9名

(2) '92国際モダンホスピタルショウ医療情報部会

日 時：平成4年4月10日(金)15:00~16:25

会 場：(株)日本病院会 会議室

議 題：企画展示の具体的な内容について

出席者：里村洋一以下7名

(3) '92国際モダンホスピタルショウ企画委員会

日 時：平成4年4月17日(金)18:00~20:00

会 場：(株)日本病院会 会議室

議 題：出展申込状況報告

各部会報告

① 医療情報部会

② 医療機器部会

③ ホームケア部会

④ 国際部会

出席者：三宅浩之委員長以下8名

(4) '92国際モダンホスピタルショウホームケア部会

日 時：平成4年4月20日(月)18:00~19:40

会 場：(株)日本経営協会 会議室

議 題：特別企画展示内容について

国際シンポジウムについて

出席者：鷹野昭士部会長以下7名

(5) '92国際モダンホスピタルショウホームケア部会

日 時：平成4年6月8日(月)18:00~20:00

会 場：(株)日本経営協会 7階会議室

議 題：国内展示について

海外展示について

特別企画展示について

出席者：鷹野昭士部会長以下6名

(6) '92国際モダンホスピタルショウ企画委員会

日 時：平成4年7月28日(火)18:00~20:00

会 場：(株)日本病院会 会議室

議 題：今回の結果報告(中間)

各部会委員報告

① 医療情報部会

② ホームケア部会

③ 国際部会

第20回国際モダンホスピタルショウについて

出席者：三宅浩之委員長以下8名

(7) '93国際モダンホスピタルショウ

日時：平成4年9月28日(月)18:00～20:00

会場：(株)日本経営協会 7階会議室

議題：委員のご紹介と委嘱状の交付

今回の展示を振り返って

一般展示について

'93国際モダンホスピタルショウについて

出席者：鷹野昭士部会長以下9名

(8) '93国際モダンホスピタルショウ医療情報部会

日時：平成4年9月29日(火)17:00～19:00

会場：(株)日本病院会 会議室

議題：委員のご紹介と委嘱状の交付

'93国際モダンホスピタルショウについて

出席者：里村洋一部会長以下10名

(9) '93国際モダンホスピタルショウ企画委員会

日時：平成4年10月6日(火)18:00～20:00

会場：(株)日本病院会 会議室

議題：国際モダンホスピタルショウ合同企画展示について

出席者：三宅浩之委員長以下10名

(10) '93国際モダンホスピタルショウ医療情報部会

日時：平成4年10月22日(木)17:00～19:00

会場：(株)日本病院会 会議室

議題：'93国際モダンホスピタルショウ合同企画展示案にもとづく医療情報部会としての関わり方について

出席者：里村洋一部会長以下10名

(11) '93国際モダンホスピタルショウ諮問会議

日時：平成4年11月5日(木)18:00～20:00

会場：東京 八重洲ルビーホール

議題：'92国際モダンホスピタルショウ結果報告

'93国際モダンホスピタルショウ開催要領について

出席者：竹本吉夫以下12名

(12) '93国際モダンホスピタルショウ医療機器部会

日 時：平成4年11月17日(火)18：00～20：00

会 場：(社)日本病院会 会議室

議 題：'93国際モダンホスピタルショウ合同企画展示案にもとづく医療機器部会としての関わり方について

出席者：藤田良三部会長以下8名

(13) '93国際モダンホスピタルショウホームケア部会

日 時：平成4年11月26日(木)18：00～20：00

会 場：(社)日本経営協会 7階会議室

議 題：'93国際モダンホスピタルショウ合同企画展示案にもとづくホームケア部会としての関わり方について

出席者：鷹野昭士部会長以下12名

(14) '93国際モダンホスピタルショウ企画委員会

日 時：平成4年12月8日(火)18：00～20：00

会 場：(社)日本病院会 会議室

議 題：'93国際モダンホスピタルショウ合同企画展示案にもとづく各部会としての関わり方について

出席者：三宅浩之委員長以下10名

(15) '93国際モダンホスピタルショウ合同展示ワーキンググループ打合せ

日 時：平成4年12月24日(火)17：30～19：30

会 場：(社)日本経営協会 7階会議室

議 題：'93国際モダンホスピタルショウ合同企画展示について

出席者：鷹野昭士リーダー以下10名

(16) '93国際モダンホスピタルショウ合同企画展示ワーキンググループ打合せ

日 時：平成5年1月28日(木)17：30～19：30

会 場：(社)日本経営協会 7階会議室

議 題：合同企画展示の内容・方法について

出席者：鷹野昭士リーダー以下9名

(17) '93国際モダンホスピタルショウ医療情報部会

日 時：平成5年2月25日(木)18：00～20：00

会 場：(社)日本病院会 会議室

議 題：'93国際モダンホスピタルショウ合同企画展示について

出席者：里村洋一部会長以下10名

(18) '93国際モダンホスピタルショウ合同企画展示ワーキンググループ打合せ

日 時：平成5年2月26日(金)18:00～20:00

会 場：(株)日本経営協会 7階会議室

議 題：合同企画展示の内容・方法について

出席者：鷹野昭士リーダー以下5名

4. ヘルス展委員会

(1) '93ヘルス展企画委員会

日 時：平成4年10月26日(木)17:35～20:15

会 場：(株)日本経営協会 7階A会議室

議 題：'92ヘルス展結果報告について

'93ヘルス展について

① 開催要領

② スケジュール

出席者：須藤祐司委員長以下12名

(2) '93ヘルス展企画委員会

日 時：平成4年12月3日(木)17:35～20:15

会 場：(株)日本経営協会 7階A会議室

議 題：'93ヘルス展開催のご案内について

'93ヘルス展開催要項について

'93ヘルス展ガイドについて

出席者：須藤祐司委員長以下11名

(3) '93ヘルス展企画委員会

日 時：平成5年2月23日(火)17:30～17:40

会 場：(株)日本経営協会 7階A会議室

議 題：'93ヘルス展出展社募集状況について

ウェルネスクatalog'93について

'93ヘルス展企画展示および会場構成について

出席者：須藤祐司委員長以下5名

ホスピタルショウ・ヘルス展委員会

日 時：平成4年5月25日(月)15:00～

会 場：(株)日本病院会 会議室

ダイヤモンドホテル

議 題：今年のホテルショウ・ヘルス展開催について

その他打ち合せ、確認事項について

日本経営協会との顔合せ

出席者：丹野清喜副会長、大河内正陽理事長以下10名

5. エイズ等対策委員会

1. 開催回数 5回
2. 出席者数 59名（延べ人員）
3. 協議項目 1) 報告書の作成について
4. 総 評

8月よりエイズの問題について検討する委員会を急ぎょ発足。現場の医師、学識経験者、厚生省結核・感染症対策室、日本歯科医師会H I V調査検討委員会等を招集し、会合をもった。

現在社会的にも問題となっているエイズに対し、病院団体としても早急に着手、日病としての意見を11月16日に報告書としてまとめ、12月1日厚生省への要望と併せて記者発表を行なった。

この12月1日をもって以後の事業については、エイズ対策本部へ移行することとなった。

社団法人 日本病院会 エイズ等対策委員会報告書

—平成4年11月28日—

《エイズ等対策委員会》

(敬称略)

諸 橋 芳 夫	日本病院会	会長
河 北 博 文	日本病院会	副会長
(委員長) 瀬 田 克 孝	社会保険中央総合病院	院長
相 川 直 樹	慶応義塾大学	医学部救急部教授
岩 崎 榮	日本医科大学	医療管理学教授
大 江 健 二	国保旭中央病院	中央検査科医長
岡 崎 通	国立津病院	院長
菅 野 治 重	千葉大学医学部付属病院	検査部感染症部門講師
紀伊國 献 三	筑波大学社会医学系	医学社会学教授
島 田 馨	東京大学医科学研究所	付属病院長

田 所 昌 夫 河北総合病院 院長

(オブザーバー)

尾 崎 新 平 厚生省 保健医療局 結核・感染症対策室長

斎 藤 毅 日本歯科医師会
H I V 調査検討委員会 座長

嵯 峨 清 喜 嵯峨星野法律事務所 弁護士

高 柳 和 江 日本医科大学 医療管理学助教授

今日、エイズが大きな社会的問題となってきたことは世界各国共通の事実であり、日本も例外ではない。また、国家の問題であることと同時にエイズが国民一人ひとりの個人生活、家庭生活にも大きな影響を及ぼすことは周知の事実である。それは、一部特定の人々を対象にした特殊な疾患ではなく、性行為感染症（性病）として誰でもが感染の危険を持つ疾病であると同時に、エイズは現時点では致死的な病気であるからである。社団法人日本病院会は、国民に対し病院医療の充実と向上を計る観点から、本年エイズ等対策委員会を設置し検討を重ねて来たが、ここにその報告をまとめる。

この報告の第一の目的としてエイズの爆発的流行を阻止することが挙げられる。人類の生存に重大な危機をもたらすエイズの流行を未然に防ぐためには、病気に関する医学的解明や治療体制の確立が不可欠であることはいうまでもないが、それ以前に重要なこととして、まず、教育・啓蒙活動が普及、徹底されることが望まれ、次に、国民一人ひとりが自分自身H I V感染の有無を認識することであり、安心して検査を受けることができる体制を整備する必要がある。教育・啓蒙活動に関しては地域、職域、学校、家庭での活動が中心となるが、日本病院会としては病院を受診する人々に対し積極的にストップ・エイズ・キャンペーンを行い、エイズに対する人々の関心の高揚と、正しい知識の啓発、普及を行うとともにその受診者がH I V抗体検査を進んで受ける体制を早急に整備することとする。日本国内においても年間に数百万人程度の人を対象とした検査が行われる必要があり、エイズ検査の実施にあたっては実施機関の整備と経済的裏付けが不可欠となる。

検査を受けやすい体制づくりのためには受診者のプライバシーの保護を含み、社会的、個人的人権は全てに最優先し尊重されなければならない。また、インフォームド・コンセントが十分実践されることを徹底する必要がある。人権擁護と、相手が納得するまで説明が行われることは医療を提供する側の責任であることは勿論であるが、その対象となる人々の側にもしかるべき知識の保有とともに責任ある行動が期待される。

次に、医療を受ける側の人達と同時に医療従事者の安全と人権も保障されなければならない。そのため、医療機関内の感染予防に関する諸体制づくり、医療従事者本人の意志を確認する上での各人の自由の保証、それに加えて労働災害保険の整備等の充実が早急になされる必要がある。

日本病院会が今後速やかに実施する活動としては、ストップ・エイズ・キャンペーンに関しての窓口を設置し、さらに、H I V患者、感染者が安心して医療を受けることができるよう会員、非会員を問わず、まず全国二次医療圏ごとに中核病院を設置し、患者、感染者に対する医療を確保する。そのためには、職員の不安や偏見の除去及び院内感染防止のため、医療従事者への研修等を積極的に行う。また、職場でのH I V患者、感染者の差別を防止するためのガイドラインの策定についても検討していく。

以下に、各項目につき簡潔に必要な事項を列記するが、エイズへの対応は現代人のためであると同時に、次の世代への現代人の責任であるということを全ての人が認識することを期待する。

ストップ・エイズ・キャンペーン（一般用）

目 的

正しい知識の普及と検査受診の推奨等によりエイズの爆発的流行を阻止する

方 針

H I V感染の有無を自分自身による認識とその後の対応の充実

対 策

病院に受診した人々に対し積極的にH I V抗体検査を受けるよう働きかける

期 間

平成5年～6年の2年間

実施機関

全国の病院

対 象

病院外来・入院受診者（検査については希望者のみ）
（年間数百万人程度）

内 容

ポスターの掲示

パンフレットの配布

参 考 文 献

- 水野肇：エイズのなにが恐いのか：中央公論社 1992年
- Janssen, RS et al : HIV infection among patients in U. S. acute care hospitals. N Engl J Med 1992 ; 327 : 445-52
- Quinn, TC : Screening for HIV infection benefits and costs. N Engl J Med 1992 ; 327 : 486-488.
- Keys, CG : HIV-testing of dental students and faculty : benefits, detriment, and implications. Med Law 1990 ; 9 : 918-29.
- Gerberding, JL : Does knowledge of human immunodeficiency virus infection decrease the frequency of occupational exposure to blood? Am J Med 1991 ; 91(3B) : 308S-311S.
- 厚生省エイズサーベイランス委員会編集：H I V感染症診療の手引き1991年
- 特集：日本のエイズ対策 医療 1992 ; 8 : 18-57
- 浜島信之：H I V感染者をめぐる米国のリスクマネジメント
日本病院会雑誌 1992年8月号 第1203-1207頁
- Standards on occupational Exposure to Bloodborn Pathogens. Occupational Safety and Health Administration, Office of Publications, US Department of Labor, Washington, D. C. 20210 U. S. A. 1992
- Lubbert, PP : OSHA'S Bloodborne Pathogens Standard : Compliance in the Clinical Laboratory. American Society of Clinical Pathologists. 1992.
- 東京商工会議所：職場とエイズ：企業のエイズ対策の手引 1992年
- アフリカにおけるエイズの流行 畝 博 他 厚生指標 39 (10) 23-28, 1992

- Guidelines for Prevention of Transmission of Human immunodeficiency Virus and Hepatitis B Virus to Health-Care and Public-Safety Workers
US Department of Health and Human Services MMWR, 38 (S-6), 1989

- Guidelines for Prevention of Transmission of Human immunodeficiency Virus and Hepatitis B Virus to Health-Care and Public-Safety Workers
US Department of Health and Human Services MMWR, 40 (RR-8), 1991

- Current Approach to AIDS Control in the United States
マイケル・A・プロメ, 日本医科大学医学会講演より (1992年10月9日)

- Impact of HIV-sero positivity in Zambian surgical practice
L. Munkonge,
5th Japan-Zambia International Pediatric Conference, Tokyo, Oct. 1, 1992

- W I B A '92 第4章疾病・治療 エイズ: 日本医療企画

- 千葉県医師会雑誌 第44巻 第6号 医学の窓 救急医療とA I D S 1992年6月15日

- 抗H I V - 1 ないしH I V - 2 抗体陰性の新しいA I D S 様疾患に関する情報
Blood Bank Week July 24, 1992.
American Association of Blood Banks

- 米国に於けるA I D S の院内感染対策の現状および連邦政府の規則の概要
Klatt, EC : Practical AIDS Pathology. American Society of Clinical Pathologists. 1992.
PP. 87-96

- 「医療機関における感染症対策の実態についての研究」報告書
平成3年度厚生科学研究費補助金(特別研究事業)1992年3月

- 院内感染防止マニュアル-M R S A に注目して-
国立病院・国立療養所 院内感染防止マニュアル作成委員会

- 院内感染予防対策アンケート調査結果報告書
慶応義塾大学関連病院長会
- 病理学領域における感染防止対策（昭和63年9月）日本病理学会
- Guidelines for Prevention of Transmission of Human Immunodeficiency Virus and Hepatitis B Virus to Health-Care and Public-Safety Workers
A Response to P, L. 100-607 The Health Omnibus Programs Extension Act of 1988
U. S. Department of Health and Human Services
Public Health Service Centers for Disease Control Atlanta, Georgia February 1989
- The New England Journal of Medicine Copyright 1992, by the Massachusetts Medical Society
Volume 327 AUGUST 13, 1992 Number 7
- 企業は社会的見地からいかなる教育・啓蒙・対応をはかるべきか企業に求められる「エイズ予防・対策」研究セミナー
社団法人 日本能率協会
- エイズカウンセラー養成研修事業 — 研修会報告書 —
平成2年度（1990）財団法人 エイズ予防財団
- エイズ／STD（性行為感染症）ジャパニーズ・アウトリーチ・プログラム
Waikiki Health Center and medical clinic
- A Parent's Guide to AIDS JULY／AUGUST 1992
VOL. 1, NO. 3 SPECIAL REPORT HOME LIBRARY
- Universal Precautions
American Hospital Association

ストップ エイズ キャンペーン

エイズの予防は検査から
—自ら進んで検査を受けましょう—
大切なあなたと、あなたの家族と、あなたの友人の
安全と安心のために

あなたの人権やプライバシーは守られます

もしエイズ ウイルスの感染者
エイズの発病者と分かれば
十分なカウンセリングと
出来る限りの治療をお約束します

エイズの発症は規則正しい生活と
適切な薬剤の使用により
引きのばすことができます

予防教育も実施しています
窓口の担当者にご相談下さい

日 本 病 院 会

要 望 事 項

- エイズ予防法に則り感染者、患者、医療従事者の権利と責任を徹底する
- 病院におけるH I V抗体検査の公的費用負担
- カウンセリング、H I V抗体陽性者並びにエイズ患者の診療に関わる費用の十分な確保が必要
例えば、エイズ管理料等
- 観血的処置を要する患者群を中心にしてH I V抗体検査が必要と思われる場合にその検査に対し、
人権を尊重することを前提に、検査実施の妥当性を社会的、社会保険的に認めること
- 人間ドック並びに諸健診でのH I V抗体検査の実施を、人権を尊重することを前提に、積極的に推
進していく
- 医療従事者への労働災害保険の確立
- 病院職員の健康診断に、人権を尊重することを前提に、H I V抗体検査を加える

注) 人権を尊重するとは主にインフォームド・コンセントの実践、プライバシーの保護、任意性の
遵守をいう

エイズ対策本部

I. 本部会議

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 34名(延べ人員)
3. 協議項目
 - 1) 対策本部の業務内容検討について
 - 2) エイズ問題に関する世論動静について
 - 3) 緊急アンケートについて
 - 4) 今後の具体的活動について
 - ① 二次医療圏における中核病院について
 - ② 患者人権についての日本病院会としての取り扱いについて
 - ③ 相談窓口について

4. 総 評

緊急アンケートについては、回収、集計も済み、結果を中間報告として、2月15日に記者発表した。

相談窓口についても2月15日より開設、一般も含め受けを行っている。

二次医療圏における中核病院の整備、患者人権についての日病としての見解については検討中であり、インフォームド・コンセント検討小委員会を設置し、医療制度委員会と連携を図り対応。

A I D S の診療体制と検査体制について

緊急アンケート内容

(中間報告)

◎ 調 査 方 法

調 査 日	平成5年1月12日
対 象 者	日本病院会会員 2389病院
実 施 方 法	郵 送 (2月3日必着分までを集計)
有効回収数	842病院 (回収率35.2%)
回答者内訳	▼医 師86.8%、非医師10.0%、不明3.2% ▼院 長43.9%、事務長3.1% 副院長18.2%、事務職4.5% 他医師24.1%、総婦長1.6% 教授他研究職0.6%、パラメディカル0.8%

社団法人 日 本 病 院 会

質問と回答

現況について

I. インフォームド・コンセント（患者に対する医療側からの十分な説明とそれに対する患者の理解と納得）について

①エイズに限らず十分なインフォームド・コンセントを実施していますか

a. はい……………504件（59.9%）

b. いいえ……………28件（3.3%）

c. 場合により異なる……………309件（36.7%）

無回答……………1件（0.1%）

②（Ⅰ-①でcと回答した方について）エイズについて充分に実施していますか

a. はい……………90件

b. いいえ……………205件

無回答……………14件

Ⅱ. 検査について

①HIV抗体検査を行っていますか

a. はい……………615件（73.0%）

b. いいえ……………227件（27.0%）

②（Ⅱ-①でaと回答した方について）検査は十分なインフォームド・コンセントを実施の上で行っていますか

a. はい……………412件（67.0%）

b. いいえ……………35件（5.7%）

c. 場合により異なる……………165件（26.8%）

無回答……………3件（0.5%）

③（Ⅱ-②でaまたはcと回答した方について）

どのような場合に本人の意思に基づいて検査を行っていますか（複数回答可）

- a. 全来院者に対し積極的に勤めている…………… 4件
- b. 感染させる危険のある患者に対し勤めている…167件
- c. 疑いのある患者に対し勤めている……………379件
- d. その他……………167件

③-② (Ⅱ-③でbと回答した方について)

感染させる危険のある患者とはどのような患者ですか (複数回答可)

- a. 妊婦……………95件
- b. 手術予定者……………94件
- c. 緊急・救急患者……………28件
- d. その他……………24件

④ (Ⅱ-②でbと回答した方について)

どのような場合にインフォームド・コンセントなしに検査を行っていますか

- a. 全来院者に対し行っている……………0件
- b. 感染させる危険のある患者に対し行っている…34件
- c. 疑いのある患者に対し行っている……………53件
- d. その他……………30件

Ⅲ. HIV抗体陽性者並びにエイズ発症者への取扱いについて

①診療について (複数回答可)

- a. 自院で対応している……………126件
- b. 専門病院を紹介する……………365件
- c. 緊急時には対応する……………108件
- d. その他……………271件

①-② (aまたはcと回答した方について) 対応できる範囲はどこまでですか (複数回答可)

- a. 抗体陽性者への
 カウンセリング…………… 159件
- b. 抗体陽性者の
 発症遅延診療…………… 78件
- c. 抗体陽性者の
 他の症状への診療…………… 133件
- d. エイズ発症者の診療…………… 68件

①-③ (①-②でaと回答した方について) カウンセラーの構成メンバーは (複数回答可)

- a. 医師…………… 151件
- b. 看護婦…………… 53件
- c. MSW…………… 19件
- d. 臨床心理士…………… 6件
- e. その他…………… 5件

②感染予防対策委員会について

- a. 設置している…………… 554件 (65.8%)
- b. 設置を検討中である…………… 120件 (14.3%)
- c. 設置していない…………… 160件 (19.0%)
- 無回答…………… 8件 (0.9%)

③エイズに対しての院内感染防止マニュアルについて

- a. 作成している…………… 118件 (14.0%)
- b. 作成中である…………… 268件 (31.8%)
- c. その他…………… 413件 (49.1%)
- 無回答…………… 43件 (5.1%)

④エイズに関する知識教育について

- a. 実施している…………… 358件 (42.5%)
- b. 実施を検討中である…………… 271件 (32.2%)
- c. 実施していない…………… 209件 (24.8%)
- 無回答…………… 4件 (0.5%)

今後の対応について

IV. 日病のエイズ対策について

- ①日病のストップ・エイズ・キャンペーンについて
- a. 賛同する…………… 772件 (91.7%)
 - b. 賛同できない…………… 4件 (0.5%)
 - c. その他…………… 48件 (5.7%)
無回答…………… 18件 (2.1%)
- ②日病のエイズネットワーク (計画中) に参加
- a. する意思がある…………… 211件 (25.1%)
 - b. 検討中である…………… 512件 (60.8%)
 - c. しない…………… 119件 (14.1%)
- ③ネットワークの中核病院として活動
- a. する意思がある…………… 56件 (6.6%)
 - b. 検討中である…………… 628件 (74.6%)
 - c. しない…………… 158件 (18.8%)
- ④貴院が積極的にエイズに対応できない理由は (複数回答可)
- a. スタッフが足りない…………… 395件
 - b. 医師以外のスタッフの
理解が得られない…………… 91件
 - c. 設備が充分でない…………… 362件
 - d. 他の患者に与える
影響から躊躇する…………… 228件
 - e. エイズ診療は経済的
な負担が大きい…………… 108件
 - f. エイズ診療の経験が
なく自信がない…………… 332件
 - g. その他…………… 92件

V. 貴院職員への対応について

①院内職員の検査について十分なインフォームド・コンセントを実施の上

- a. 全職員に対し
 - 勧めている…………… 14件 (1. 7%)
- b. 感染の危険のある
 - 職員に対し勧めている… 68件 (8. 1%)
- c. 希望者のみ検査する……503件 (59. 7%)
- d. その他……………237件 (28. 1%)
 - 無回答…………… 20件 (2. 4%)

②院内職員がHIVに感染した場合の対処は、

- a. 感染前と同様に扱う……302件 (35. 9%)
- b. 患者に接しない部門に
 - 配置換えする……………155件 (18. 4%)
- c. その他……………332件 (39. 4%)
 - 無回答…………… 53件 (6. 3%)

VI. 侵襲性の処置が必要と思われる患者に対する検査のあり方について

- a. インフォームド・コンセントを
十分に実施した上で
 - できうる限り検査する…563件 (66. 9%)
- b. 検査を拒否した場合
 - 専門病院を紹介する……175件 (20. 8%)
- c. 全患者へ
 - 検査を実施する…………… 46件 (5. 4%)
 - 無回答…………… 58件 (6. 9%)

第 4 広 報

1. 日本病院会ニュースの発行

〈号数〉 〈発行日〉	〈主 な 記 事 内 容〉
号外 4月1日	診療報酬改定に伴う質疑応答100問集
432号 4月10日	1) 諸橋執行体制が4期目に 日病役員改選 副会長は中山・河北氏(再)丹野・依田氏(新) 常任理事は公的8名・私的11名 「日本病院会のめざすもの」会長4選の抱負(諸橋芳夫) 2) 次期役員が決まる 新理事の66氏、監事、議長等 3) 4年度日病予算の概要 総額8億7千万円で確定 4) 医療費改定状況を説明 代議院会・総会での諸橋会長 5) 公明党が意見聴取 日病に医療法問題で 6) 医療費改定で声明(四病団) 7) 中小病院サバイバル「ウラを読む時代ではなく流れに乗る時代だと思う」 8) 演題募集の要領 第18回診療録管理学会 9) 新局長に井出氏 日病・事務局
433号 4月25日	1) 523病院の将来像まとめる 日病院委員会調査 総合病院は機能保持 病院長・勤務医・MSWのデータ 機能集積・施設連携の状況 高い私的の外来志向 2) 「研究会規則」に協力要請 教育委員会で登内委員長説明 3) 「麻薬および向精神薬の取扱い方」 定例薬事管理研究会の質疑回答 4) 中小病院サバイバル「2年しかない診療報酬のイノチ・取れるものを取り、要求を出そう」 5) 中国医療施設の視察 8月・全自病協と共催で
434号 5月10日	1) 新役員の業務分担が確定 目配りきく体制に 医療制度・医療費対策に重点 日病委員会の所掌概要 2) 第42回日本病院学会来月に開催 一般演題過去最高の305題 本紙次号は「学会特集号」 3) 主潮「病院文化の構築を目指そう」 4) 3年度日病の活動報告

- 5) 中小病院サバイバル「病院経営も、治療ではなく予防が大事になってきた」
- 6) 診療録管理士73人を認定 日病の第36回通教修了生

435号 5月25日

- 1) 第42回日本病院学会開催へ 6月18日～20日、大阪で 学会長のご挨拶 (有澤源蔵) 一般演題の概要 5会場で305題発表 特別講演等プログラム
- 2) 病院経営の正常化 顧問議員団と論議
- 3) 経営悪化半数占める 「病院長アンケート」の分析
- 4) 中小病院サバイバル「認識のズレを評価するより中小病院のゴールの姿を鮮明に」
- 5) 聖路加国際病院を見学 日病の内科臨床協議会世話人会
- 6 「終末期医療の課題」4月・都支部の栄養管理者部会

436号 6月10日

- 1) 今後の診療報酬のあり方示す 日病委託研 抜本改正で指針 各論含む最終報告仕上げへ
- 2) 3年度事業・決算を承認 日病新体制初の代議院会・総会 「医療費改定の影響」日病総会で黒田氏講演
- 3) 主潮「92・4診療報酬改定の方向に思う」
- 4) 勤務医の開業困難に 日病の委員会調査分析(その3)
- 5) 各地のたより「デーケン教授と〈死への準備教育〉について」
- 6) 中小病院サバイバル「〈疑心暗鬼〉になるとなんにもできなくなる」
- 7) 叙勲祝賀会開く 財津氏、大道氏晴れて受章

437号 6月25日

- 1) 小児科等の新入局数の推移 日病調査 放射線、病理も集計 3科とも入局者は減少傾向に 放射線科も入局減 病理専攻は未だ少ない
- 2) 来年度予算へ要望 自民党に医療費等で
- 3) 日病の5年度予算要望
- 4) 日病が公取委へ質問 薬剤流通問題の見解を
- 5) ホスピタルショウ開催へ 池袋で来月9日から3日間 ヘルス展も連携で 目標は健康の総合ショウ
- 6) MSW本格化は今後 日病の委員会調査分析(最終回)
- 7) 中小病院サバイバル「民間も公的も〈公設民営〉の時代だ」

- 438号 7月10日
- 1) 「新時代の病院像」知恵と活力で 転換期の医療構築を 大阪・日本病院学会に6千人
 - 2) 医療法改正 焦点は政省令策定 日病・大道氏が審議会報告
 - 3) 中小病院サバイバル「疾病別固定・請負払い制度はこれからの流れの中に 確実にある!!」
 - 4) 業務改善策を検討」日病の用度研究会で
- 439号 7月25日
- 1) 「改正医療法」政省令策定へ着手 日病役員が検討会 日医大・岩崎氏迎えて概要を
 - 2) 外国人の未払い医療費 病院の負担軽減を行政に要望
 - 3) ホスピタルショウ盛況に 医療機能の向上に創意工夫
 - 4) 「苦悩する病院、何処かがおかしくないか」(諸橋会長)
 - 5) 「週休2日制の事例発表」日病・総務人事研究会で 「先進医療機器を見学」日病・診療システム研が
 - 6) 中小病院サバイバル「入院医療の必要・不必要で費用負担者・率が変わる!?!」
- 440号 8月10日
- 1) 一般病院総収支は1.6%の赤字 中医協調査を独自分析 病院経済の立場で日病が訴え 実態調査999病院を集計 日病見解を発表 病院経営データの少なさに疑問
 - 2) 病院長セミナー特集
 - 3) 主潮「多数協議型の医療を」
 - 4) 人間ドックの将来の役割 9月3・4日高知市で学会開催 主要プログラムの概要
 - 5) 第18回日本診療録管理学会も迫る 来月10・11日横浜市で開催 特別講演等の概要
 - 6) 「へりの救助活動を見学」日病・病院防災セミナーで
 - 7) 中小病院サバイバル「義理・人情は大事だが、もう少し、厳しさが必要」
 - 8) 通教修了生を認定 日病の事務長養成課程で
- 441号 9月10日
- 1) 「医療法」政省令事項を協議 日病常任理事会 特定機能を定義付け 療養型病床群は転床促進策
 - 2) 医療保険審議会に推薦 委員に河北副会長を
 - 3) 3年度日病健診活動を集計 着実な普及発展の推移も

- 442号 9月25日
- 4) 主潮「生活大国日本の医療」
 - 5) 「医療の質」の方向を課題 岩崎氏が日病セミナーで
 - 6) 中小病院サバイバル「療養型のケア・レベルはいろいろあることの重要性」
 - 1) 4月改定の影響は病院で格差 200・300床台会員速報報道 平均値以上は35% マイナス改定の病院が4割に
 - 2) 丹野副会長急逝
 - 3) 第33回日本人間ドック学会・高知 総合健診の課題を検討 会員の3年度健診活動を分析 日病・臨床予防医学委員会報告
 - 4) 診療録管理のあり方を模索 第18回日本診療録管理学会・横浜
 - 5) 中小病院サバイバル「何回にもなるが助成金に敏感に!!」
- 443号 10月10日
- 1) 医療審「政省令事項」の現況報告 大道委員が項目整理 紹介率曲折で答申に遅れ
 - 2) 診療報酬改定影響率を検討 日病・合同委員会を開催
 - 3) 「丹野副会長を悼む」(諸橋会長)
 - 4) 改正医療法に係る政令・省令事項骨子(素案)
 - 5) 高脂血症と食事療法 日病・都支部の栄養部会開く
 - 6) 「中国旅行を終えて」(日病・西沢総務課長)
 - 7) 中小病院サバイバル「医療法人の資金キャンペーンがどんどんできるよようにしていこう!!」
- 444号 10月25日
- 1) 医療保険審議会への期待と課題 河北委員が所信表明 病院の立場勘案した制度を
 - 2) 改正医療法 患者紹介率は30% 政省令事項を答申
 - 3) 平成5年度税制に関する要望
 - 4) 日病エイズ対策委が活発化 有効策と受け入れ指針作りを
 - 5) 「用度業務と電算化」を検討 函館で全国用度研究会開く
 - 6) スウェーデン病協が表敬訪問 来日の医療施設視察団25名が
 - 7) 中小病院サバイバル「〈非快適な職場〉なのに助成金の認定がない矛盾」
- 445号 11月10日
- 1) 「看護婦確保法」厚生省が概要説明 四病団総合部会 雇用推進者院内に潜在者対策柱に11月施行
 - 2) 医療審議会 第3次改正早急に 政省令事項の答申要項

- 3) 主潮「笛吹けども」
- 4) 政府補正予算 増改築へ大型補助金 病床数1割削減を条件
- 5) 第19回日本診療録管理学会、準備進む来年9月9・10日、大阪で開催
- 6) 通教修士75名を認定 第37回日病診療録授与式
- 7) 中小病院サバイバル「病院は社会への畏怖をお忘れなく！」

- 446号 11月25日
- 1) 根強い病院経営の「赤字基調」 3年度会員決算 大半が損益分岐圏突破 難局示す収益体質作り
 - 2) 日病・診療報酬改定影響率調査 200床以下の病院で格差に
 - 3) 「MRSA院内感染の防止策」日病・ハウスキーピング研で報告
 - 4) 中小病院サバイバル「公立病院と法人病院の競争条件を近づけられないか!？」
 - 5) 第34回日本人間ドック学会に着手 来年8月26・27日、名古屋市で

- 447号 12月10日
- 1) 顧問議員団懇談会 経営の窮状打開を論議 予算要望に理解示す 将来の抜本的制度作りを示唆
 - 2) エイズ防止の報告書発表 国民向けの対策本部設置も
 - 3) 主潮「原点にもどり理念を」
 - 4) 平成5年度予算に対する要望
 - 5) ICD-10導入大幅な遅れに WHOの電算ソフト目途立たず 早くて95年か
 - 6) 中小病院サバイバル「小規模老健施設は公設・民運営で中小病院が」
 - 7) 第43回日本病院学会の概要 来年6月17日・18日に盛岡市で

- 448号 1月1日
- 1) 新春座談会 医療の新時代を迎えて 病院経営環境の安定化を語る
 - 2) 年頭所感「病院経営の健全化をめざす」(諸橋会長)
 - 3) 日病エイズ対策本部が初会合 会員の緊急調査実施へ
 - 4) 療養型病床群 転換後の収支見通し 大道医療審委員の試算速報
 - 5) 中小病院コーナー「設置の趣旨と投稿のお願い」

- 449号 1月25日
- 1) 日病通信教育 事務長養成を手がけて15年 「院長の期待」背に特訓 病院管理学全般の履習を
 - 2) '93ホスピタルショウの概要発表 7月8～10日、恒例の東京池袋で '93ヘルス展も同時に

- 3) エイズ対策本部日より
- 4) 第19回日本診療録管理学会 演題申込み概要が決定
- 5) 宮崎柏氏の叙勲を祝う
- 6) 特定治療材料の定価改定を要望
- 7) 中小病院コーナー「民間病院の経営諸施策策定は、〈個人〉から〈仕組み〉へ」

- 450号 2月10日
- 1) 特定機能病院・療養型病床群、診療報酬点数が確定 中医協答申 転床後の収支が焦点 特定療養費制度拡充図る 大道医療審委員が解説 社会保険診療報酬及び老人診療報酬改定の概要
 - 2) 主潮「気になる〈患者不在〉」
 - 3) エイズ対策本部会議
 - 4) 「1月13日夜放送のTVを見て」(諸橋会長) NHKスペシャル病院再建――徹底解剖、経営の舞台裏――
 - 5) 四病団の要望書「社会保険診療報酬の緊急是正」「看護婦(士)充足のための病院間格差の是正」
 - 6) 中小病院コーナー「鍋の中の蛙」
 - 7) 「健診医学の使命と役割に期待」 第34回日本人間ドック学会の概要

- 451号 2月25日
- 1) エイズの診療拠点にまず56病院 会員調査結果 ネット参加は211件 強化へ「診療の不慣れ」克服も
 - 2) 「賛同の団体から結束を」 病団連準備会 2/10岡山で諸橋会長が提唱
 - 3) 「診療報酬点数の試算例」(厚生省) 特定機能病院と療養型病床群
 - 4) 書評 二木立著「90年代の医療と診療報酬」(諸橋会長)
 - 5) 中小病院コーナー「今こそ中小病院委員会の出番〈長い模索の時を経て〉」

- 452号 3月10日
- 1) 「病院団体連合」来月にも実現! 東日本地区準備会修了 代表に諸橋会長有力 各団体を尊重 共通項のみ協同を 「病院団体連合(盟)創設の提唱(案)」(諸橋会長)
 - 2) 平成4年度病院運営実態調査 平均在院日数さらに短縮
 - 3) 主潮「病院経営と教育」
 - 4) 点数改定説明会を開催
 - 5) 会員の声、NHK TV「病院再建」に想う

6) 中小病院コーナー「毎日が“ある日、ある時”へのチャレンジ」

453号 3月25日

- 1) 医療費改定の緊急要望 経営の窮迫化を直訴 「医業収支」赤字が増大
週休2日制、新薬価制度響く 諸橋会長・マスコミにも協力要請 「病院
診療報酬の緊急改定についての要望」
- 2) 日病5年度の事業計画 病団連、エイズ対策が焦点に
- 3) エイズ対策本部だより
- 4) 4年度研究会活動を総括 日病教育委員会の報告会開く 「診療報酬改定」、
「改正医療法」に集中 テーマは時勢を反映 患者ニーズ、経済動向も
- 5) 中小病院コーナー「患者様とお呼びする心」
- 6) 会員紹介 「病診連携科」でネット促進 済生会熊本病院で昨秋発足 転
院時「患者への精神的援助」も目的

第5 定例研究会

1. 定例診療システム研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

- (1) 10月20日(火) 船橋市立医療センター 9施設 18名
「船橋地区における救急医療の実態と当医療センターの役割」
船橋市立医療センター脳外部長 金 弘
「船橋市立医療センターにおける病診連携」
—オープンシステムについて—
船橋市立医療センター副院長 佐藤 裕 俊
「施設見学」
- (2) 2月16日(火) (株)日立製作所小平記念東京日立病院 12施設 18名
「都市型中規模病院における全面改装の経験」
東京日立病院事務部長 財津 昌 宏
「院内総合PACS（医用画像管理システム）の使用経験」
東京日立病院第一内科医長 常吉 秀 男
「産科におけるLDRシステムについて」
東京日立病院産婦人科主任医長 武井 徳 郎
「施設見学」

2. 定例事務管理研究会

(本年度の定例研究会は諸般の事情により中止とした)

3. 定例医事研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

- (1) 2月17日(休)～18日(休) 横浜：氷川丸 ブルーライトホール 139施設 190名
- ① 発表「請求漏れを防止するために必要な医療知識」
～その範囲と具体策～
三井記念病院医事課顧問 三 上 晃
- ② 「医療知識と点数算定トレーニング」
河北総合病院附属診療所事務長 大 西 正 利

③ グループ討議

④ 「医学知識と点数算定トレーニング」の解説

河北総合病院附属診療所事務長 大西正利

⑤ 講演「これからの病院のあり方とそれに対応する組織管理のあり方」

日本病院会副会長
河北総合病院理事長 河北博文

4. 定例総務研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

(1) 7月10日(金) サンシャインシティ文化会館 57施設 73名

(人事労務研究会と合同開催)

「病院週休二日制の実践上の問題点を探る」

～実践事例を基に現状の分析と次へのステップを考えるために～

① 基調講演

日本病院経営研究所 参与 酒井 武

② 事例研究発表

I. 週休二日制の形態

II. 週休二日制導入時および実践上の問題点

III. 次へのステップの課題

河北総合病院人事課 課長 篠塚 功

聖隷福祉事業団総務部 部長 田島 誠一

田畑胃腸病院 事務長 藤木 尚

③ 全体討議（事例研究発表者を中心に参加者とのディスカッション）

(2) 11月6日(金) 聖路加国際病院トイスラーホール 23施設 39名

「近未来の医療サービス」

① 講演「近未来の医療サービス」

日経BP社 盛 宮 喜

② 映画「聖路加国際病院の目指すもの」

聖路加国際病院広報部 部長 関 武 矩

③ レポート：「ダイアル111・実践報告」

聖路加国際病院病床管理室 室長 石山 稔

④ 施設見学

5. 定例人事労務研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

(1) 5月22日(金) 野口英世記念会館 38施設 60名

「厳しい医療環境下の看護婦問題を考える」

～退職看護婦の意識と看護婦給与の実態～

① 「看護婦給与改善と退職看護婦の退職理由」

～看護婦の退職者に対するアンケート調査から～

人事院給与局給与第一課給与調査官 尾 西 雅 博

② 「不足状況下でのこれからの看護婦賃金の在り方」

～'92病院職種別賃金実態資料から～

日本病院経営研究所参与 酒 井 武

(2) 7月10日(金) サンシャインシティ文化会館 57施設 73名

(総務研究会と合同開催)

「病院週休二日制の実践上の問題点を探る」

～実践事例を基に現状の分析と次へのステップを考えるために～

① 基調講演

日本病院経営研究所 参 与 酒 井 武

② 事例研究発表

I. 週休二日制の形態

II. 週休二日制導入時および実践上の問題点

III. 次へのステップの課題

河北総合病院人事課 課 長 篠 塚 功

聖隷福祉事業団総務部 部 長 田 島 誠 一

田畑胃腸病院 事務長 藤 木 尚

③ 全体討議 (事例研究発表者を中心に参加者とのディスカッション)

6. 定例用度研究会

1. 開催回数 2回 (うち1回は一泊研修会)

2. 開催概要

6月26日(金)～27日(土) 一泊研修会

熱海市:湯河原研修クラブ 49施設 57名

3月13日(土) 聖路加国際病院施設見学 27施設 34名

一泊研修会

① 用度業務（病院機能標準化マニュアル）

聖路加国際病院 事務次長 塩山 雅英

② 医薬品等に係わる情報関係

日比谷病院 事務次長 梅津 勝男

③ コンピューターについて

成城木下病院 事務長 大石 洋司

④ ディスポーザブルと医療廃棄物

公立昭和病院 用度課長 平林 和玄

7. 定例施設研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

(1) 5月21日(木) 日本病院会会議室 36施設 43名
「医療法改正に伴う施設基準」

国立医療・病院管理研究所施設計画研究部長 河口 豊
法規制により予想される施設を取り巻く諸事項
(スプリンクラー設置、医療廃棄物と消防訓練)の質疑応答

(2) 7月30日(木) 横浜労災病院管理棟地階大会議室 27施設 37名
病院見学会と質問会

以上

8. 定例会計経理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

(1) 7月11日(土) 池袋サンシャイン文化会館 43施設 58名
① 「病院の決算資料の読みかた」

9. 定例看護管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

(1) 2月19日(金) 番町グリーンパレス 65施設 171名
「日本の看護は崩壊する」

－これからの看護管理者に期待すること－

前日本看護協会常任理事 杉谷藤子

10. 定例薬事管理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

- (1) 7月11日(土) サンシャインシティ文化会館 61施設 71名
シンポジウム「臨床試用医薬品の取扱いについて」
医療用医薬品製造業公正取引協議会運営委員 日野正信
国立病院医療センター副薬剤部長 古泉秀夫
国立病院療養所医薬品情報管理センター医薬品情報管理官
- (2) 3月5日(金) 日本赤十字社看護大学講堂
シンポジウム「これからの薬剤業務」
医療法人財団右田病院薬局長 小倉順子
東京厚生年金病院 主任薬剤師 渡辺誠
国立病院医療センター副薬剤部長 古泉秀夫
国立病院療養所医薬品情報管理センター

11. 定例栄養管理研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

- (1) 5月22日(金)・23日(土) 東京栄養食糧専門学校、(助)世田谷区保健センター
34施設 40名
- 第一日 5月22日(金) 東京栄養食糧専門学校
「健康度の測定及び評価について」
東京栄養食糧専門学校教授 松本和興
- 「健康度測定」
スポーツエデュケーションアカデミー専任講師
健康運動指導士 青池克頼
- ① エルゴメータによる体力テスト
 - ② 目標心拍数での有酸素トレーニング
 - ③ 体脂肪率計測演習
 - ④ トレッドミルによる歩行速度と心拍数
 - ⑤ 運動漸増負荷試験時のガス代謝実験

⑥ 血管血行動態の測定

⑦ 筋持久力トレーニングの実際

第二日 5月23日(土) (助)世田谷区保健センター

「慢性疾患における運動療法」

(助)日本体育協会公認スポーツドクター 久野 則一

「運動実技(ウォーキング、ストレッチ体操、心拍数の測定)」

(助)世田谷区保健センター健康運動指導士 中村 由紀子

「施設見学」

(2) 7月10日(金) サンシャインシティ文化会館 45施設 81名

(調理研究会と合同開催)

「食物の“おいしさ”と調理の役割」

昭和女子大学家政学部教授 杉田 浩一

(3) 2月23日(火) 日本栄養会館 60施設 80名

「C型肝炎と病態」

健保総合川崎中央病院名誉院長 上野 幸久

12. 定例調理研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

(1) 5月16日(土) 華学園栄養専門学校 40施設 59名

「中国料理について」

(助)日本中国料理調理師会副会長 手塚 定利

(2) 7月10日(金) (栄養管理研と合同開催)

(3) 3月12日(金) 華学園栄養専門学校 44施設 75名

「中華料理の基本」

(社)日本中国料理調理師会副会長 手塚 定利

「デモンストレーション」

糖醋肉(酢豚)、肉絲炒魷魚(豚肉と烏賊の炒め物)

13. 定例診療録管理研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

(1) 4月11日(土) 自治医科大学附属大宮医療センター 50施設 61名

オーダーリングシステムの講演と院内の見学

- | | | | | |
|-----|-----------|----------------------------|------|------|
| (2) | 7月11日(土) | 北里研究所病院 | 58施設 | 76名 |
| | | 消化器系手術分類のための用語解説 | | |
| (3) | 10月16日(金) | 聖路加国際病院 | 56施設 | 75名 |
| | 12月12日(土) | 聖路加国際病院 | 68施設 | 100名 |
| | | 聖路加国際病院の新病院の概要と院内の見学 | | |
| | | ※会場の収容能力の都合で2回に分けて開催した。 | | |
| (4) | 1月9日(土) | 日本医科大学 | 59施設 | 80名 |
| | | 整形外科における手術式並びに手術分類のための用語解説 | | |

14. 定例病院管理総合研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

- | | | | | |
|-----|----------|-------------|------|-----|
| (1) | 5月14日(木) | ダイヤモンドホテル | 70施設 | 85名 |
| | | 「医療費改正後の現状」 | | |
| | | ～病院の立場から～ | | |

(社)日本病院会医事研究会副委員長
河北総合病院医事課長

大西正利

～厚生省の立場から～

国立医療・病院管理研究所医療経済研究部室長

小山秀夫

- | | | | | |
|-----|----------|-----------------------|------|-----|
| (2) | 2月26日(金) | 聖路加国際病院 トイスラーメモリアルホール | 50施設 | 70名 |
| | | 「新病院と看護」 | | |

聖路加国際病院副院長兼総婦長

内田卿子

聖路加国際病院見学

15. 定例放射線研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

- | | | | | |
|-----|----------|---------------|------|------|
| (1) | 7月11日(土) | サンシャインシティ文化会館 | 55施設 | 102名 |
| | | 「放射線業務と保険請求」 | | |

① 講演「放射線業務と保険請求」

虎の門病院分院総務課 課長

船津 浩

本島総合病院業務課 課長

中野 隆 男

② 全体討議

(2) 11月21日(土) 聖路加国際病院 19施設 22名

① 講演「世界のレベルからみた日本の病院の診療評価」

聖路加国際病院院長 日野原 重 明

② 全体討議「労働力の向上」

～業務の合理化～

③ 聖路加国際病院・放射線科施設見学

16. 定例臨床検査管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

(1) 7月9日(休) サンシャインシティ文化会館 43施設 57名

シンポジウム「それぞれの立場における医療廃棄物の実際」

① 医療の立場から

広島市立安佐市民病院院長 岩 森 茂

社保都南総合病院技師長 松 本 昭一郎

前杏林大学医学部附属病院庶務課次長 井 上 加代子

② 業者の立場から

コスモ理研株式会社社長 鈴 木 三 好

(株)イナテック取締役工機部長 犬 塚 栄 三

③ 行政の立場から

東京都清掃局産業廃棄物指導課主任 桜 井 武

17. 定例ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

(1) 2月18日(木) 東部地域病院 18施設 23名

「施設見学」

18. 医療費改定説明会

1. 開催回数 2回

2. 開催月日 平成5年3月2日(火)

3月4日(木)

神戸会場 3月2日(火)

西山記念会館

参加者417名

講師 厚生省保険局医療課 田原克志

東京会場 3月4日(木)

日本都市センター

参加者401名

講師 厚生省保険局医療課 小田清一

19. 内科臨床協議会

1. 世話人会開催回数 2回

2. 開催内容

(1) 5月11日(月) 聖路加国際病院 9名

- ① 講演「新時代の病院の役割と卒後教育」 日野原 重明
- ② 各グループ開催状況の報告および今後の活動について

(2) 11月9日(月) 聖路加国際病院 6名

- ① 聖路加国際病院見学会（都内の病院内科部長に希望をつのり28名参加）
- ② 講演「アメリカのレジデントと日本の研修医の臨床能力の比較について」

ローレンス・M・ティアニー・カリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部総合内科臨床研修部長、M. D.

- ③ 各グループ開催状況の報告および今後の活動について
- ④ 明年度の幹事は、1-Cグループの多賀須幸男氏（関東通信病院）
- ⑤ 明年度は5月10日(月)、11月8日(月)

の世話人会開催

3. 各グループジョイントカンファレンス

(1) 1-Aグループ（聖路加国際病院、国立がんセンター、三楽病院）

① 平成5年2月24日、国立がんセンター中央病院、研究所1階セミナー・ルーム）

- a. 大腿部皮膚に有痛性紫紅色を来し、ショック状態を呈した69歳の男性（聖路加国際病院）
- b. 出産後、肺に異常影をみた一例（三楽病院）
- c. 呼吸困難、左季肋部痛を呈した悪性リンパ腫の一例（国立がんセンター中央病院）

(2) 1-Bグループ（東京通信病院、東京警察病院、三井記念病院）

① 一回目（5月19日、東京警察病院）

- a. 肝硬変（肝細胞癌疑）、糖尿病（東京警察病院）

- ② 二回目（7月21日、東京警察病院）
 - a. 急性骨髄性白血病、肝障害（東京警察病院）
- (3) 2-Aグループ（国立病院医療センター、佼成病院、日本赤十字社医療センター、都立豊島病院）
 - ① 7月8日、国立病院医療センター
 - a. Crow-Fukase 症候群の一例（日赤医療センター）
 - b. 高カルシウム血症と高カルシトニン血症を認めた脾臓腫瘍の一例（都立豊島病院）
 - c. 診断に苦りよした慢性リンパ系白血球の一例（佼成病院）
 - d. 芽球に特異な膜抗原がみられた赤血球の一例（国立病院医療センター）
 - (4) 2-Bグループ（自衛隊中央病院、関東中央病院、国立大蔵病院、JR東京総合病院）
 - ① 9月24日、国立大蔵病院
 - a. 心室中隔穿孔を合併した急性心筋梗塞
 - b. 四肢の紫斑と多発単神経炎を併発したC型慢性肝炎の一男性例
 - c. 有機溶媒が原因と考えられた二次性小脳失調症の一例
 - d. CT上特有な所見を呈した高フェリチン血症
 - (5) 2-Cグループ（中野総合病院、東京厚生年金病院、社会保険中央総合病院、河北総合病院）
 - ① 6月2日、河北総合病院、ミオパチーなど
 - ② 7月21日、社会保険中央病院、透析困難例など
 - ③ 9月22日、東京厚生年金病院、MDSなど
 - ④ 10月20日、河北総合病院、肉芽腫性肺病変など
 - ⑤ 11月17日、社会保険中央病院、心不全など
- 4. 総 評

今後も地道な活動を中心に各病院間との交流をはかりたい。

第6 全国研究会

1. 全国診療システム研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成4年7月3日(金)、4日(土)
3. 開催地 横浜市・横浜労災病院
4. 参加者数 45施設 91名
5. 演 題

「オーダリングサブシステムの概要について」

横浜労災病院事務局長 幅 田 芳 弘

「中央放射線部門情報管理システム及び画像ファイリング・システムについて」

横浜労災病院中央放射線部技師長 佐 藤 七三男

「中央検査部門検体検査自動化ライン及び採血管自動供給システムについて」

横浜労災病院中央検査部技師長 高 山 恒

「薬剤部門調剤自動化システムについて」

横浜労災病院薬剤部長 前 田 昭 夫

「施設見学（Ⅰ）」 外来・病棟・放射線・検査・病歴

「施設見学（Ⅱ）」 薬剤・R I・SPD・ベットセンター

「質疑応答」

6. 総 評

平成4年度の全国研究会は、7月3日・4日の2日間、横浜労災病院で行われた。この病院は、3年6月開院された新装備の病院で、開院後1年を経ている。高度医療の最新の装備を持ち、またいわゆるインテリジェントホスピタルと称されるような、院内の情報処理ネットワークを誇っている。

研究会としては、敢てテーマをしぼり、幾つかのサブシステムに焦点をあてる事とした。参加者は青森県から福岡県まで、90名余りとなった。

プログラムの内容を反映して、管理職、医事、検査、放射線、薬剤関係の職種が多かった。

横浜労災病院は、全国の労災病院の37番目であると共に、横浜市北東部の医療圏の中核病院として建設された。病院に隣接して、横浜市総合リハビリテーションセンター、および生涯保健医療総合センターが設置されている。

この病院が目標とするものは、次の4点である。

- 1) 専門的高度医療の実施
- 2) 24時間体制の救急医療の実施

3) 患者にとって快適な医療環境の整備

4) 効率的な運営の実施

全般的なシステムでこの病院の特徴の一つは、ロケーション・アンド・セキュリティ・システムであろう。職員は全員名札をつけているが、これが発信器となり、各人の移動、出入が自動的にチェックされる。また、種々の出入禁止の部屋の施錠もこれに連動しており、鍵束不用のシステムとなっている。

研究会の意図をよく理解され、プログラムの調整に協力して頂いた横浜労災病院の方々に、お礼申し上げる。

2. 全国事務管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 平成4年10月16日(金)

3. 開催地 広島市 広島ステーションホテル

4. 参加者数 63施設 71名

5. 演 題

① 特別講演「医療法の改正について」

国立医療・病院管理研究所研究員 川 淵 孝 一

② 講演「診療報酬改定の影響」

(社)日本病院会医事研究会委員長 中 野 隆 男

③ 講演「看護業務の省略化」

(社)広島県看護協会理事
特定医療法人あかね会土谷総合病院 看護部長 野 尻 昭 代

④ 特別対談「診療体制と人事管理」

(社)日本病院会事務管理研究会顧問 益 田 啓 作

(社)日本病院会事務管理研究会委員
医療法人きっこう会事務局長 海 北 幸 男

⑤ シンポジウム「医療法の改正と病院の対応」

公立陶生病院院長 寺 田 守

杏雲堂病院事務長 山 下 昭 雄

足利赤十字病院事務部長 田 中 實

博愛病院事務長 藤 原 宏 二

6. 総 評

医療法改正により、病院の経営はそれに対してどのように対応していかなければならないか、またこれからの病院経営はどのような方向に進むのかを考えながら、各専門の講師に見通しを含

めた講演を依頼した。2日目のシンポジウムでは、「医療法の改正と病院の対応」のテーマで、公立陶生病院長 寺田 守先生他、当研究会委員でのシンポジウムを企画し、参加者からは“資料が豊富であり、分析しやすいものがかなり多い” “難しい中身がととてもわかりやすく説明されていた”との声が多く、本年度の、「参加者に有益な情報を必ず提供できる企画をする」という目的が達成された研究会となったものと確信する。

3. 全国医事研究会

1. 開催回数 2回
2. 開催期日 第1回 平成4年5月21日(木)～5月22日(金)
第2回 平成4年10月22日(木)～10月23日(金)
3. 開催地 第1回 青森市 青森厚生年金会館
第2回 宮崎市 ホテルメリディアン
4. 参加者数 第1回 127施設 210名
第2回 100施設 107名

5. 演 題

第1回：

- ① 基礎医学講座（第45回）「白内障治療の進歩」

弘前大学医学部 前 田 修 司

- ② 請求もれ防止対策

川崎胃腸科内科事務長 山 谷 清

- ③ 診療報酬改正による請求もれ防止対策

病院システム研究会代表 加 藤 雄 二

- ④ 医療知識と点数算定トレーニング

三井記念病院医事課顧問 三 上 晃

- ⑤ 診療報酬改正のポイントと留意点

河北総合病院医事課長 大 西 正 利

- ⑥ 医療知識と点数算定トレーニングの解説

三井記念病院医事課顧問 三 上 晃

- ⑦ 全体討議

第2回：

- ① 基礎医学講座Ⅱ（第46回）「上部尿路結石治療の進歩」

～体外衝撃破砕術（ESWL）について～

宮崎県立宮崎病院泌尿器科医長 蓑 田 優

- ② 「実務（点数算定）の中で起こりやすい請求漏れを扶る Ⅰ」

宮崎県立宮崎病院医事課長 山下重保

- ③ 「実務（点数算定）」の中で起こりやすい請求漏れを扶る ②」

～点数改正前後の検証～

本島総合病院業務課長 中野隆男

- ④ 「医学知識と点数算定トレーニング」

三井記念病院医事課顧問 三上晃

- ⑤ 医療知識と点数算定トレーニングの解説

三井記念病院医事課顧問 三上晃

- ⑥ 全体討議（質疑応答・情報交換等）

6. 総 評

本年の2回の研究会は、「単に医事業務のみの“研究会”ではなく、患者ニーズの多様化に伴う病院のサービスや経営効率の問題を解決・改善する必要性にもふれ、新しい観点・様々な角度からこの一年を考える」という当初の計画どおり、ただ単なる点数算定ではなく、病院をとりまく環境等についてもふれる、一歩踏込んだ内容を盛り込み、青森市・宮崎市と2会場にて開催された。

また、恒例の「基礎医学講座」「医療知識と点数算定トレーニング」も企画され、知識のレベルアップも考慮して企画をし、病院内における医事課の責務を再認識するよう参加者に改めて呼びかけた。

4. 全国総務研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 平成4年9月24日(木)、25日(金)

3. 開催地 岡山市・岡山商工会議所

4. 参加者数 82施設 128名

5. 演 題

- (1) 基調講演「社会環境の変化と病院の対応」

岡山赤十字病院院長 依田忠雄

- (2) 講演「人事賃金制度の見直し」

～年功制度から職能制度へ～

聖路加国際病院病床管理室室長 石山 稔

(3) 特別講演「医療法改正とこれからの病院経営」

国立医療病院管理研究所 川 渕 孝 一
医療経済研究部 研究員

(4) パネルディスカッション「ベストの看護体制とは……」

～三交替制勤務の見直し～

パネリスト	吉備高原医療リハビリテーションセンター看護部部長	松 嶋 道 江
”	岡山大学医学部附属病院看護部部長	小 引 恂 子
”	亀田総合病院看護部部長	竹 股 喜代子
座 長	聖隷福祉事業団総務部部長	田 島 誠 一
”	河北総合病院人事課課長	篠 塚 功

(5) パネルディスカッション「どうすればできる完全週休二日制」

パネリスト	松田病院経理部部長	松 田 実 郎
”	石和温泉病院事務長	斉 藤 正 夫
座 長	西能病院常務理事	中 永 久 光

6. 総 評

病院を取り巻く厳しい医療環境に、経営管理者をはじめとして事務担当者がいかに対応するか、を念頭において、本年度は「社会環境の変化と病院の対応」を主テーマに開催した。いずれも時宜的にタイムリーなテーマをとりあげたこともあり、一方的な講演にとどまらず現場の生の声が行き交う、熱気のこもった雰囲気の中で研究会は終始した。

今回もとりあげた「週休二日制」については、平成元年に労働省から委託を受けて、当研究会を中心に病院における週休二日制等の実態調査を行ったが、今回その後の実態について、先に何らかの形態で週休二日制を実施または試行していると回答のあった病院を対象にアンケート調査を実施した。626病院に調査票を送付し、有効回答120病院（19.2%）で、今回調査した病院の週休二日制形態別実施状況は表1のとおりであった。

表1 週休二日制形態別の実施状況

(カッコ内：%)

形 態	公的病院	私的病院	病 院 計
完全週休二日制	11 (18.6)	15 (24.6)	26 (21.7)
月3回または4週7休制	1 (1.7)	5 (8.2)	6 (5.0)
月2回または4週6休制	38 (64.4)	25 (41.0)	63 (52.5)
月1回または4週5休制	4 (6.8)	13 (21.3)	17 (14.2)
そ の 他	5 (8.5)	3 (4.9)	8 (6.6)
計	59 (100.0)	61 (100.0)	120 (100.0)

なお、週休二日制の進展度は下記のとおりとなった。

1. 週休二日制の形態別の実態（病院計）

	（単位：％）	
	平成元年	今 回
完 全 週 休 二 日 制	3.2	21.7
月3回または4週7体制	1.4	5.0
月2回または4週6体制	33.5	52.5
月1回または4週5体制	21.4	14.2
そ の 他	2.2	6.6

2. 週休二日制の形態別の実態（公的病院）

	（単位：％）	
	平成元年	今 回
完 全 週 休 二 日 制	0.4	18.6
月3回または4週7体制	0.4	1.7
月2回または4週6体制	55.4	64.4
月1回または4週5体制	24.6	6.8
そ の 他	3.2	8.5

3. 週休二日制の形態別の実態（私的病院）

	（単位：％）	
	平成元年	今 回
完 全 週 休 二 日 制	5.5	24.6
月3回または4週7体制	2.3	8.2
月2回または4週6体制	15.9	41.0
月1回または4週5体制	18.8	21.3
そ の 他	1.4	4.9

以上のデータから、公的病院、私的病院のいずれも、3年を経過した中で完全週休二日制の割合が急速に増えてきていることがわかった。まずは4週5体制を実施し、次に4週6体制→4週7体制→完全週休二日制へというように、段階的に進めていくことがより現実的であることがわかった。

5. 全国人事労務研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成4年10月29日(木)、30日(金)
3. 開催地 岩手市・岩手県立中央病院
4. 参加者数 45施設 68名
5. 演題

「新時代への病院経営・労働環境の変化と病院の実践的対応」

(1) 基調講演「これからの病院経営への提言」

～経営改革への具体的アプローチ～

岩手県立中央病院院長 小山田 惠

(2) 講演「看護婦賃金の在り方・考え方」

～'92病院職種別賃金実態調査から～

産業労働調査所附属日本病院経営研究所参与 酒井 武

(3) 講演「医療マーケティングと患者サービス」

～近未来の医療サービス～

聖路加国際病院病床管理室室長 石山 稔

(4) 講演「人事院勧告の特徴点の解説」

人事院給与局給与第一課給与調査官 尾西 雅博

(5) パネルディスカッション

「看護婦勤務体制（夜勤問題・要員問題）」

パネリスト	関東通信病院副看護部長	高 椋 敏 子
〃	結核予防会総務部副部長	柴 田 玲 子
〃	盛岡赤十字病院看護部長	千 葉 紘 子
〃	岩手医科大学附属病院病棟婦長	多 田 公 子
座 長	石和温泉病院事務長	斉 藤 正 夫

(6) 実践事例研究報告

「週休二日制の諸問題への取組み」

～看護部門を中心とする要員管理・業務改善・労働時間管理の面からの検討～

講 師	河北総合病院人事課課長	篠 塚 功
〃	虎の門病院事務次長	石 原 孝 憲
〃	西能病院専務理事	中 永 久 光
座 長	東京衛生病院人事課長	西 浦 捷 裕

6. 総 評

医療を取り囲む環境はますます厳しさを増し、病院経営の質が問われるようになった今日、適確な現状の把握と将来への展望を見極める観点から「新時代への病院経営・労働環境の変化と病院の実践的対応」を主テーマに開催した。

特にマクロ的な観点から「これからの病院経営への提言」で問題点を洗い出し、病院が直面している課題である「賃金問題～人事院勧告の特徴点・看護婦賃金問題」「看護婦勤務体制～夜勤・要員問題～」 「時短・週休二日制の諸問題」「医療マーケティングと患者サービス」については事例を中心にその対応策を検討した。

参加者は、事務部門のほか病院長、看護部門と多岐にわたり、各々の担当部門に即した質疑が交わされた。

また、本年度も昨年度に引き続き、病院における現在の賃金実態をできる限り正確に把握し、各病院が適正な賃金管理を行っていくうえでの参考に資するため「'93病院職種別賃金実態調査資料集」を出版した。調査は国立病院を除く2,160会員病院を対象に行い、回答率は12.6%であった。

今後、毎年この調査を実施し担当者に役立つ実務書として定着を図っていきたい。

6. 全国用度研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成4年10月8日(木)～9日(金)
3. 開催地 函館市 ホテル法華クラブ函館
4. 参加者数 77施設 92名
5. 演 題

一日目 10月8日(木)

司 会	日本病院会用度研究会委員	平 林 和 玄
開会挨拶	日本病院会用度研究会委員長	塩 山 雅 英
	日本病院会常任理事	上 田 侃

講 演 「用度業務へのコンピューター導入について」

一日目の「病院業務の機能仕様書」策定の過程から

舞子台病院事務長 土 井 義 行

司 会	日本病院会用度研究会委員	平 林 和 玄
-----	--------------	---------

事例発表 用度業務とコンピューター そのV

日鋼記念病院医療情報システム事業部副部長 中 村 政 明

コンピュータ管理について

クラヤ薬品(株)情報システム部長 三崎和夫

用度業務全般にわたるアンケート調査報告

(1) 用度業務に関する調査について

聖路加国際病院 事務次長 塩山雅英

(2) 医薬品を除いた物品の価格調査について

成城木下病院 事務長 大石洋司

(3) 医薬品に関する価格調査について

日比谷病院 庶務課長 梅津勝男

二日目 10月9日(金)

司会

日本病院会用度研究会委員 松島雅夫

日本病院会用度研究会委員 中村明良

用度業務全般にわたるグループ討議と情報交換

発表および全体討議・質疑応答

閉会挨拶

日本病院会用度研究会副委員長 梅津勝男

6. 総評

今年度は4月に診療報酬の大巾改定、医療法の改正、更に特定機能病院・療養型病床群へと医療界に期待と不安が入り混じった病院再編成の幕明けとなった。その中で病院経営の一翼をになう用度課員にとって少しでも新情報を得たいと、講師、委員に質問をし、会が終わったあと白板の数字を書き写している受講生の姿が印象的であった。

7. 全国施設研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

11月5、6日、京都・ビル葆光7階ホール

37施設 52名

「磁石と防錆-冷凍機に応用して」

施設研究会副委員長 中島昭二郎

「給食配管について」

同研究会委員 中西照録

「医療法改正に伴う施設基準の集約と問題点」

同研究会委員 辺見九十九

「施設管理と患者のアメニティについて」

同研究会顧問 上林三郎

「環境にやさしい施設管理」

同研究会委員 佐藤辰夫

「廃棄物処理の実態と建築上のレイアウト」

同研究会委員 小峰建二

「医療ガス（酸素ガス）設備の保安管理」

同研究会委員 瀬川篤宏

「病院の環境測定および院内感染対策について」

同研究会委員長 倉持一雄

3. 総 評

今年も例年のとおり委員全員による数多くの演題を発表し、成果がえられた。特にグループ討議については、時間ぎりぎりまでの活発な討議が印象的であった。

開催に際し、ご支援、ご協力をいただいた地元関係者の方々に深く感謝いたします。

8. 全国会計経理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 平成4年11月20日(金)、21日(土)

3. 開催地 東京都・全国町村議員会館講堂

4. 参加者数 45施設 54名

5. 演 題

(第1日目)

(1) 役員挨拶

(社)日本病院会 副会長 河北博文
(医)河北総合病院 理事長

(2) 「これからの病院経営」

国家公務員等共済組合連合会 参与 黒田幸男

(3) グループ討議

「1. 医療外収益の確保について」

「2. 外国人労働者の医療費問題」

(第2日目)

(1) 「比率に基づく病院経営分析の手法と平成3年度集計結果の報告」

(社)日本病院会 会計経理研究会 顧問 酒泉春雄

(2) 「病院会計と税務」

森公認会計士共同事務所 公認会計士 石井孝宜

(3) 「病院見学」 聖路加国際病院

6. 総 評

今年度の研究会は医療費収入の伸びが低下している病院経営をどのように運営していくかをテーマに取り上げた。

当研究会で作成している経営分析集計表では、432施設の病院よりアンケート調査の回答があり、内一般病院361施設の63%の施設が赤字経営になっている。この現状をふまえて、黒田幸男氏より「これからの病院経営」と題して講演を受け、グループ討議においては「医療外収益の確保及び外国人労務者の医療費（未収）問題」について活発な意見交換がされた。これからの病院経営は、医業収入はもとより、医業外収入を効率よく上げることも必要な経営方針の一つではないだろうか。

研究会終了後聖路加国際病院のご協力により同院施設見学を32名の方々が見学をした。

研究会開催に当り、ご尽力下さった関係者の方々に心より感謝致します。

9. 全国看護管理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催期日 (第1回) 平成4年6月9日(火)、10日(休)

(第2回) 平成4年11月17日(火)、18日(休)

3. 開催地 (第1回) 福島市・福島グリーンパレス

(第2回) 津市・三重県看護研修会館

4. 参加者数 (第1回) 91施設 128名

(第2回) 63施設 148名

5. 演 題

(第1回)

(1) 「看護管理」

聖路加看護大学大学院博士課程 井部 俊子

(2) 「今回の診療報酬改定について」

厚生省保険局医療課課長補佐 森山 弘子

(3) シンポジウム「病院の医療の質を考える」

日本医科大学医療管理学教授 岩崎 榮

済生会福島総合病院総婦長 伊東 由起子

太田総合病院附属太田西ノ内病院総婦長 高橋 和子

練馬総合病院総婦長 大久保 和恵

(第2回)

(1) 「看護業務とコンピュータ」

名古屋市立大学病院看護部長 岡嶋良枝

(2) 「看護をめぐる諸問題」 —明日の看護を考えて—

国立津病院院長 岡崎通

(3) シンポジウム「これからの看護と看護管理」

—看護サービスの質と経済性の調和をめざして—

① 看護業務の見直し

三重大学医学部附属病院看護部長 松井惟子

② 物品管理

山田赤十字病院看護部長 三林信子

③ 委託業務

順天堂大学浦安病院看護部長 達子 房

④ 申し送りの改善

社保横浜中央病院総婦長 由井尚美

6. 総 評

“バルセロナの夏”、14才のゴールド岩崎恭子 有森裕子の微笑み 森下広一の死闘 アクシデントを乗り越えた古賀稔彦 ファイナリストの高野進 そして最強のアスリート、カール・ルイス。

現下の医療環境は、高度、専門化が進むなかで、人口の高齢化、疾病構造の変化とともに、国民生活水準の向上により良き医療サービスへの要望が高まっている。このような状況の中で、各演者はこれからの病院における看護サービス、看護の質の管理とその評価、今後の地域医療と看護活動等について豊富な経験をふまえて理論的に講話され、参加者に多くの共感と感銘を与えた。

研究会開催の機会を与えてくださった、地元看護協会関係者の皆様に、心から感謝致し厚くお礼申し上げます。

10. 全国薬事管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成4年11月19日(木)~20日(金)
3. 開催地 仙台市 仙台国際センター
4. 参加者数 80施設 82名

5. 演 題

① 基調講演「病院経営について」

宮城健康保険病院院長 佐々木 陸 郎

② 時局講演「保険医療と薬価基準制度をめぐる諸問題」

厚生省薬務局経済課課長補佐 石 井 甲 一

③ 特別講演「骨髄移植の現状」

東北大学抗酸菌研究所教授 今 野 多 助

④ シンポジウムA「医薬品の流通の現状と諸問題」

山之内製薬(株)常務取締役・医薬営業本部長 市 中 滋 郎

サンエス(株)相談役 一 條 安 彦

木村病院薬局長 菅 野 和 一

総合病院福島赤十字病院薬剤部長 蛭 田 大 八

⑤ シンポジウムB「医薬品情報と病棟活動」

秋田大学医学部D I室長 寒河江 喜 紀

国立仙台病院薬剤科長 高 橋 忠

北里大学医学部附属病院薬剤部副部長 小 林 輝 明

6. 総 評

本年度の全国研究会は、“医薬品の流通” “医薬品情報” を中心として、シンポジウムを2本企画した。

2日間とも、現場から出る具体的な質疑が交され、病院薬剤師がいかに多くの問題をかかえているかが浮き彫りになった。

今後も、現場・現状に即した内容での会を企画・運営していきたい。

11. 全国栄養管理・調理合同研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 平成4年9月25日(金)、26日(土)

3. 開催地 札幌市・北海道立道民センター

4. 参加者数 71施設 89名

5. 演 題

(1) 特別講演「健康と栄養」 —その常識性と意外性—

北海道栄養短期大学学長 今 井 陽

(2) シンポジウム「病院給食の現状と課題」 —委託問題を考える—

天使病院栄養部長 竹 内 純 子

札幌鉄道病院副栄養士室長	石川紀子
定山溪病院栄養課主任	進藤康子
藤崎病院栄養科長	柴田みどり
社保都南総合病院栄養課長	大槻満子

(3) 「給食用特殊料理調理試験について」

東京都立広尾病院調理師 梶原正巳

(4) ワークショップ「病院給食の現状と課題」

- (1) 委託問題
- (2) 課内勉強会
- (3) 特別管理給食加算の対応

6. 総 評

ヨーロッパに生まれ、その伝統的思想で育てられたオリンピックが、初めてアジアにやってきた。’64 雨上がりの透き通った青空の中、ヒロシマの青年が聖火に点火した。

「病院給食の現状と課題」をメインテーマに、講演とシンポジウム等が予定通り行われた。地元栄養士会関係者のご協力により、充実した内容で終始したと思われる。各演者の講話は確かな知識と、豊かな経験をふまえて理論的かつ具体的に話され、参加者は今後の病院給食に多くの有益な示唆を与えられた。今後も地元の理解と連携を深め研鑽の実をあげていきたい。

12. 全国病院管理総合研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成4年9月17日(木)～18日(金)
3. 開催地 札幌市チサンホテル札幌
4. 参加者数 28施設 51名
5. 演 題

① 病院経営管理について

国立医療・病院管理研究所医療経済研究部部長 小山秀夫

② 看護婦不足対策

医療法人大雄会理事長 伊藤 研

③ 脱パンツ睡眠健康法

～パンツを脱げば健康になります～

五輪橋参加婦人科小児科病院院長 丸山淳士

④ 看護量の測定

虎の門病院看護部長 栗屋典子

6. 総 評

現在医療機関がおかれているこの厳しい環境にいかに対応するかを原点として、各分野のエキスパート4人に講演をお願いし、札幌にて開催された。

中でも「脱パンツ睡眠健康法」は、奇抜なテーマで参加者の興味を引き、講演後には「ぜひこの健康法をやってみたい。」「すでに脱パンツ健康法は実行しており、講演どおりの効果があるので非常に満足している。みなさんにも是非おすすめする。」との声もあがり、一方的な講演にとどまらず、生の声が行き交う熱気のこもった研究会となった。

13. 全国放射線研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成4年10月23日(金)、24日(土)
3. 開催地 沖縄県・ホテルサンライズ知念
4. 参加者数 27施設 29名
5. 演 題

「労働力の向上」

- (1) 特別講演「病院運営と放射線科」

大浜第一病院院長 廣 田 耕 三

- (2) 技術講演「MRIの現状と高速撮影」

横河メディカルシステム株式会社
東京支社営業技術課MRI担当 井 口 幸 人

- (3) 学術講演「第三世代の造影剤と安全性」

第一製薬株式会社学術情報部 角 田 司

- (4) 教育講演「琉球の歴史」

医療法人大坪会 嶺井病院理事長 嶺 井 進

- (5) 特別講演「最近の消化管診断の進歩と現状」

(助)早期胃癌検診協会常任理事・中央診療所所長 池 延 東 男

- (6) シンポジウム「技師長の責務とビジョン」

～特に放射線技師の労働力について～

座 長	日本医科大学附属病院放射線科係長	村 越 秀 光
シンポジスト	駿河台日本大学病院放射線科技術長	黒 羽 隆 夫
〃	那覇市立病院中央放射線部技師長	仲 地 尚 樹
〃	嶺井病院放射線科技術長	我喜屋 湖 正
〃	沖縄県立那覇病院放射線科技術長	桑 江 常 英

シンポジスト	厚生農協連小諸厚生総合病院放射線科技師長	岡田 健
〃	東京医科大学霞ヶ浦病院放射線科技師長	藤田 良三
〔特別発言〕	東京都教職員互助会三楽病院副院長	松本 泰二
	聖路加国際病院放射線科部長	松岡 龍平
	佼成病院健康管理相談室長	西田 義夫

6. 総 評

病院を取り巻く厳しい医療環境に、放射線部門としていかに貢献するかを念頭におき、「労働力の向上」を主テーマに開催した。

沖縄県放射線技師会との綿密な打ち合わせのもとでプログラムを組み、内容が充実したにもかかわらず、沖縄県をはじめ全国的な放射線技師不足を反映して参加者が予想を下回ったことは残念であった。

しかしながら、シンポジウムでは講師と参加者との現場の生の声が行き交う、熱気のこもった雰囲気の中で終始した。

放射線技師の果たす役割が年々重要視されてきたこととあいまって、技術的なテーマのほか倫理的・教養的なテーマを加え、他団体では見られないユニークな内容となり、終了後多くの参加者から好意的な声が寄せられた。

病院内での放射線技師に課せられた重責を再認識し今後も研修の実をあげるよう、なお一層の改善に努めたい。

14. 全国臨床検査管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成4年9月9日(木)、10日(木)
3. 開催地 神戸市・神戸市勤労会館
4. 参加者数 44施設 49名
5. 演 題

(1) 「臨床検査の展望」

(前)日本臨床衛生検査技師会会長
日本商事株式会社顧問 金山 昭平

(2) 「生涯教育制度」

(社)日本臨床衛生検査技師会副会長
刈谷総合病院技師長 早田 繁雄

(3) 「改正廃掃法の施行について」

－感染性廃棄物の処理について－

兵庫県保健環境部環境整備課課長補佐 岩本文哉

(4) 「院内感染（MRSA関連）」

神戸市環境保健研究所細菌部長 仲西寿男

(5) シンポジウム「病院検査室の運営法とその活性化」

① 検査室の生産性に関して

三井記念病院技師長 前畑英介

② 生体検査における検査技師の適正配置

板橋中央総合病院検査科次長 成田周市

③ 診療報酬改定による影響

東京医科大学病院技師長 宇津木道弘

④ リアルタイム精度管理の活用

浜松赤十字病院技師長 川越功

⑤ 技師の意識（チーム医療における検査技師の在り方）

河北総合病院技師長 小金沢宗雄

15. 全国ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 平成4年11月12日(木)

3. 開催地 東京・日本病院会

4. 参加者数 19施設 26名

5. 演題

(1) 「目で見る病院清掃」

済生会横浜市南部病院施設課 栗原君代

(2) 「院内感染対策委員会」

東京都立豊島病院家政係長 海江田宝

(3) 「ハウスキーパーの資格条件」

国際医療管理専門学校講師 近藤英二

(4) 「院内清掃及び清掃業務についての答申報告」

(前)杏林大学医学部附属病院庶務課次長 井上加代子

6. 総評

清掃、洗濯、消毒、ゴミ処理等から、院内感染、インテリまで、環境管理として幅広い概念をもつ病院のハウスキーピング部門の全国研究会である。参加者は30名足らずと少なかったが、肩書は環境整備課、庶務課、家政課、施設課、用度課、資材課などという、さまざまな担当名称であった。

病院のハウスキーピング部門の問題点は、組織の位置づけが不明確で、権限と責任を伴う職務も確立されていない点である。今後も、具体的な内容を伴った研究会として運営してまいりたい。

16. 全国図書室研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成4年9月3日(木)～4日(金)
3. 開催地 神戸市 兵庫県民会館 11Fホール
4. 参加者数 57施設 60名
5. 演 題

① 特別講演「臨死の読書と回復期の読書」

評論家 鶴見俊輔

② 講演「図書室における資料保存の考え方」

日本図書館協会 二宮嘉須彦

③ 中国四国地区におけるバックナンバーの分担保存制度

昼間逸郎

④ ADONISについて

(株)紀伊國屋書店 平山恵三

⑤ 著作権について

大阪府立夕陽丘図書館 前田章夫

⑥ シンポジウム「病院図書室における資料の保存と廃棄」

座長：京都南病院副院長 都津崎茂雄

シンポジスト

(1) 資料保存上の諸問題

日生病院図書室 千住とも子

(2) 資料の分担保存

大阪回生病院図書室 加島民子

(3) 資料の廃棄（廃棄基準を含む）

浜松赤十字病院図書室 飯田育子

(4) 資料の保存方法の動向

西淀病院図書室 前田元也

6. 総 評

「利用者サービスの向上」を本年も基本として、病院図書室司書が抱える諸問題について講演・シンポジウムを企画した。

本年は特別講演として、評論家の鶴見俊輔氏を招き、外から見た病院図書室、利用者はこう見ているといった、全く別の角度から図書室の役割について考えてみた。

初日終了後には恒例のフリートーキングタイムを設け、病院図書室の役割について多種多様な意見交換がなされ、出席者全員が、充実した“時”を過ごした。

当研究会としては、今後もより一層充実した会になるよう、改善していきたいと考えている。

17. 職場リーダー研修会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

第66回（3日間コース）

期 日 平成4年6月24日(水)～26日(金)

場 所 高山市民文化会館

参加者 28施設 49名

演 題 (1) 職場リーダーのポジションと役割

(2) 職場運営のポイント

(3) 要求される創意工夫

(4) 職場研修のねらい

(5) リーダーシップと相互理解

(6) ケーススタディ

リーダー

昭和大学病院放射線技師長	神田幸助
武蔵野赤十字病院事務部長	緒方廣市
昭和大学病院臨床検査技師長	平沢政人
佼成病院臨床検査技師長	設楽正登

第67回（5日間コース）

期 日 平成4年11月9日(月)～13日(金)

場 所 湯河原研修クラブ

参加者 17施設 22名

演 題 特別講演「わが病院の経営戦略」

(社)日本病院会 監事
板倉病院 院長 梶原 優

「情報化組織に適応する職場リーダーへ」

(社)日本人事管理協会 理事 酒井 暢

(1) 監督者の職務

- (2) 仕事の管理と改善
- (3) 部下の育成
- (4) 組織のコミュニケーション
- (5) リーダーシップ
- (6) 事例研究

リーダー	聖路加国際病院 用度課長	内 藤 均
	昭和大学病院 放射線技師長	神 田 幸 助
	武蔵野赤十字病院 事務部長	緒 方 廣 市
	東京医科大学病院 栄養課課長補佐	平 井 千 枝
	佼成病院 臨床検査技師長	設 楽 正 登

第68回（3日間コース）

期 日 平成5年2月17日(水)～19日(金)
 場 所 京都・ビル葆光
 参 加 者 28施設 44名
 演 題 第66回と同じ

リーダー	聖路加国際病院 用度課長	内 藤 均
	昭和大学病院 放射線技師長	神 田 幸 助
	武蔵野赤十字病院 事務部長	緒 方 廣 市
	東京医科大学病院 栄養課課長補佐	平 井 千 枝
	佼成病院 臨床検査技師長	設 楽 正 登
	(オブザーバー) 佼成病院 人事係長	渡 辺 修 孝

3. 総 評

本年度も例年どおり年3回の開催を実施した。

厳しい病院経営の中でも参加者は、予定人数に達している。病院側も職員の教育、部下の育成に積極的な姿勢が見られ派遣させているものと考えられる。

研修内容については、事例研究の評判が高く参加者同士がコミュニケーションをとり有意義な時間をすごしている。

当研修会としては、若い世代とのギャップを埋めるためサブリーダーを養成し中間管理職が上司と部下の連携を取りよりよい職場生活を望んでいる。

第7 セミナー

1. 病院長・幹部職員セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成4年8月1日(土)、2日(日)
3. 開催地 東京都 ダイヤモンドホテル「サファイア」
4. 参加者数 128施設 156名
5. 演 題

第1日 8月1日(土) 13:00~20:00

開会あいさつ 日本病院会 会長 諸橋 芳夫

講演「今回の医療費改定の主旨と今後の方向」

厚生省 保険局医療課長 小野 昭雄

座長：日本病院会 副会長 丹野 清喜

講演「ソ連の崩壊と医療の現況」

衆議院議員 中山 太郎

座長：日本病院会 会長 諸橋 芳夫

シンポジウム「医療費改定の影響と我が病院の対応」

演者：① 青梅市立総合病院 院長 星 和夫

② 織本病院 理事長 織本 正慶

③ 大道病院 理事長 大道 學

④ 西能病院 理事長 西能 正一郎

⑤ 板倉病院 院長 梶原 優

⑥ 公立陶生病院 院長 寺田 守

⑦ 栃木県済生会宇都宮病院 院長 宮崎 柏

⑧ 竹川病院 院長 竹川 節男

⑨ 厚生連広島総合病院 院長 高科 成良

⑩ 桑名病院 院長 桑名 昭治

特別発言：日本病院会 副会長 依田 忠雄

司会：日本病院会 副会長 中山 耕作

食事懇親

司会：日本病院会 会長 諸橋 芳夫

第2日 8月2日(日) 9:30~17:00

講演「国内外の政治情勢」

国際女性問題研究所 所長 江利川 安 栄
座長：日本病院会 会長 諸 橋 芳 夫

講演「医療保険制度・社会保険診療報酬制度の抜本改正」

京都大学 経済学部教授 西 村 周 三
座長：日本病院会 副会長 河 北 博 文

シンポジウム「看護学校運営をめぐる」

演者：① 総合会津中央病院 院長

星 源之助

② 武蔵野赤十字病院 院長

高 橋 勝 三

③ 有澤総合病院 理事長

有 澤 源 藏

司会：日本病院会 常任理事

伊 藤 研

「マスコミからみた病院への提言」

日本経済新聞社論説委員 渡 辺 俊 介

毎日新聞社論説委員 宮 武 剛

読売新聞社論説委員 小 谷 直 道

産経新聞社論説委員 塩 見 戎 三

座長：日本病院会 副会長 河 北 博 文

日本病院会 副会長 丹 野 清 喜

閉会式

6. 総 評

今年度のセミナーは、諸橋会長の担当で行われ、医療費改定の演題を中心として、さまざまな場面における医療の現状についての講演が行われ、会場をうめつくした参加者の真剣な聴講のまなざしが印象的であった。

2. 幹部医セミナー（病院医療の質を考えるセミナー）

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 平成4年11月14日(土)～11月15日(日)

3. 開催地 愛知県・瀬戸市

4. 参加者数 52施設 80名

5. テーマ

講演 「医療雑感」

公立陶生病院 院長 寺 田 守

司会 病院幹部医会会長 笹 森 典 雄

病院見学

シンポジウム 「病診連携のあり方」

座長	青山病院長	青 山 鍵 夫
コメンテーター	病院幹部医会副会長	木 村 明
演者	愛知県衛生技監	清 水 國 樹
	総合大雄会病院理事長	伊 藤 研
	市立岡崎病院長	小 田 博
	瀬戸旭医師会理事	山 内 一 征

シンポジウム 「公立陶生病院におけるコンピュータ・トータルシステムの紹介」

座長	薬剤部長	南 部 増 男
コメンテーター	病院幹部医会副会長	三 宅 浩 之
	副医務局長	岩 田 洋
	薬剤部	鷹 見 繁 宏
	副総婦長	長 嶺 幸 代
	総合企画室係長	丹 羽 訓

6. 総 評

地元役員による努力により、当初心配された参加人数も80名台になり大成功であった。とりわけ公立陶生病院には会場提供、準備等大変お世話になり、深謝する次第である。

3. 医療紛争防止のためのセミナー

- 開催回数 2回
- 開催期日 平成4年7月9日(木)、10日(金) -東京-
平成4年11月15日(日) -神戸-
- 開催地 東京・池袋サンシャインシティ文化会館5階特別ホール
神戸・西山記念会館
- 参加者数 東京：80名
神戸：160名

5. 演 題

(1) 東 京

第1日 7月9日(木)13:00~17:00

開会のあいさつ

日本病院会 常任理事

小 澤 寛 二

講演：「MRSA感染について」

東京女子医科大学 内科学教授

清 水 喜八郎

(座長：日本病院会 医療事故対策部会 委員

遠 藤 良 一)

講演：「エイズの動向と予防対策」

横浜市立大学医学部 公衆衛生学教授 曾田 研二

(座長：日本病院会 医療事故対策部会 委員 藤森 暢路)

第2日 7月10日(金)10:00~15:30

講演：「医療事故と看護」－問われる看護職の法的責任－

鈴木利廣法律事務所 弁護士 鈴木 利廣

(座長：日本病院会 医療事故対策部会 部会長 小澤 寛二)

講演：「死についての諸問題」－脳死・自然死・医療事故死－

日本医師会 生命倫理想談会 副座長 坂上 正道
北里大学客員教授/日本医師会 副会長

(座長：日本病院会 医療事故対策部会 委員 藤森 暢路)

講演：「看護記録」－診療報酬改定に伴う看護の経済性－

前・東海大学医療技術短期大学 学部長 前田 マスヨ

(座長：日本病院会 医療事故対策部会 委員 佐藤 とく)

(2) 神戸

11月15日(日)9:15~17:00

開会あいさつ

日本病院会 常任理事 小澤 寛二

兵庫県医師会 副会長 石戸 力

講演：「看護を中心とした医療過誤訴訟の現状と問題点」

法務総合研究所 研究第一部長 飯田 英男

〈司会：日本病院会 医療事故対策部会 委員
藤森病院 理事長 藤森 暢路〉

講演：「話題の感染症－MRSA感染及びエイズを中心に－」

東京女子医科大学 内科学教授 清水 喜八郎

〈司会：日本病院会 医療事故対策部会 委員
前・東海大学医療技術短期大学学部長 前田 マスヨ〉

講演：「救急医療の法律問題」

(株)兵庫県私立病院協会 顧問 元原 利文
弁護士

〈司会：小原病院 院長 小原 知次郎〉

講演：「新カリキュラムの卒業生を迎えての卒後教育の実際」

虎の門病院 看護部長 栗屋 典子

〈司会：日本病院会 医療事故対策部会 委員
東京警察病院 総看護婦長 佐藤 とく〉

講演：「変わりゆく医療と看護の責任」

NHK解説委員 行天 良雄

〈司会：日本病院会 医療事故対策部会 委員 林 茂〉
川崎市立川崎病院 院長

閉会挨拶 日本病院会 医療事故対策部会 部会長 小澤 寛二

6. 総 評

今年度は感染症対策、看護の問題を中心とした演題で開催した。

来年度から名称を「医療事故防止のためのセミナー」と改め、より現場に密着したセミナーとなることと思う。

4. 病院防災セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成4年7月23日(木)
7月24日(金)
3. 開催地 兵庫県 兵庫県民会館
4. 参加者数 76施設 84名
5. 演 題

第1日 平成4年7月23日(木)

開会の挨拶	日病防災対策部会長	上 田 侃
	神戸・小原病院長	小 原 知次郎
歓迎の挨拶	兵庫県私立病院協会	北 村 行 彦
	神戸消防局予防部長	西 田 和 馬

〔講 演〕 (防災経費軽減策)

「これからの病院防災と経済 パートⅢ」

小原病院長	小 原 知次郎
(司会：防災対策部会長)	上 田 侃

〔特別講演〕 「集団救急事故における病院との連携について」

自治省 消防庁 救急救助課長 朝 日 信 夫

〔講 演〕 「スプリンクラー・自動火災報知器設備等の新設、
改修工事に対する経費軽減策」

能美防災(株) 部長 中 島 謙 一

〔講 演〕 「スプリンクラー設置工事概要について」

北都病院事務長 平 井 勝

〔シンポジウム〕 「放火対策を含む防火対策」

(病院火災にあった病院の方の体験談を含む)

演者：① 東海記念病院参与	岸 上 香
② 市川病院長	市 川 茂 夫
③ 兵庫県警捜査一課警視	三 宅 信 弘
④ 兵庫県警科学捜査研究所 科長	坂 本 信 晴
座長：東海記念病院長	岡 山 義 雄

[分科会 (フォーラム)]

「新しい看護体制と防災」と「災害時近隣協力体制の確立方法」

演者：① 朝来郡広域消防事務組合消防本部予防係長消防司令補	山 田 卓 己
: ② 高陽ニュータウン病院看護婦長	佐々木 詩 子
: ③ 神戸市立中央市民病院看護副部長	古 西 公 幸
: ④ 社会福祉法人 上野丘さつき会上野丘更生寮 主任	光 本 祥 次
(座長：大口東総合病院常務理事	石 田 貞 治)

第2日 平成4年7月24日 (金)

[講 演]

「チェルノブイリ原発事故と放射能汚染地域の医療と防災」

諏訪中央病院長 鎌 田 實

[フォーラム・ディスカッション]

「夜間・休日災害時のリーダーとその任務（どう対処する、患者の高齢化と夜間業務の外注化）」

演者：① 聖路加国際病院事務部顧問	上 林 三 郎
: ② 学校法人順天堂事務局	倉 持 一 雄
: ③ 神戸市消防局査察係長	田 中 利 紀
(座長：小原病院長	小 原 知次郎)

[防災指導]

「病院防火管理者の院内点検の基本的なポイント」

神戸市消防局査察課長 岡 内 久 明

防災センター：神戸市消防局音楽隊による演奏・防災体験

(企画・協力／神戸市消防局)

閉会の挨拶

日病防災対策部会 副部会長 小 原 知次郎

6. 総 評

今回のセミナーは地元小原病院長と神戸市消防局の多大なるご尽力のおかげで成功裡に終わりました。

5. 事務長セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成5年3月11日(木)～12日(金)
3. 開催地 東京都 野村ホール
4. 参加者数 110施設 117名
5. 演 題

① 特別講演「医療法の改正について」

厚生省健康政策局総務課課長補佐 高原 弘 海

② 講演「これからの病院経営」

～一般病床と療養型病床について～

国立医療・病院管理研究所医療経済研究部研究院 川 渕 孝 一

③ 講演「病院の電算化について」

日綱記念病院医療情報部システム総轄室長 中 村 政 明

④ シンポジウム「療養型病床群についての考え方」

座長：日本病院会事務管理研究会顧問 益 田 啓 作

杏雲堂病院事務長 山 下 昭 雄

聖隷福祉事業団常務理事 山 本 敏 博

河北総合病院事務長 佐々木 和 男

医療法人きっこう会事務局長 海 北 幸 男

6. 総 評

日本病院会の定例・全国研究会、そしてセミナーを含め、平成4年度を締めくくる当セミナーが東京：青山にて開催された。

メインテーマは“医療法改正”特に療養型病床群を中心とした、白熱した討議が展開された。

今回の目玉は改正医療法に直接関わったとされる、厚生省健康政策局総務課・高原弘海課長補佐の講演。

作者（講師）から読者（参加者）へ、メディアを介さないインパクト。

この、まさに“本当の話”をどのように“熟読”するかが、参加者を含め我々の大きな、真のテーマとなった。

恒例の「益田啓作シリーズ」“対談”は法改正に伴い、異例のシンポジウムへとこちらも「改正」され、わが日本病院会の誇る事務管理研究会の委員が、シンポジストとして独自に改正医療法を“読破”した。

また、それぞれの講演・シンポジウムの後半に設けられたQ&Aタイムでは、参加者の手が次々と挙り、療養型病床群への移行に伴い“手を挙げる”予行演習のような雰囲気さえ感じられた、

充実したセミナーとなった。

6. 総婦長セミナー

1. 開催回数 1回

1. 開催期日 平成4年8月26日(木)、27日(木)

3. 開催地 東京・番町グリーンパレス

4. 参加者数 102施設 127名

5. 演 題

(1) 「医療の質について」

日本医科大学医療管理学教室教授 岩 崎 榮

(2) 「ある留学僧の母の心」

立正大学大学院教授 河 北 騰

(3) 「医療法改正後の病院の運営について」

日本大学医療管理学教室教授 大 道 久

(4) 「今、病院に何がおきているのか」

－老人看護の社会的側面－

江戸川病院分院院長 青 井 禮 子

6. 総 評

参加人員は127名で、ここ数年の状況に比べて看護部長（総婦長）の参加が目立ち、本来の総婦長セミナーの色彩が濃くなった。

看護への再認識のもとに、看護のあり方を模索する管理者の姿を伺い知ることができた。日進月歩の最新医学の成果を国民に提供するの医療界の責任である。今後も参加者相互の交流を通じて意義のあるセミナーとして発展させていきたい。

7. 患者サービス向上セミナー

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 平成5年2月18日(木)、19日(金)

3. 開催地 浜松市・浜松市福祉文化会館

4. 参加者数 59施設 97名

5. 演 題

「21世紀の病院医療」

～病院をめぐる社会状況の変化と患者サービス～

(1) 基調講演「21世紀の病院医療」

～病院をめぐる社会状況の変化と患者サービス～

総合病院聖隷浜松病院院長 中山 耕作

(2) 特別講演「医療関連サービスを活用した患者サービス」

厚生省健康政策局指導課課長補佐 大久保 一郎

(3) パネルディスカッション

「院外からみた患者サービス」

～患者サービスの更なる向上のために～

① 「患者さんとの対応～サービスの原点～」

パネリスト スピーチ&マナーズ研究所代表 田中 敏之

〃 ② 「市民の目から見た患者サービス」

静岡新聞浜松総局長（聖隷浜松病院倫理委員） 古橋 伸元

座長 西能病院常務理事 中 永久光

(4) 事例発表「新しい患者サービスの潮流」

① 「医療はサービス業であるか？・・・ゼロからの発想・・・」

～ホテル・フランクス～

亀田総合病院副院長 亀田 省吾

② 「医食同源レストラン」

東京衛生病院企画広報課課長 宮崎 恭一

③ 「待ち時間短縮～診療費自動収受、オーダーリング、再診受付～」

総合病院聖隷浜松病院事務次長 松本 洋一

④ 「訪問看護ステーションの設立について」

聖隷福祉事業団総務部長 田島 誠一

6. 総 評

今日の厳しい経営環境の中では、思いつきでや物真似でなく、病院の特徴を活かしたサービス向上が求められており、そのような中で総務部門の果たすべき役割がますます重要になってきていることを背景にして、本セミナーは「21世紀の病院医療～病院をめぐる社会状況の変化と患者サービス」を主なテーマに企画した。

特に、ユニークなサービス向上策を実践している4病院からの事例報告に見られるように、全体を通じて病院サバイバル時代におけるサービス向上の指針を見出す場となるよう配慮したこともあり、現場の生の声が行き交う、熱気のこもった雰囲気の中でセミナーは終始した。

参加者は医師、看護婦、事務と多岐にわたり、セミナーを通じて患者サービスのあり方及びその重要性が再認識させられた。

8. 放射線技師監督者セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成5年1月21日(木)～23日(土)
3. 開催地 熱海市・ホテル松風苑
4. 参加者数 17施設 17名
5. 演 題

「良い指導者になるためには」

(1) 「3分間スピーチ」

司 会

都立清瀬小児病院放射線科係長

関 孝 一

川崎幸病院放射線技師長

松 元 和 敏

(2) 講演「院内から見た患者サービス」

三樂病院院長

林 文 彦

(3) 講演「部外から見た病院」

(株)ケルン代表取締役社長

堀 池 総一郎

(4) 全体討議「患者サービス」

座 長

三樂病院副院長

松 本 泰 二

副座長

聖テレジア病院放射線科顧問

大 内 周 信

〃

北品川総合病院放射線技術部課長

佐 藤 尚 義

(5) 全体討議「勤労意欲」

座 長

東京既製服健保会館診療所エックス線室

虎 渡 勇 二

副座長

国立東京第二病院放射線科副技師長

杉 尾 敏 憲

〃

日本医科大学附属病院放射線科係長

村 越 秀 光

(6) 講演「病院経済と今後の見通し」

河北総合病院理事長

河 北 博 文

(7) 全体討議「業務の合理化」

座 長

聖路加国際病院放射線科部長

松 岡 龍 平

副座長

東京女子医科大学こう原病リウマチ痛風センター
放射線技師

栗 田 道 雄

〃

(社)日本病院会放射線研究会委員

関 孝 一

(8) 「事例研究の説明」

(社)日本病院会放射線研究会委員

栗 田 道 雄

(9) 「事例研究」

(10) 「事例発表」

司 会

(社)日本病院会放射線研究会委員

栗 田 道 雄

(1) 講演「エックス線造影剤の進歩と最近の知見」

山之内製薬(株)医薬部第三室 上 出 厚 志

(2) 『5分間感想文』

6. 総 評

当セミナーは「良い指導者になるためには」を主テーマに開催され、今回を含めて延べ748名が修了証を受けとった。

「患者サービス」の実際例のほか、技師の労働力向上をはかる観点から「勤労意欲」「業務の合理化」に関する講演、全体討議さらに事例研究を加えたプログラムを企画した。

厳しい医療環境を反映して、参加者が単に放射線部門の範囲にとどまらず、病院経営全般について寝食を共にし本音で語り合う姿が見られた。

病院内での放線技師に課せられた重責を再認識し、今後も研修の実をあげるよう、なお一層の改善に努めたい。

9. 臨床検査管理セミナー

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 平成5年2月5日(金)、6日(土)

3. 開催地 熱海市・湯河原研修クラブ

4. 参加者数 12施設 13名

5. 演 題

(1) 「エイズについて」

東京医科大学名誉教授 藤 巻 道 男

(2) シンポジウム「検査室管理のための院内・院外検査の対応」

1. 検査センターの立場

株式会社SRL専務取締役 赤 石 清 美

2. 病院技師長の立場

湘南鎌倉病院検査室技師長 小清水 房 也

総合病院聖隷三方原病院技師長 宇佐見 元 章

順天堂大学浦安病院技師長 川 畑 貞 美

(3) グループ討議「検査室管理のための院内・院外検査の対応」

(4) 「検体検査における新技術の導入」

三井記念病院技師長 前 畑 英 介

6. 総 評

今年度のセミナーは、「検査室管理のための院内・院外検査の対応」をメインテーマに講演2

題とシンポジウム・グループ討議が2日間にわたり予定通り行われた。本セミナーの特徴の一つとして、グループ討議がある。それぞれの立場から問題提起をし、夜更けるまで本音で語り合うのである。参加者は今後の病院運営に多くの有益な示唆を与えられたものと思われる。今後も具体的な内容を伴ったセミナーとして運営していきたい。

第8 診療録管理通信教育

1. 入学状況

○第41期生入学

- 1) 開講月日 平成4年7月1日
- 2) 入学者数 81名(ただし、2年次編入13名含む)
- 3) 受講料 70,000円(年額)(ただし、2年次編入で教科書不要の者は60,000円)

○第42期生入学

- 1) 開講月日 平成5年1月1日
- 2) 入学者数 145名(ただし、2年次編入74名含む)
- 3) 受講料 70,000円(年額)(ただし、2年編入で教科書不要の者は60,000円)

2. 卒業状況

○第37回卒業

- 1) 卒業生数 75名(男15名、女60名)
- 2) { 卒業式典 平成4年10月24日(土)
同会場 東京：ダイヤモンドホテル
延1751名

○第38回卒業

- 1) 卒業生数 82名(男6名、女76名)
- 2) { 卒業式典 平成5年4月24日(土)
同会場 東京：ダイヤモンドホテル

3. 受講生人員数状況(5年3月31日現在)

○入学者の総数 4,377名

男 951名

女 3,426名

○卒業者の総数 1,833名

男 331名

女 1,502名

○受講者の総数 572名

38期以前	59名	39期	118名	40期	168名
		41期	80名	42期	144名

4. 集中スクーリング実施状況

第41回集中スクーリング

◦ 期日（平成4年8月20日(木)～26日(水)）

←第一年次スクーリング→			試 験	←第二年次スクーリング→		
第40・41期生			第37・39期生	第38・39期生 40・41期生の内2年次・編入者		
20日 (木)	21日 (金)	22日 (土)	平成4年8月23日 (日)	24日 (月)	25日 (火)	26日 (水)

〈会 場〉

東京：国際医療管理専門学校（1年次）	226名
国立オリンピック記念青少年総合センター（2年次）	406名
大阪：大阪府職業訓練センター（1年次・2年次）	248名
福岡：福岡大学医学部（1年次・2年次）	115名

第42回集中スクーリング

◦ 期日（平成5年2月18日(木)～24日(水)）

←第一年次スクーリング→			試 験	←第二年次スクーリング→		
第41・42期生			第38・40期生	第39・40期生 41・42期生の内2年次・編入者		
18日 (木)	19日 (金)	20日 (土)	平成5年2月21日 (日)	22日 (月)	23日 (火)	24日 (水)

〈会 場〉

東京：国立オリンピック記念青少年総合センター（1年次・2年次）	624名
大阪：大阪府職業訓練センター（1年次・2年次）	257名
福岡：福岡大学医学部（1年次・2年次）	125名

第9 事務長養成課程通信教育

1. 入学状況

- 第15回生入学
 - 1) 開講式 平成4年7月1日
 - 2) 入学者数 9名
 - 3) 受講料 480,000円(年額)

2. 卒業状況

- 第13回卒業
 - 1) 卒業者数 9名(男8名、女1名)
 - 2) [卒業式典 平成4年7月25日]
[同会場 東京：ダイヤモンドホテル]

3. 受講者人員数状況(平成5年3月31日現在)

- 入学者の総数 248名
 - 男 234名
 - 女 14名
- 卒業者の総数 130名
 - 男 124名
 - 女 6名
- 受講者の総数 31名
 - 14回生 22名 (留年生含)
 - 15回生 9名

4. 集中スクーリング及び試験実施状況

- 1) スクーリング
 - 前期 平成4年7月6日(月)～7月11日(土)
 - 7月13日(月)～7月18日(土)

5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	13日	14日	15日	16日	17日	18日
(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
試 験 (#14 1年次後期)	スクーリング (#14 2年次前期)					スクーリング (#15 1年次前期)						
東京：本願寺築地別院						第一伝道会館						

延出席者数 第14回生 114名

第15回生 54名

後期 平成5年1月11日(月)～16日(土)

1月18日(月)～23日(土)

10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日
(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
試 験 (#15 1年次前期)	スクーリング (#15 1年次後期)					試 験 (#14 2年次前期)	スクーリング (#14 2年次後期)						
東京：本願寺築地別院						第一伝道会館							

延出席者数 第14回生 104名

第15回生 54名

2) 試験受験状況

○ 第13回生 2年次後期

期 日： 平成4年6月7日(日)

場 所： 大阪：大阪早稲田速記秘書専門学校

受験者： 9名

合格者： 9名

○ 第14回生 1年次後期

受験者： 17名

合格者： 17名

○ 第15回生 1年次前期

受験者： 7名

合格者： 6名

○ 第14回生 2年次前期

受験者： 12名

合格者： 12名

第10 海外視察研究会

1. 中国医療施設視察団（全国自治体病院協議会との共同企画）

- ① 期 日 8月31日(月)～9月11日(金)11日間
- ② 訪問先 北京医院、黒龍江省衛生庁、中日友誼医院と中国医院管理雑誌社（ハルピン）、
西省立中医薬研究院附属医院、桂林、上海第六医院など
- ③ コーディネーター 小山田恵（岩手県立中央病院長）
- ④ 参加社数 9施設 12名

2. 国際病院連盟（IHF）汎地域会議参加とヨーロッパ病院施設視察旅行

- ① 期 日 10月20日(火)～10月31日(土)12日間
- ② 訪問先 ロンドンでのIHF汎地域会議参加、ZIEKENHUIS HILVERSUM（アムステルダム）、
ブラッセル大学附属エラスメ病院など
- ③ コーディネーター 牧野永城（IHF副会長）
- ④ 参加者数 7施設 10名

3. 第9回米国診療録管理業務視察旅行

11月3日から12日までの10日間、サンフランシスコ、ニューオリンズ、ニューヨークの3都市での中核病院の病歴室の見学を企画したが、申込者が少なく実施できなかった。

4. 米国高齢者ケア視察旅行

- ① 期 日 平成5年2月3日(木)～2月12日(金)10日間
- ② 訪問者 Alternative Living CenterとFlagship（高齢者居住施設）（ロスアンゼルス）、
ARA高齢者居住施設とマリOTT高齢者センター（サンシティ）、ジョン・リンカーン病院、
テキサスメディカルセンター、テキサス大学ヘルスサイエンスセンター、
医療センター、クレストビュー・リタイアメント・センター、ウォルデン・
リタイアメント・センターなど
- ③ コーディネーター 長澤泰（東京大学工学部建築学）
- ④ 参加者数 11施設 16名

5. 総 評

今年4本のツアーを企画したが、最近の社会状況の厳しき折、参加者が少なくなり、またツアー自体実施できないものもあった。今後ツアー自体のあり方、回数を考えなければならない。

第11 アジア病院連盟（AHF）理事会

1. 開催回数 1回（6月19日(金)、大阪・ホテルニューオータニ）

2. 出席者

Korea: Dr. Hahn, Doo Jin
Dr. Roh, Gyung Byung
Dr. Ha, Ho Uk

Taiwan, ROC: Mr. Wang, You-Ming
Dr. Yaung, Chin Liang
Dr. Chan, C. Steve
Dr. Wen, Lee Yun

Indonesia: Dr. Boediarso, A. W.
Dr. Mangunwidodo, Soebaryo
Dr. Nurhadi, Amin
Dr. Tambunan, H. A. Sanusi

Philippines: Dr. Clemente, Thelma N.
Dr. Afble, Laura

Japan: Dr. Morohashi, Yoshio
Dr. Kawakita, Hirobumi
Dr. Takahashi, Katsumi
Prof. Kiikuni, Kenzo
Dr. Makino, Eiki

3. 協議項目

① Call to order

Dr. Morohashi, the president of AHF, addressed the welcome remark to the members present and indicated that Dr. Makino, the vice president of IHF and the member of the International Committee of JHA would moderate the meeting on his behalf. No objection was expressed. Dr. Makino then commented on the grounds of having invited indefinite numbers of delegates from member states to the board meeting. He alluded to the fact that election of the Board members at its annual meeting as defined in the Constitution has not been practiced over the years and none of the existing members could be called "authorized" Board members in strict sense and there

was no way to tell who constitutes the members of the Board. However, until the matter settles clear, he proposed, 3 voting rights for each country were to be allowed as has been customary. No objection was expressed and the meeting was called to order.

- ② The minutes of Board of Governor's meeting held on November 20th of 1991 in Manila, Philippines

The minutes was not available at this time.

- ③ Appointment of Secretary General

The position of Secretary General has been vacant since Mr. Bustamante deceased from acute illness.

Dr. Kawakita put forward the proposal of appointing Dr. Makino as the new Secretary General for the period of 4 years. The nomination of Dr. Makino as the new Secretary General was seconded by Dr. Hahn but he proposed to modify the term of his office to "during the term of Dr. Morohashi's presidency" instead of 4 years. The proposal was seconded by Dr. Boediarso and was agreed unanimously. The chairman, however, stated that this decision as to the length of Secretary General's term would be tentative, as revision of the constitution requires due manner.

- ④ Financial statement for the period from Nov. 1989 to June 1992

This was explained by Dr. Clemente, the immediate Past President. The balance was reported as 61,665.00 pesos, equivalent to US\$ 2,486.50. She also explained about donation from member countries to the Asian Hospital Federation for the MT. PINATUBO victims. Donation totaled US\$ 7,000 and US\$ 4,000 remains as cash in bank.

- ⑤ Tentative budget for the period from Dec. 1, 1992 to Nov. 30, 1992

The budget was tabled and explained by the chairman. Total revenue was projected as US\$ 7,115 and JHA is to contribute US\$ 9,423 to cover the deficit resulting from expenditures of US\$ 16,538.

- ⑥ Review of Constitution

The chairman pointed out that the existing constitution is the original one effected on September 26, 1971 and it was before Indonesia joined the Federation. According to the constitution, the Board of Governors is to be composed of nine members elected during its annual meeting but this has not been practiced. There is also no clear description about the term of the president. These are only expamples and there

appear to be more items in the constitution that require reviewing or updating.

The chairman then proposed that a draft of amendment is to be made either by the Secretary General or by each of the member countries and to be presented at the next meeting.

Dr. Hahn then proposed that the first draft is to be made by Secretary General, specifying reasons for amendment and sent to the members prior to the next meeting.

Dr. Clemente seconded this but requested the allowance of 3 months prior to the next meeting for each member to study the draft.

Dr. Kiikuni then proposed that any member who has proposal of amendment should send it to the Secretary General at least 4 months prior to the meeting so that Secretary General could study proposals before he makes the final draft.

⑦ New membership recruitment

This was only for the confirmation among the member states to continue to promote the recruitment of new members of the Federation. Dr. Clemente quoted on her effort of new membership recruitment during her presidency term and pointed out the fact that many of the Asian countries do not have hospital associations. Possibility of inviting The People's Republic of China to the Federation Was discussed. Dr. Yaung of Taiwan, R. O. C. stressed that they would welcome any nations of Asia, including The People's Republic of China, to join the Federation as long as the status of Taiwan, R. O. C. remains unchanged.

Lastly, Dr. Kawakita asked the collaboration of the member countries on 1994 Pan-Regional Conference to be hosted by the Japan Hospital Association under the presidency of Dr. Morohashi.

The meeting was adjourned.

第12 医療従事者無料職業紹介事業

(表) 平成4年度の実績

	求職件数	求人件数	就職件数	繰越件数
医師	49	101	5	7
看護婦	0	117	0	0
その他	7	30	0	2
計	56	248	5	9

就職件数5人（医師）の内訳

- ① 専門
 - 内科 3人
 - 整形外科 1人
 - 産婦人科 1人
- ② 年齢
 - 30代 1人
 - 40代 1人
 - 60代 1人
 - 70代 2人
- ③ 就職地
 - 東北 1人
 - 関東 4人

総 評

平成4年度の求職件数は医師が49人、看護婦はゼロ、その他7人（事務職5、放射線技師1、MSW1）、合計56人であり、ここ2～3年ほぼ同様の件数である。求人件数は医師101人、看護婦117人、その他30人、合計248人となっており、この件数も最近の傾向と大差はないが、看護婦については一病院で多数の求人登録をしてきたところもあり、やや大きな数になった。そして就職件数としては医師5人が決定し、その内訳が上記のようになっている。平成5年度への繰越件数は医師7人、その他2人となっている。

現在は医家向け専門誌1誌に医師招へいの広告を掲載し、会員病院からの求人登録を参照して紹介業務を行っているが、双方の需給の関係（専門科、年齢、希望勤務地等）が一致せずに決定にまで至らないケースが多い。看護婦その他の職種については求職件数そのものが少なく実績をあげるには至らないが、現状では医師中心の紹介事業として推移している。

第13 病院幹部医会

1. 幹事会

- 1) 開催期日 平成4年11月14日(土)
- 2) 会 場 公立陶生病院
- 3) 協議項目 1. セミナーの運営について

2. 幹事会・総会

- 1) 開催期日 平成4年12月10日(木)
- 2) 会 場 日本病院会・会議室
- 3) 協議項目 1. セミナー等の収支状況について
2. 平成5年度事業計画について
以上原案どおり承認された。

3. 幹事会

- 1) 開催期日 平成4年2月19日(金)
- 2) 会 場 日本病院会・会議室
- 3) 協議項目 1. 来年度セミナーの運営について

第14 調 査 室

本年度は、「病院運営実態分析調査」の他「診療報酬改定による影響率調査」、「療養型病床に関する調査」を実施した。

◎平成4年度 病院概況調査報告書

1. 病 院 概 況 （病院数、病床数、専用病床保有状況）
2. 患 者 状 況 （入院－外来、救急比率等）
3. 設 備 状 況 （ICU、CCU、未熟室、医療機器、コンピュータ等）
4. 職 員 数 （職種、病床規模、1病院当り、100床当り、開設者、常勤、非常勤別）
5. 部門別業務量 （診療、薬剤、放射線、検査、給食、事務等）
6. 外注委託状況 （寝具、清掃、給食、検査等）
7. そ の 他 （基準看護、救急告示、手術件数、敷地－建物面積、剖検率、病床利用率、平均在院日数等）

第15 四病院団体連絡協議会

1. 総合部会

4月28日(火) 12名

1. 医療費改定問題について
2. 医療法の改正について
3. 看護婦等マンパワー問題について
4. 医療機関倒産の現状について
5. 自治医科大学卒業生の活動状況について

5月26日(火) 10名

1. 医療法改正について
2. 医療費問題について
3. 看護婦等の人材確保促進法案について

6月30日(火) 10名

1. 医療法改正について
2. 看護婦等の人材確保の促進に関する法律について
3. 看護小委員会の報告について
4. 医療費・病院経営問題について
5. 病院団体団結について
6. 外国人の医療費未払問題について

7月29日(休) 13名

1. 医療法改正について
2. 病院団体団結について
3. 外国人患者の治療費未払いの件についての要望

8月21日(金) 13名

1. 医療法の改正について
2. 医療費の改定について
3. エイズ対策について

10月28日(休) 13名

1. 「看護婦等の人材確保の促進に関する法律」の政省令について
2. 第三次医療法改正について

12月21日(月) 14名

1. 看護婦等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針(案)について

2. 患者環境改善施設整備事業について
3. 看護婦の官民格差是正の要望書（案）について
4. 看護婦等医療従事者の採用時留意事項に関する要望書（案）について
5. 次期医療法改正について
6. 診療報酬の引上げ等について

2月25日(木) 12名

1. 療養型病床群の診療報酬について
2. MRSA対策について
3. 看護婦等医療従事者の採用時留意事項について

2. 医療制度委員会

平成4年9月16日(木) 8名

- 1) 改正医療法・政省令事項について

3. 看護小委員会

4月24日(金) 16名

1. 基準看護について
2. 看護婦の人材確保の促進に関する法律案について
3. 看護業務見直し改善事業の概要案について

5月20日(木) 7名

1. 基準看護について
2. 看護婦等の人材確保法案について

6月25日(木) 11名

1. 基準看護について
 - ア. 基準看護の改正点について
(厚生省保険局医療課 森山課長補佐)
 - イ. 問題点
2. 看護職員の勤務体制について
3. 看護婦等の人材確保の促進に関する法律について

7月27日(月) 10名

1. 国・公立病院と民間病院との正看比率格差の解消について
2. 准看護婦の正看登用の方策の再検討
3. 医療法改正への対応（療養型病床群について）

4. 基準看護無類病院への対応

9月1日(火) 9名

1. 基準看護について
2. 看護婦の引き抜きについて

10月8日(木) 14名

1. 看護婦(士)充足のための官民格差の是正に関する要望(案)について
2. 看護婦等医療従事者の採用時留意事項に関する要望(案)について
3. 看護業務検討会の報告について
4. 准看護婦の看護婦国家試験受験資格取得について
5. 中国人看護婦の受け入れ

11月13日(金) 10名

1. 看護婦の官民格差是正の要望書について
2. 看護婦等医療従事者の採用時留意事項に関する要望書について
3. 最近の医療監視の実状について

12月10日(木) 13名

1. 看護婦等医療従事者の採用時留意事項に関する要望書(案)について
2. 看護学生の奨学金の問題
3. 11月13日、NHKで放映された看護問題についての番組をみて
4. 基準看護病院の二交替制について(厚生省保険局の最近の見解)

1月27日(木) 11名

1. 平成5年度看護婦等確保対策費等の予算(案)について
2. 基準看護について
3. 看護婦等医療従事者の採用時留意事項について

2月24日(木) 12名

1. 厚生省看護業務検討会の経緯について
2. 看護婦等奨学資金に係る契約書等について
3. 基準看護について
4. 労働時間短縮問題について

第16 第42回日本病院学会

1. 学 会 長 有澤源蔵（医療法人有恵会理事長）

2. テ ー マ 新時代の病院像

——質の向上と機能改革——

3. 開催期日 平成4年6月18日(木)～20日(土)（ただし、20日(土)はカルチャーコースのみ）

4. 開催地 大阪府・大阪市

5. 会 場 ホテルニューオータニ大阪

6. 演 題

(1) 特別講演 3題

「禅 窓」

講 師 臨済宗天龍寺派管長 平 田 精 耕

座 長 第42回日本病院学会副学会長 岸 口 繁

「大阪人と大阪ことば」

講 師 エッセイスト 和多田 勝

座 長 第42回日本病院学会プログラム委員長 牧 安 孝

「出雲から長寿福祉社会を考える」

講 師 出雲市市長 岩 國 哲 人
バージニア大学客員教授

座 長 第42回日本病院学会副学会長 中 野 博 光

(2) シンポジウム 3題

「新時代の病院像 —質の向上と機能改革—」

司 会 日本病院会会長 諸 橋 芳 夫

演 者 厚生省健康政策局指導課課長 今 田 寛 睦

“ 公立みつき総合病院院長 山 口 昇

“ 公立陶生病院事務長 中 尾 親 哉

“ 淀川キリスト教病院院長 白 方 誠 彌

“ 総合病院多根病院総婦長 西 本 英 子

「日本の医療保険制度は将来の国民の健康を守るか」

司 会 京都大学経済学部教授 西 村 周 三

演 者 社会保障研究所主任研究官 高 木 安 雄

“ 帝塚山大学教授 跡 田 直 澄

演者	朝日新聞編集委員	有岡二郎
〃	近畿大学医学部公衆衛生学教室助手	岡本悦司
〃	佐藤病院院長	佐藤眞杉
「病院較差 ー中小病院問題を踏まえてー」		
司会	NHK解説委員	行天良雄
演者	国立がんセンター名誉総長	杉村隆
〃	日本医師会常任理事	吉田清彦
〃	ノンフィクション作家	中島みち
〃	大浜第一病院院長	廣田耕三
〃	医療法人愛仁会理事長	中後勝

(3) 一般演題 305題

7. 医療人の集い (ホテルニューオータニ大阪)

8. 併設集会

AHFフォーラム

「各国医療制度の問題点」

スピーカー各国病院代表

司会

聖路加国際病院顧問 牧野永城

9. 併設カルチャーコース

- (1) 大阪府内の病院見学
- (2) 大阪周辺の3コース

10. 同時開催展示会

'92大阪国際メディカルショー (大阪城ホール)

11. 参加者 延べ 6,000名

12. プログラム (別掲)

第42回 日本病院学会 新時代の病院像 一質の向上と機能改革

月日	会場	時刻	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時
6/17 (水)	日本病院会					日病 会長・副会長会議 (2F せきれいの間)		日病 合同理事会 (B1F さつきの間)				日病・大病・私病 合同役員会 (2F 鳳凰の間)		

6/18 (木)	第1会場 (2F)	翠鷲の間 (1200席)	登録受付 (2階ロビー) *6/18(木) 午前 9:00~ *6/19(金) 午前 8:15~	開会式	特別講演(1) 平田 精耕	休 憩	シンポジウム(1) 新時代の病院像 一質の向上と機能改革	特別講演(2) 和多田 勝	医療人の集い 18:30~ 参加費 7,000円
	第2会場 (2F)	鳳凰の間 (400席)		看護部門 1、 看護管理 (1X2X3) 感染 (1X2)					
	第3会場 (B1F)	あやめの間 (200席)		公衆衛生部門	事務管理 (1X2X3X4X5)				
	第4会場 (B1F)	さつきの間 (200席)		給食・栄養部門 (1X2X3X4)	救急医療 (1X2)		地域医療 (1X2)		
	第5会場 (B1F)	もくせいの間 (200席)		看護部門 2 看護の質に関するもの (1X2X3X4X5) 看護教育					
	第6会場 (B1F)	ももの間 (200席)		病院施設 機器管理	病歴情報 管理		リハビリテーション (1X2X3)		
	学会評議員会 (2F)	はくちょうの間 (150席)		評議員会	'92 大阪国際メディカルショー (大阪城ホール)				

6/19 (金)	第1会場 (2F)	翠鷲の間 (1200席)	登 録 受 付	シンポジウム(2) 日本の医療保険制度は将来の国民の健康を守るか		休 憩	学会 総会	特別講演(3) 岩國 哲人	シンポジウム(3) 病院格差一中小病院問題を踏まえて	閉会式
	第2会場 (2F)	鳳凰の間 (400席)		看護部門 3 患者サービス (1X2X3X4X5)			看護部門 4 改善・考案 (1X2X3)			
	第3会場 (B1F)	あやめの間 (200席)		病院経営 (1X2X3)	病院建築		福祉 部門	老人、訪問・在宅医療 (1X2X3X4)		
	第4会場 (B1F)	さつきの間 (200席)		薬 剤 部 門 (1X2X3X4)			教育・研修 (1X2)	検 査 部 門 (1X2X3)		
	第5会場 (B1F)	もくせいの間 (200席)		看護部門 5 改善・考案 (4X5X6) 基準			看護部門 6 一般看護・心理 (1X2X3)			
	第6会場 (B1F)	ももの間 (200席)		放射線部門 (1X2X3X4)			看護部門 7 患者指導 (1X2) 終末			
	AHFフォーラム (2F)	はくちょうの間 (150席)		AHFフォーラム 各国医療制度の問題点			'92 大阪国際メディカルショー (大阪城ホール)			

6/20 (土)	カルチャーコース													
'92 大阪国際メディカルショー (大阪城ホール)														

第17 第33回日本人間ドック学会

1. 学 会 長 長崎 彬 (高知赤十字病院院長)
2. テ ー マ 医療の進歩に伴う人間ドックの役割
3. 開催期日 平成4年9月3日(木)～4日(金)
4. 開催地 高知県・高知市
5. 会 場 高知県民文化ホール
6. 演 題

(1) 学会長講演 1題

「人間ドックの問題点について」

講 師

第33回日本人間ドック学会長
高知赤十字病院院長

長 崎 彬

座 長

日本人間ドック学会理事長
岡山赤十字病院院長

依 田 忠 雄

(2) 特別講演 1題

「人間ドックは健やかな長寿社会への鍵

－実験医学とWHO世界調査からの最新情報－」

講 師

島根医科大学病理学教室教授

家 森 幸 男

座 長

高知医科大学公衆衛生学教授

大 原 啓 志

(3) 招待講演 (公開講演) 1題

「寺田寅彦とその周辺」

講 師

元共同通信社常務理事

山 田 一 郎

座 長

第33回日本人間ドック学会長

長 崎 彬

(4) 教育講演 2題

「人間ドックにおける検診技術の進歩」

講 師

高知医科大学臨床検査医学教授

佐々木 匡 秀

座 長

田中整形外科病院院長

田 中 稔 正

「乳癌検診と画像診断法」

講 師

徳島大学医療技術短期大学部教授

森 本 忠 興

座 長

高知市立市民病院院長

山 本 彰 芳

(5) 臨床予防医学委員会報告 1 題

「人間ドック・自動化健診全国集計」

報 告 日本病院会臨床予防医学委員会・学術図書委員
牧田総合病院副院長 笹 森 典 雄

座 長 日本人間ドック学会前理事長
大阪赤十字病院名誉院長 二本杉 皎

(6) シンポジウム 2 題

「人間ドックにおける肥満と疾病」

司 会 高知赤十字病院内科部長 近 森 一 正

1) 定義・判定・診断・疫学

横浜市立大学医学部第三内科助教授 井 上 修 二

2) 糖尿病

広島原爆障害対策協議会健康管理・増進センター副所長 伊 藤 千 賀 子

3) 高血圧 ー肥満者における高血圧のリスクファクターー

福岡大学医学部健康管理学教室助教授 守 田 則 一

小 川 健 一

4) 肝・胆疾患について

日本赤十字社医療センター第一消化器科診療副部長 吉 次 通 泰

〔特別発言〕

若年層（大学生）における肥満とその問題点

名古屋大学総合保健体育科学センター教授 佐 藤 祐 造

5) 産婦人科疾患

徳島大学医学部産科婦人科学教室教授 青 野 敏 博

6) 治療 ー減量指導のすすめかたー

東京慈恵会医科大学健康医学センター相談部医長 大 野 誠

「人間ドックと癌検診」

司 会 日本赤十字社熊本県支部健康管理センター所長 小 山 和 作

1) 肺癌検診

高松赤十字病院外科部長 森 田 純 二

2) 人間ドックにおける胃癌検診

山梨県厚生連健康管理センター所長 小 林 一 久

3) 下部消化管の癌について ー特に早期大腸癌の発見についてー

秋田赤十字病院外科部長 工 藤 進 英

- 4) 肝・胆・膵・腎癌について ー腹部超音波検診成績をもとにー
日本赤十字社熊本県支部健康管理センター健診部長 三原修一
- 5) 人間ドックと子宮癌検診
藤間病院産科婦人科部長 清水謙
- (7) ワークショップ 1題
「人間ドックにおける一次予防について」
司会 東京警察病院顧問 鈴木豊明
- 1) 人間ドックにおける一次予防としての食事栄養指導の役割
(財)ライフプランニングセンター 寄崎靖子
- 2) 人間ドックにおけるこれからの栄養指導について
牧田総合病院附属健診センター栄養部 三浦邦子
- 3) 人間ドックにおける運動指導の実際
名古屋大学総合保健体育科学センター助教授 島岡清
- 4) 骨ドック（骨密度測定法）の試み〔第一報〕
富田浜病院健康増進センター 大西孝枝
河野稔彦
- 5) 人間ドックにおける禁煙教育の評価
日本赤十字社熊本県支部健康管理センター 盛川恵美子
竹野紀美子
- 6) 禁煙セミナーの実際
(財)秋田県総合保健事業団ドック健診課 中村泰子
永井裕子
- 7) 人間ドックの領域における、疲労の診断とその意義
東京警察病院保健検診センター 成田登喜子
- (8) 一般演題 155題
7. 併設展示会
医療関係機器等の展示、実演
8. 参加者 1,200名（登録参加）
9. プログラム （別掲）

第33回日本人間ドック学会日程

第1日(9月3日)

時刻	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場
	(県民文化ホール)	(県民文化ホール)	(中央公民館)	(医師会館)	(グリーン会館)
8:40	受付	←「人間ドックの問題点について」 長崎 彬			
9	開会式				
9:10	学会長講演				
10	シンポジウムⅠ 「人間ドックにおける肥満と疾病」				
11					
12	休憩 評議員会(高知新阪急ホテル)				
13	総会	←「人間ドック・自動化健診全国集計報告」 笹森 典雄			
14	臨床予防医学委員会報告				
14	教育講演Ⅰ	←「人間ドックにおける検診技術の進歩」 佐々木 匡秀			
15	ワークショップ	循環器Ⅰ (7~11)	肥満Ⅰ (33~36)	上部消化管 (59~64)	体力・運動Ⅰ (86~90)
16	「人間ドックにおける一次予防について」	循環器Ⅱ (12~16)	肥満Ⅱ (37~40)	大腸Ⅰ (65~68)	体力・運動Ⅱ (91~95)
16		循環器Ⅲ (17~21)	肥満Ⅲ (41~44)	大腸Ⅱ (69~72)	検査Ⅰ (96~99)
17	脂質 (1~6)	検診システム (22~27)	糖代謝Ⅰ (45~49)	大腸Ⅲ (73~76)	検査Ⅱ (100~103)
17		健診 (28~32)	糖代謝Ⅱ (50~54)	肝・胆Ⅰ (77~80)	検査Ⅲ (104~107)
18		骨・他 (55~58)	肝・胆Ⅱ (81~85)	食事・栄養 (108~111)	
18:30	懇親会(高知新阪急ホテル)				

第2日(9月4日)

時刻	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場
8:10				受付	受付
8:30				甲状腺 (135~138)	心理 (146~150)
8:40	受付	受付	受付		
9	泌尿器 (112~114)	生活指導Ⅰ (120~124)	脳 (129~131)	乳 腺 (139~142)	ストレス (151~155)
9	腎 (115~119)	生活指導Ⅱ (125~128)	眼科・その他 (132~134)	癌検診 (143~145)	
10	特別講演	←「人間ドックは健やかな長寿社会への鍵」 —実験医学とWHO世界調査からの最新情報— 家森 幸男			
11	教育講演Ⅱ	←「乳癌検診と画像診断法」 森本 忠興			
12	休憩				
13	シンポジウムⅡ	←「寺田虎彦とその周辺」 山田 一郎			
14	「人間ドックと癌検診」				
15	開会式				
16	招待講演 (公開講演)				
17					
18					

第18 第18回日本診療録管理学会

1. 学 会 長 山本修三（済生会神奈川県病院院長）

2. 開催期日 平成4年9月10日(木)・11日(金)

3. 開催地 神奈川県・横浜市

4. 会 場 パシフィコ横浜（横浜国際平和会議場）

5. 演 題

(1) 教育講演 1 題

「ICD-10；概要と改正点」

厚生省統計情報部 ICD室室長 河合 誠 義
司会 日本医科大学医療管理学教室 岩崎 榮

(2) 特別講演 1 題

「医療記録と医史学 —ジェンナーとパストゥールを巡って—」

川崎市立井田病院総合医療部長 大村 敏 郎
慶応義塾大学医学部医史学客員教授
司会 第18回日本診療録管理学会会長 山本 修 三

(3) 会長講演 1 題

「情報提供からみた診療録管理」

済生会神奈川県病院院長 山本 修 三
司会 大阪厚生年金病院名誉院長 岡 益 尚

(4) シンポジウム 1 題

「情報化社会における診療録管理室の役割」

司会 産業医科大学 江川 寛

1. 診療録管理室に対する医師からの要望

沖縄県立中部病院外科 松本 廣 嗣 他

2. 看護と診療録管理

鹿児島大学医学部附属病院医療情報部 宇都由美子他

3. 情報化社会におけるパラダイムシフトと診療録管理

日鋼記念病院 西村 昭 男

4. 診療録管理士の立場から

新潟市民病院診療情報部病歴室 金子 裕 子

5. 情報システム担当の立場から

産業医科大学病院管理学教室 舟谷文男

(5) ワークショップ 1題

「診療録管理室の基本業務－病院機能標準化マニュアルを踏まえて－」

司会 日本病院会副会長 河北博文

1. 診療録管理室の基本業務－病院機能標準化マニュアルを踏まえて－

新潟市民病院 木村明

2. 情報処理の立場からみた診療録管理

自治医科大学附属大宮医療センター医療情報部 渡邊亮一

3. 診療録管理室の基本業務－病院機能標準化マニュアルを踏まえて－

北里大学東病院病歴部 長澤哲夫

4. 原点に戻り、診療録管理室の必要性が問われる今－基本業務とその基準について－

虎の門病院病歴室 三浦葉子

5. 診療録管理業務の基準と将来に向けての提案 大阪府立病院病歴室 大津淑子

(6) 一般演題 50題

演題 1～4

座長 杏林大学医学部病院管理学 信川益明

松村総合病院診療管理部 有坂馨

コンピュータ

1. リレーショナルデータベースによるレセプトデータと病名コードの複合条件検索

新潟大学病院病歴管理室 松井一光他

2. パソコンを利用した診療録管理システムのグレードアップ

北九州総合病院 西村茂他

3. 病歴管理システムの開発とその導入効果

大阪厚生年金病院医療情報課 魚澤正克他

4. パソコンを使った脳神経外科診療録管理

国立横須賀病院脳神経外科 露無松平他

演題 5～9

座長 国立名古屋病院 安井昭二

浜の町病院診療録管理室 戸次式子

保管・ファイリング

5. 診療録の長期保管の実態－東海・北陸地方でのアンケート調査－

国立名古屋病院 新実光朗他

6. 不活化外来診療録の管理 —過去10年間の経験から—
熊本市立熊本市市民病院診療録管理室 岡本和子他
7. 外来カルテ保管の貸倉庫利用について
北里大学病院病歴センター部 左右木茂他
8. 聖マリアンナ医科大学病院放射線部における放射線画像の業者委託
聖マリアンナ医科大学病院放射線部ファイル室 本田和俊他
9. 診療録管理業務の効率化 —保管・ファイリングに人間工学的考えを導入して—
社会保険小倉記念病院診療録管理室 三宅裕子
演題 10~13 座長 横浜赤十字病院 宗雪武
共和病院病歴図書室 金明江

統計(1)

10. 地域医療システム化における医療情報管理室の役割
東海大学医学部病院管理学教室 鈴木荘太郎他
11. 外来新規来院患者の動態調査 —特に同規模2病院の比較について—
国立福岡中央病院小児外科 矢加部茂他
12. 救命救急センターに関する基礎的研究 —救急患者の動向について—
杏林大学医学部附属病院病歴室 山川桂子
13. 名大病院での癌登録の状況 名古屋大学病院医療情報部病歴管理室 水野智他
演題 14~20 座長 佐賀医科大学附属病院検査部 只野壽太郎
宮城県対がん協会 奥野ヨシ

指定課題：診療録管理室と情報サービス

14. 退院時サマリとレセプト情報を用いた病院経営管理情報サービス
日本大学医学部医療管理学教室 梅里良正他
15. 当院の主要傷病における医療費について
福井県立病院病歴管理室 岡田妙子他
16. 病院機能評価の一試み —改定診療報酬と在院患者特性—
産業医科大学病院病歴部 森静代他
17. 佐賀医科大学附属病院における過去10年間の情報サービス状況
佐賀医科大学附属病院医事課医療情報係診療録センター 久保田幸子他
18. 診療録管理室における情報の収集とサービス
北九州総合病院診療録管理室 亀谷和代他
19. 医療情報の有効的活用のための考察
中部労災病院病歴室 毛利文子

20. フロッピーで提供する病歴情報サービス

- | | | |
|----------|----------------|-------|
| | 済生会神奈川県病院病歴図書室 | 吉崎悦子他 |
| 演題 21~25 | 座長 済生会中央病院 | 伊賀六一 |
| | 聖路加国際病院診療記録管理室 | 鳥羽克子 |

在院日数・他

21. 疾患別および ICD-9 大分類別平均在院日数の長期観察とその分析
新潟市民病院診療情報部病歴室 若杉美恵子他
22. 主要入院疾患別在院日数比較
淀川キリスト教病院病歴管理室 高本進他
23. 救命救急センターに関する基礎的研究 - 高齢患者利用の統計的分析 -
杏林大学医学部付属病院病歴室 松岡三香他
24. 新生児集中治療施設に関する基礎的研究 - 入室患者の分析 -
杏林大学医学部付属病院病歴室 小林恵他
25. ICD-9 と ICD-10 の比較 : 循環系疾患について
順天堂大学医学部付属順天堂医院診療録中央管理室 丸林葉子他
- 演題 26~30 座長 国立肥前療養所医療情報室 田原孝
北里大学病院病歴センター 伊藤雄次

教 育

26. 医学生のための症例検索実習について
東海大学医学部病院管理学教室 馬淵米子他
27. 医学部卒前教育において診療録管理室が果たす役割 : 順天堂大学付属病院での経験
順天堂大学医学部外科学小児外科 平井慶徳他
28. 診療録管理と医師の意識 - 整理期間の短縮化 -
東京慈恵会医科大学第1外科学教室 山田智津子他
29. 診療録における看護記録の役割
国立肥前療養所看護部 山崎不二子他
30. 学校教育による診療録管理の教育内容の充実について
国際医療管理専門学校 橋本龍清他
- 演題 31~35 座長 日本大学医学部医療管理学教室 梅里良正
福井県立病院病歴室 五十嵐よしゑ

データ様式

31. カルテ内フォーマットの整理と統合について
東海大学医学部付属病院診療協力部 霞堂直史他

32. パソコン利用による退院患者データ処理の試みについて
川崎医療福祉大学医療技術学部医療情報学科 谷口和夫他
33. パソコンによる退院診療録管理
秋田県厚生連由利組合総合病院診療録管理委員会 村井智他
34. B A S I Cを利用した退院時サマリーのデータベース設計
宮城県立登米保健所 柏木誠
35. 当院5年間の退院患者統計に基づく標準書式の疾患項目の再検討
安城更生病院中央病歴室 荒川直子他
- 演 題 36~40 座長 横浜市立大学医学部附属病院医療情報部 加藤清
日生病院病歴室 小坂清美
- 指定課題：オーダーリング・システムと診療録管理
36. 病床管理システムと連携した診療録管理システム
筑波大学附属病院病歴部 高田彰他
37. 本院におけるトータル・システムと診療録管理について
北里大学病院中央診療施設系部病歴センター部 原利郎他
38. オーダーリングシステムとリンクした診療録の電子ファイリングシステム
鹿児島大学医学部附属病院医療情報部 熊本一朗他
39. オーダーリング・システムと入院診療録について
日鋼記念病院医療情報システム事業部 宮保康宏他
40. オーダーリングシステムと病歴室 ー退院情報と検査情報についてー
濟生会神奈川県病院病歴図書室 堀田和子他
- 演 題 41~46 座長 濟生会横浜市南部病院 竹村浩
市立江別総合病院病歴室 倉部直子
- 運営・管理
41. 診療録管理業務におけるトラブルの現状と反省
佐賀医科大学附属病院医事課医療情報係診療録センター 重田イサ子他
42. 一フロアでの診療録・フィルム管理の実際と反省
北九州市立医療センター医療情報管理室 寺延美恵子他
43. 総合病歴管理について
富山市民病院中央病歴室 山地正三他
44. 当院における診療録管理部の位置付けと役割
日鋼記念病院病歴室 佐藤正子他

45. 役立つ医療情報室を目指して —アンケート調査から—
新千里病院医事課医療情報室 後藤朗美他

46. 1患者・1診療録制への移行
北九州市立医療センター 松岡順之介他

演題 47～50
座長 警友総合病院 横山剛
名古屋第一赤十字病院病歴管理課 鈴木英雄

統計(2)

47. 救命救急センターに関する基礎的研究 —来院時心肺停止の症例について—
杏林大学医学部病院管理学教室 信川益明他

48. 高齢者県の死亡動向及び悪性新生物の統計的分析
松江赤十字病院病歴図書管理課 片寄順子

49. 専門病院における院外死亡システムの重要性
福井心臓血圧センター福井循環器病院病歴管理部 村中美知子他

50. 死亡診断書の書き方と評価
川崎医科大学附属病院医学資料部 中島行正他
実参加者 850名

第19 '92国際モダンホスピタルショウ

- (1) テーマ：価値ある健康 愛される病院
- (2) 会 期：平成4年7月9日(木)～11日(土)
午前10時～午後5時
- (3) 会 場：東京・池袋サンシャインシティ文化会館2・3・4階
〈会場面積7,700㎡〉 〈展示面積3,200㎡〉
(☎170 東京都豊島区東池袋3-1-4)
- (4) 主 催：社団法人日本病院会
社団法人日本経営協会
- (5) 後 援：厚生省 外務省 通商産業省 郵政省 消防庁 東京都 日本貿易振興会 (助)製品輸入促進協会 (社)日本医師会 (社)日本歯科医師会 (社)日本薬剤師会 (社)日本看護協会 (助)医療情報システム開発センター (助)日本医薬情報センター (助)医療機器センター (助)医療関連サービス振興会 (社)全国自治体病院協議会 (社)全日本病院協会 (社)日本精神病院協会 (社)日本医療法人協会 全国公私病院連盟 (社)日本病院薬剤師会 (社)日本栄養士会 (社)日本放射線技師会 (社)日本臨床衛生検査技師会 (社)日本理学療法士協会 (社)日本作業療法士協会 (社)全国病院理学療法協会 (社)東京都臨床衛生検査技師会 (社)日本作業療法士協会 (社)全国病院理学療法協会 (社)東京都臨床衛生検査技師会
出展各国大使館 (順不同)
- (6) 協 賛：全国社会福祉協議会 日本医療機器関係団体協議会 (社)日本エム・イー学会 (社)日本放射線機器工業会 (社)日本電子機械工業会 日本薬科機器協会 日本医科器械商工団体連合会 日本医用機器工業会 日本医療器材協会 日本人工臓器工業協会 日本理学療法器材工業会 日本医用光学機器工業会 日本分析機器工業会 (社)日本衛生検査所協会 (社)日本衛生材料工業連合会 (助)日本医療食協会 (社)日本健康治療機器工業会 (社)日本病院寝具協会 (社)日本病院建築協会 (社)全国消防機器協会 医事コンピュータ協議会 日本在宅医療福祉協会 (社)東京都医療社会事業協会 (順不同)
- (7) 展示内容
1. 環境・設備関係
 2. 医療機器関係
 3. 医療材料関係
 4. 医療情報システム・事務機器関係
 5. 院内物流システム関係
 6. ホームヘルスケア・リハビリ機器関係
 7. 患者サービス関係

8. 人材教育・その他

(8) 特別企画事業

① 医療機器部門

テーマ：「愛される病院～病院サービスについて～」

② ホームケア部門

テーマ：「アクティブな生活支える福祉機器」

③ 医療情報部門

テーマ：「患者とのコミュニケーションを支える情報システム」

(9) 研究会・シンポジウム

① 研究会

- * 定例栄養管理・調理合同研究会
- * 定例人事労務・総務合同研究会
- * 定例放射線研究会
- * 定例会計経理研究会
- * 定例薬事管理研究会

② セミナー

- * 医療紛争防止のためのセミナー

③ シンポジウム

- * 日本病院会 特別シンポジウム
「それぞれの立場における医療廃棄物の実際」
- * 国際シンポジウム
「21世紀に向けての保健・医療・福祉の連携」

(10) 展示規模

'92	157社／7,700㎡（展示面積3,200㎡）	輸入品展示42社
'91	176社／7,700㎡（展示面積3,450㎡）	輸入品展示42社
'90	155社／7,700㎡（展示面積3,300㎡）	輸入品展示27社
'89	152社／7,700㎡（展示面積3,000㎡）	輸入品展示34社

※輸入製品展示について

日本国内で取り扱っている海外製品及び海外直接出品製品が下記の在日大使館の協力を得て展示された。

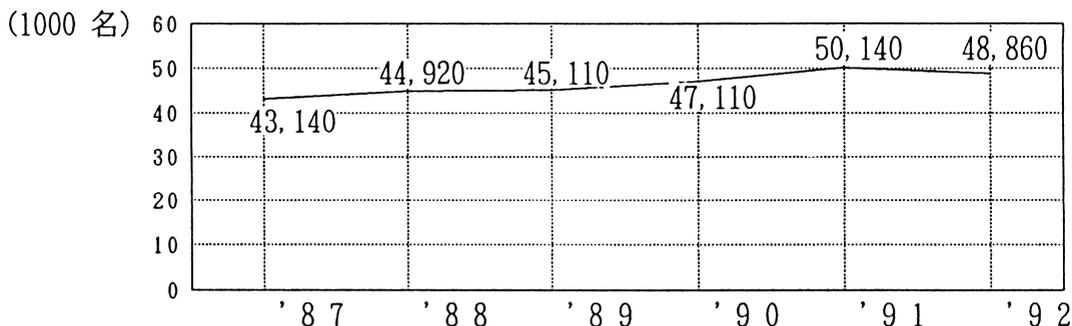
USトレードセンター・イギリス大使館・イタリア大使館・オーストラリア大使館・オランダ大使館・スウェーデン大使館・デンマーク大使館・ドイツ大使館・フランス大使館（順不同）

(1) 来場者数

総入場者数：48,860名（昨年50,140名）

※ 団体見学（医療専門学校）17校 1,131名（昨年23校 1,718名）

国際モダンホスピタルショウ来場者推移



	'91 (第18回)	人数	'92 (第19回)	人数
第1日	7月11日(木)	17,280	7月9日(木)	16,850
第2日	7月12日(金)	18,330	7月10日(金)	18,120
第3日	7月13日(土)	14,530	7月11日(土)	13,890
	合計	50,140	合計	48,860

(12) 「'92ホスピタルガイド」の刊行

(1) 「'92ホスピタルガイド」の刊行

内 容：① 会社紹介 ② 製品解説 ③ 製品メーカー名簿

体 裁：B5版 横組 本文144ページ

発行部数：70,000部

※出展社の会社紹介および製品解説を中心に編集したもので、国際モダンホスピタルショウ出展社に限らず、病院経営に役立つ情報誌として刊行。

※後日の機種決定・導入等の参考資料として利用できるように企画・編集し、会期中招待状持参者に無料で配付した。

(2) 「会場案内」の刊行

- ① 主催者挨拶
- ② 開催企画について
- ③ 各会場案内図
- ④ 出展社名簿

第20 '92ヘルス展

- 1 テーマ：「ヘルスからウェルネスへ — からだに、ピース。」
「遊」「悠」「働」「動」を体感してください。
- 2 名称：「'92ヘルス展〈第8回〉」
- 3 会期：平成4年7月9日(休)～11日(土)までの3日間
午前10時～午後5時
- 4 会場：ワールド・インポート・マート・ビル4階 センターホールA
東京・池袋サンシャインシティ(〒170 東京都豊島区東池袋3-1-4)
- 5 主催：社団法人日本病院会／社団法人日本経営協会
- 6 後援：厚生省 農林水産省 労働省 東京都 特別区長会 日本貿易振興会 (財)製品輸入促進協会 (順不同)
- 7 協力：(財)日本ウェルネス協会
- 8 協賛：(社)日本医師会 (社)日本看護協会 (社)日本栄養士会 (社)東京都医師会 (財)保健会館 健康保険組合連合会 (財)日本レクリエーション協会 (社)日本健康治療機器工業会 (財)医療情報システム開発センター (社)生命保険協会 (財)健康・体力づくり事業財団 (財)東京都予防医学協会 (財)余暇開発センター (財)学校福祉協会 中央労働災害防止協会 (財)日本健康食品協会 (財)日本健康スポーツ連盟 (社)日本スポーツ用品工業協会 (財)日本電子治療器学会 全日本健康自然食品協会 (社)スポーツ産業団体連合会 日本ミネラルウォーター協会 日本勤労者健康開発協会 (社)日本フィットネス産業協会 (社)日本エアロビックフィットネス協会 日本ウエルエージング協会 (順不同)
- 9 入場料：無料
- 10 出展社数：62社
- 11 総入場者：3日間延べ40,790人
- 12 会場面積：約2,400㎡
- 13 展示面積：約1,500㎡
- 14 展示対象：■遊・悠 ●エステティック、クアハウス、入浴関連
●音楽、映像、書籍、芸術関連
●シルバーライフ関連
●アウトドアライフ、レジャー関連
●リゾート、旅行関連
●自然食・飲料関連
●化粧品、香り、雑貨関連

- 寝具、衣料、インテリア関連
- 趣味、玩具、ペット関連
- リラクゼーション関連等

- 働・動 ●機能性食品、栄養補助食品
- 健康維持、体力増進、治療関連
- 体力測定機器・システム
- 人間ドック関連
- アメニティ用品
- ストレス解消関連
- 環境制御機器・システム関連
- 各種保健、福利厚生関連
- スポーツ、フィットネス用品・施設
- 企業フィットネス関連等

○同時開催

'92国際モダンホスピタルショウ（第19回）

テーマ「価値ある健康、愛される病院」

東京・池袋サンシャインシティ文化会館2・3・4・7階

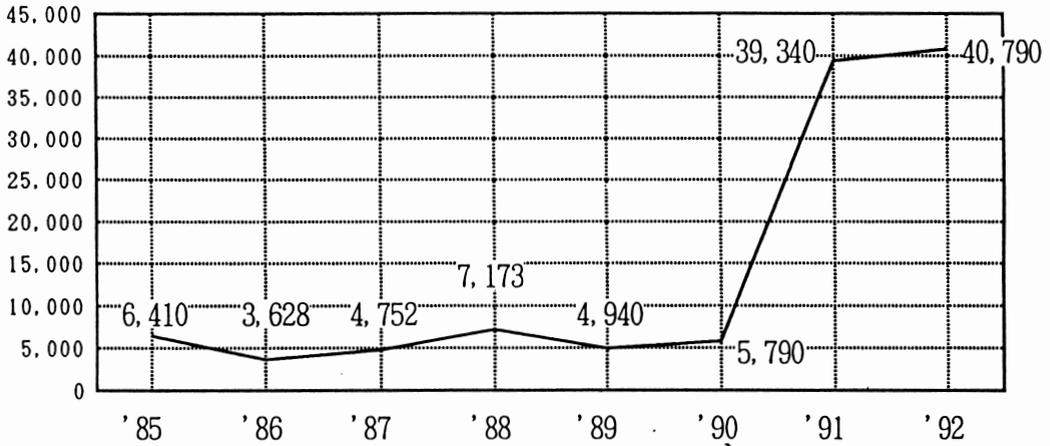
展示規模・来場者数の推移

展示規模

- ヘルス展の第1回開催は1985年第26回日本人間ドック学会併設展示会として東京：五反田のTOCビルで開催した。以降毎年東京で開催することとなる。

名 称	出展社数	会場面積	展示面積	来場者数
'86ヘルス展	28社	244㎡	150㎡	3,628名
'87ヘルス展	53社	464㎡	280㎡	4,752名
'88ヘルス展	51社	1,600㎡	960㎡	7,173名
'89ヘルス展	51社	1,600㎡	960㎡	4,940名
'90ヘルス展	37社	1,600㎡	960㎡	5,790名
'91ヘルス展	30社	800㎡	300㎡	39,340名
'92ヘルス展	62社	2,400㎡	1,500㎡	40,790名

(名)



日別来場者数

日	'92ヘルス展	来場者数	天候
初日	7月9日(休)	14,680名	☀のち☂
2日目	7月10日(金)	15,240名	☀
3日目	7月11日(土)	10,870名	☀
	合計	40,790名	

企画事業

ウエルネスの達人セミナー

○PART I 「遊悠」編

7月9日(休)13:30~15:00

横澤 彪 氏

(株)フジテレビジョン編成局ゼネラルプロデューサー)

○PART II 「働動」編

7月10日(金)13:30~15:00

山岡 有美 氏

(エアロビックインストラクター)

菊田 敬子 氏

(ニュートリショニスト)

○PART Ⅲ 「ビジネス」編

7月11日(土)13:30~15:00

桜井 孝宏 氏

(株)資生堂ウェルネス 取締役社長)

ステージ

○楽しさ発見!

協力: (財)日本レクリエーション協会による、マウンテンバイク・ローラーブレードのデモンストレーション及び来場者参加の余暇生活パターンチェック、ニューススポーツ(ターゲットバードゴルフ・ディスクゴルフ)に挑戦などを実施、来場者に好評であった。

○ウェルネス武道体操ワークショップ

協力: 飛天オフィス

7月9日(木)から11日(土)までの3日間、毎日2回12:30~、15:30~の各30分間、武道体操の実演と来場者に対し、ワンポイントレッスンを行った。戸惑いながらも、講師の実演の真似をして体験していた。

○正しい歯の磨き方の指導

協力: (株)ヘルステック

来場者に参加してもらい歯科衛生士が歯の磨き方を実演・指導した。

前掛けを掛けた中年男性が真剣に歯磨きをする姿は結構見学者の笑いを誘っていた。

○計りましたか?体脂肪計!

協力: (株)ケット科学研究所

近赤外線体脂肪計“フィットネスアナライザー”による体組成分析で「肥満度」「体脂肪率」を算出し、測定結果を自分で評価する。

老若男女がステージ前に集まり、こぞって測定を始めた、測定結果に悲喜こもごもに賑わっていた。

○おいしい紅茶の飲み方の紹介

協力: (有)ザイン

新鮮な紅茶も煎れかたひとつでひと味ちがう。豊かな味わいと安らぎのひとときを与える紅茶の煎れかたを実演した。

○あなたの病気みつけた!

クイズで元気!知恵は体を救う!

協力: 「食」医学研究会

クイズ形式で健康に関する考えかたを提案。来場者に参加してもらいステージからクイズを出題

し、回答してもらった。正解者には粗品を差し上げた。

ウエルネス I N F O ランド

○情報コーナー

出展社を中心にウエルネスを指向する製品や地球環境を考えたエコグッズなどを展示した。

○ポスター・パネル、カタログコーナー

出展社の製作したポスターやパネルを掲示した。

栄養指導相談コーナー

協力：聖路加国際病院 栄養科

食生活に関する質問用紙に日常生活について記入してもらい、栄養士がチェックし、改善点があれば、指導する。

カフェラウンジコーナー（休憩所）

協力：大塚製薬㈱

ステージ前にカフェラウンジを設けて、休憩所として開放し、ダイエット飲料・カルシウム食品を無料で来場者に提供した。

出展者交流会

平成4年7月10日(金)18:00～

サンシャインシティ文化会館5階 特別ホール

2日目の会期終了後ヘルス展出展者およびホスピタルショウ出展者を中心に交流会を実施。あちこちで歓談に盛り上がっていた。

アンケート調査の実施

ヘルス展会場内ウエルネス I N F O ランドに設置。来場者にアンケート用紙を渡し、記入していただいた。3日間で延べ1,186件の回答があった。

第21 日本病院会政治連盟報告

1. 平成4年度連盟役員会

4月25日(土) ダイヤモンドホテル 出席者15人(中央幹事会)

〈議題〉

- 1) 平成3年度活動報告
- 2) 平成3年度決算報告
- 3) 日本病院会顧問議員団との懇談の件
- 4) 役員改選の件

〈資料〉

- 1) 平成3年度政連関係の活動概要
- 2) 日本病院会政治連盟平成3年度収支報告書、監査報告書
- 3) 顧問議員団名簿、朝食会案内
- 4) 日本病院会政治連盟会則
- 5) 都道府県における病院団体の組織状況

2. 日本病院会顧問議員団朝食会

5月7日(木) 自由民主党会館8F

出席者 顧問議員側 20人(本人14、代理6)、欠席3人

厚生省 2人

日本病院会 7人

〈議題〉

- 1) 医療費改定について
- 2) 医療法改正について

〈資料〉

- 1) 総合病院・中小病院いじめの改定
- 2) 医療費改定の影響率
- 3) 医療法改正の具体的骨子・政省令案

(日病政連会報第16号に掲載)

11月25日(木) 自由民主党会館8F

出席者 顧問議員側 21人(本人15、代理6)、欠席0人

日本病院会 6人

〈議題〉

- 1) 病院をとりまく諸問題について

〈資料〉

- 1) 破綻の危機に直面する病院経営
- 2) 一般病院移動年計による医業収支表
- 3) 1992年度県別販路別売上表（医薬品）
- 4) 医療機関倒産の年次推移、月別状況
- 5) 病院団体連合（盟）創設の提唱（案）
- 6) 患者環境改善施設整備事業の要求概要
- 7) 看護婦不足対策と問題点（基準看護の二交代制について）

（日病政連会報第17号に掲載）

3. ま と め

連盟役員の任期切れにともなう役員改選を4月の中央幹事会で行い、小野肇委員長を3選した。副委員長には中山耕作、河北博文、伊藤研の3氏を引続き選任し、常任幹事・中央幹事も会則にしたがいそれぞれ日病常任理事、理事の中から選任された。会計責任者と幹事はそれぞれ1名ずつ補充し前者は柏戸正英氏と須藤祐司氏を、後者は梶原優氏と山本敬氏を選出した。また都道府県幹事は日病代議員から選任し、日病諸橋会長ほか常任理事会出席の公的役員の方々は引続き連盟参与をお願いした。

5月7日の顧問議員団との朝食会では新発足の医療保険審議会に病院経営学識経験者の代表を参加させることを決議し、のちに日病から河北副会長を派遣する道を開いた。また11月25日の朝食会では病院団体連合構想について趣旨説明し、賛同をえた。

第22

要 望 · 提 言

平成4年6月1日

殿

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



高齢化社会の急激な進展のさなか、一方ではわが国の若年労働人口の減少が進み、最近の看護婦不足は、在宅療養や週休2日制の実施等により益々悪化し、深刻な事態となっている。このような現状から、今回検討されている看護婦等の人材確保の促進に関する法律案に、大きな期待を寄せていると共に、われわれ民間病院の看護婦等の養成・確保について十分な配慮をお願いしたい。

1. 国及び地方公共団体は、現在の深刻な看護婦不足の実態を認識し、国民の医療ニーズに答えられる質の高い看護婦等の養成確保に、更に一層の努力を続けるべきである。
2. 救急医療を始め、地域医療の大半を担う民間病院の看護婦等の不足は深刻な事態となっているので、これらの確保を優先的に配慮されたい。
3. 「看護婦等確保推進者」の設置は、現在、看護婦等の絶対数が不足しているときに、相互の引き抜き競争を招くおそれがあり法の運用に十分の注意が必要である。
4. 「ナースセンター」の運営には、民間の意見を十分反映できるようその人員構成に必ず民間病院の代表も加えるよう配慮されたい。
5. 国・公立病院は全国の看護婦等の就業数の実態を認識して人員構成（5：3：2又は4：4：2）を守るよう指導されたい。

その他、基準看護の見直し、並びに准看から正看への道の拡大など人材確保に必要な様々な問題に対し積極的に対応されたい。

平成五年度予算に対する要望

一、社会保険診療報酬の改善について

国民皆保険三〇有余年の今日、全国一律公定価格としての社会保険診療報酬は病院経営の基盤をなすものであります。

しかしながら、近年の診療報酬改定のプロセスはわが国の経済実態と大きくかけはなれ、昭和五六年から平成三年までの診療報酬は実質四・五一%アップにすぎません。この間人件費は一四二、物価は一二五と上昇しています。本年四月の改定に対しても、われわれは職員の給与改定と週休二日制実施に伴う人件費増、及び物価上昇分を含め最低九・九六%の診療報酬改定を要望してきましたが、結局は実質二・五%改定にとどまりました。

診療報酬の抜本改正は日本病院会としても鋭意その研究に取り組んでおりますが、その前に医療の質を確保しながら明日をどう生きるか、という病院の重大な課題があります。

平成五年度は、診療報酬の大幅改定が行なわれるよう、予算措置をとられることを要望します。

二、看護婦等養成所にかかる補助金について

看護婦等養成は国及び公的・私的医療機関により養成の努力がつつけられていますが、これに要する学校運営費は授業料や公的補助金では不足し、大部分は病院一般会計からの繰入で賄われているのが現状です。

われわれの調査では、平成三年看護婦養成三年・二年課程の一・一七校の年間運営費一六三億円に対して、病院または開設者からの繰入補填が一〇四億円、六四%ありました。一校平均一億三千万円の運営費に対し八八〇〇万円が補填されているわけで、病院負担がぎりぎりに来ていることを示しております。

平成五年度は、看護婦等養成所運営の補助金増額につき、大幅な予算措置をはからわれるよう要望します。

平成四年六月十日

社団法人 日本病
会 長 諸 橋 芳



自由民主党

全国組織 委員長 小云

委員長 国民生活局長 塚原俊彦 野呂昭彦 股

平成4年6月30日

病院団体連合（盟） 創設の提唱（案）

医学医術の進歩、医療機器の発展、国民生活水準の向上と共に国民の病院医療に寄せる期待は年々高まってきている。

国民医療費の7割を占め、医師の6割が勤め、患者の5割を扱う病院を代表する団体は数多くあるが、遺憾乍ら中医協を始め、関係各省の審議会等に病院団体の代表が参加するケースは極めて少い。

病院の医療は多数の各種専門職により構成される組織医療である。この点診療所の医療とは根本的に異なるものである。

現今の病院医療については患者側にも病院側にも不満が多い。最近の日本経済新聞等の社説のまとめに『医療機関にある程度の自由を認め経営や院内管理に責任を持たせれば、快適な医療はむしろ、院内感染や考えられないような医療ミスも防げるのではなかろうか。』

生命と健康を守るのは、豊かな暮らしを送るための最低条件であることは言うまでもない。混雑する病院で満足のいく診察も受けられず、入院すれば大部屋で院内感染の恐れがあるというのでは生活大国どころの話ではない。患者や医療従事者の意識とともに、医療にかかわる制度・仕組みが大きく変らなければならない。』とあるが、この解決のため、21世紀に向って医療制度、税制、診療報酬の抜本的改正を必要とする時期に来ている。それ故、今や中央、地方を問わず、病院団体は重点項目について意見の統一を図り、同一行動をする必要があると思う。

それ故病院団体連合（盟）（仮称）の発足を提唱するものである。

外国人患者の治療費未払の件についての要望

平成4年7月17日

殿

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院



わが国の外国人出入国者数は、平成3年度に過去最高を記録したが、そのうち平成3年5月末の潜在的不法滞在者は約16万人と推計され、大部分が不法就労者と推定されている。このため劣悪な労働環境等を要因に罹患する者も多く、受診した医療機関での医療費問題が顕在化している。

病院では外国人が治療費を払えない場合、大使館に連絡すると治療費の工面ができないことに加え強制送還を恐れて、行方不明になる患者が多いという。

これに対して厚生省は、①不法滞在者であることが判明すれば強制退去等の対象となり、制度の対象となり得ない②安易な適用は不法滞在の容認、助長になる③医療目的の入国など社会給付を目的の入国を招きかねない—との判断から、「今後も社会保障制度を適用することは考えていない」との方針を明確にした。しかし、不法滞在者の医療費不払いによる医療機関の負担軽減を図るため同省は、平成4年度税制改正に向けて「医療費不払い問題に係る税制上の特例措置の創設」を要望したが、今年度の税制改正では見送られたとある。

本年3月末現在の一病院団体の調査では、未収金のある病院は129病院でその金額は9,100万円に達し、この9割以上が無保険の患者でありこの件数はその後月々増加している。全国の病院では未収金額は10億円にも達すると思われる。

東京都は不法滞在者以外は行旅病者扱を適用し支払うというが、他の自治体では目下のところ処置なしである。

外国人の入国については、政府の入国管理局等の責任があるのであって、人道的立場からも医師法上からも病院側には診療拒否はできないはずである。これでは医療機関の犠牲によって外国人を救済することになり、ただでさえ苦しい病院経済を一層悪化させることになる。

世界の中の日本の立場から大局の見地に立って国、地方自治体等が最終的に責任をもって救済されるよう強く要望する次第である。

平成4年8月3日

社団法人 日本病院会
会長 諸 橋 芳 夫

中医協医療経済実態調査について

7月28日公表された中央社会保険医療協議会平成3年6月医療経済実態調査（医療機関調査）の結果に対し、社団法人 日本病院会として、特に病院経済の観点からの見解は以下のとおりである。

記

1. 社会保険診療報酬では病院の経営は赤字である。（総収支差額から補助金、負担金を除き、また支払利息は費用として計上し、さらに、個人病院の院長生活費を差し引くと、一般病院は1.6%の赤字となる。）
2. 前回の調査に対する当協会の意見と同様、他の産業と比較をすると病院経営は著しく悪いことが示されている。
但し、賃金改定は国・公立病院の人事院勧告実施の影響もあり全産業中最も高い水準にあることは明らかである。

	一般病院 *1								個人	総数
	法人・その他									
	総数	国立	公立	公的	医療法人	社会保険関	公益法人等			
金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
I 医療収入	1,254,617.6	89,696.6	324,019.8	190,117.1	439,827.0	61,293.4	149,663.6	151,449.6	1,406,067.2	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
II 医療費用 *2	1,267,133.6	97,850.9	341,513.6	185,836.9	425,131.6	63,856.7	152,943.8	143,856.2	1,410,989.8	
	101.0%	109.1%	105.4%	97.7%	96.7%	104.2%	102.2%	95.0%	100.4%	
III 医療収支差額 (I - II)	-12,516.0	-8,154.2	-17,493.8	4,280.2	14,695.3	-2,563.3	-3,280.2	7,593.4	-4,922.6	
	-1.0%	-9.1%	-5.4%	2.3%	3.3%	-4.2%	-2.2%	5.0%	-0.4%	
IV その他の医療収入 *3 (補助金・負担金を除く)	37,704.9	1,686.5	9,664.2	5,072.9	15,450.5	1,295.6	4,535.2	1,934.9	39,639.7	
	3.0%	1.9%	3.0%	2.7%	3.5%	2.1%	3.0%	1.3%	2.8%	
V その他の医療関連費用	50,267.6	191.2	13,026.0	7,807.5	22,430.5	1,456.6	5,355.8	7,339.3	57,607.0	
	4.0%	0.2%	4.0%	4.1%	5.1%	2.4%	3.6%	4.8%	4.1%	
VI 総収支差額 (III + IV - V)	-25,078.8	-6,658.9	-20,855.6	1,545.6	7,715.3	-2,724.2	-4,100.9	2,188.9	-22,889.9	
	-2.0%	-7.4%	-6.4%	0.8%	1.8%	-4.4%	-2.7%	1.4%	-1.6%	
病院数	709	32	130	46	414	17	70	290	999	

*1 中央社会保険医療協議会調査 平成3年 医療経済実態調査（医療機関調査）の数値を基準とした。

*2 全国病院労務管理学会調査 平成2年度 職種別年間給与・勤続年数・期末手当の有無、公的・私的病院種別の公的病院院長年間給与（27,348千円；平均年齢61.5才 平均勤続年数28.3年）を個人病院院長給与として人件費に含んだ。

*3 IV その他医療関連収入のうち、補助金・負担金を除いた。

業種	項目	企業数 (社)	売上高 (百万円)	経常利益 (百万円)	売上高 経常 利益率	従業員一人あたり		
						売上高 (千円)	経常利益 (千円)	人件費 (千円)
全産業 *1		1,403	385,250,524	13,495,057	3.50%	98,735	3,459	7,173
製造業		912	157,702,315	8,876,743	5.63%	59,862	3,369	6,872
化学工業		151	17,571,790	1,383,102	7.87%	60,129	4,733	6,554
医薬品製造業		38	3,942,313	525,854	13.34%	40,616	5,418	6,614
写真感光材料製造業		2	1,219,435	179,131	14.69%	74,297	10,914	6,328
精密機械器具製造業		22	1,809,064	116,969	6.47%	38,627	2,498	6,430
計測器・測量機械器具等製造業		9	415,544	26,935	6.48%	35,280	2,287	7,420
医療用機械器具・医療用品製造業		2	71,153	5,508	7.74%	28,202	2,183	5,653
光学機械器具・レンズ製造業		8	962,900	53,013	5.51%	35,370	1,947	5,945
非製造業		491	227,548,209	4,618,314	2.03%	179,534	3,644	7,797
卸売業		120	148,718,830	812,690	0.55%	920,301	5,029	8,403
化学製品・医薬品・化粧品卸売業		5	1,143,092	18,224	1.59%	347,920	5,547	7,997
飲食店（外食産業）		8	517,776	38,581	7.45%	35,073	2,613	10,718
サービス業		36	2,908,179	194,717	6.70%	64,457	4,316	7,296
ホテル業		7	231,117	23,912	10.35%	26,978	2,791	7,244
医療 *2 *3 *4								
一般病院		999	1,406,067	-22,890	-1.63%	11,739	-191	5,909
法人・その他		709	1,254,618	-25,079	-2.00%			
国立		32	89,697	-6,659	-7.42%			
公立		130	324,020	-20,856	-6.44%			
公的		46	190,117	1,546	0.81%			
医療法人		414	439,827	7,715	1.75%			
社会保険関係法人		17	61,293	-2,724	-4.44%			
公益法人など		70	149,664	-4,101	-2.74%			
個人		290	151,450	2,189	1.45%			

*1 通商産業省産業政策局編 平成2年度 わが国企業の経営分析による。

*2 中央社会保険医療協議会 平成3年 医療経済実態調査（医療機関調査）の数値を基準とした。

*3 全国病院労務管理学会調査 平成2年度 職種別年間給与・勤続年数・期末手当の有無、公的・私的病院種別の公的病院長年間給与（27,348千円：平均年齢61.5才 平均勤続年数28.3年）を個人病院院長給与として人件費に含んだ。

*4 中央社会保険医療協議会 平成3年 医療経済実態調査（医療機関調査）の数値を基準とし、IVその他の医業関連収入のうち補助金、負担金を除いた。

平成四年九月二十一日

平成5年度税制に関する要望

自由民主党全国組織委員会

委員長 塚原俊平 殿
団体総局長 今枝敬雄 殿
国民生活局長 野呂昭彦 殿

社団法人 日本病
会長 諸橋芳



- 一、医療法人については、公益法人の収益事業と同様の法人税率を適用するとともに、特定医療法人については、非課税とすること。
- 二、社会保険診療報酬に対する事業税課税の特例措置を存続すること。
- 三、医療法人については事業税に関する特別法人として事業税の軽減措置を存続すること。
- 四、個人が法人化する場合の軽減措置（土地や建物を一人、または二人医療法人設立のために現物出資した場合の現物出資分に係わる譲渡所得の軽減処置の創設）。
- 五、法人成りした場合の税制上の軽減措置（中小医療法人の医療施設構造改善準備金制度の創設または特別償却制度の創設。医療関係者が、医療に関する高度の知識及び技能の研修のために要する費用の額が増加した場合等の法人税額の特別控除の創設）。
- 六、医療法人の承継時の軽減措置（一般中小法人に適用されている類似業種比準方式の適用）。
- 七、医療施設に関する相続税制度の改善及び納税猶予制度を創設すること。
- 八、消費税の非課税範囲に、法廷による予防接種・健康診断を追加すること。また医療用医薬品・医療機器についても非課税とすること。
- 九、休日・夜間等の救急医療・予防接種・乳幼児検診等各種検診への報酬について、非課税とすること。
- 十、病院・診療所用の建物、付属設備及び医療機器の耐用年数を短縮すること。
- 十一、中小企業新技術体化促進税制の対象となる医療機器を追加すること。
- 十二、老人保健施設に係わる税制上の特例措置を創設すること。
- 十三、医師の研修、研究費について、必要経費の範囲の拡大及び所得税額の特別控除制度を適用すること。
- 十四、生涯教育制度を推進するため、必要経費の範囲の拡大。

- 一五、医療法人に企業法人に認められている試験・研究費の特別控除制度の適用。
- 一六、病院等の防火設備並びに医療機器等にかかる特別償却について、適用期限を延長すること。
- 一七、へき地医療を確保する観点から、へき地医療を担う医師に特別控除等の税制上の配慮を行うこと。
- 一八、看護婦等の人材確保のため次の措置を行なうこと。
 - ① 給与所得の非課税限度額の引き上げ。
 - ② 夜勤手当の非課税措置。
 - ③ 看護婦養成施設に対する寄付金に係わる措置の適用範囲の拡大。
- 一九、病院、老健施設等に設置された在宅介護支援センターの整備を促進するため、固定資産税の非課税措置を創設すること。

平成四年九月二十一日

平成5年度税制に関する要望

自由民主党政務調査会
税制調査会

会長 武藤嘉文 殿

社団法人 日本病
会長 諸橋芳



- 一、医療法人については、公益法人の収益事業と同様の法人税率を適用するとともに、特定医療法人については、非課税とすること。
- 二、社会保険診療報酬に対する事業税課税の特例措置を存続すること。
- 三、医療法人については事業税に関する特別法人として事業税の軽減措置を存続すること。
- 四、個人が法人化する場合の軽減措置（土地や建物を一人、または二人医療法人設立のために現物出資した場合の現物出資分に係わる譲渡所得の軽減処置の創設）。
- 五、法人成りした場合の税制上の軽減措置（中小医療法人の医療施設構造改善準備金制度の創設または特別償却制度の創設。医療関係者が、医療に関する高度の知識及び技能の研修のために要する費用の額が増加した場合等の法人税額の特別控除の創設）。
- 六、医療法人の承継時の軽減措置（一般中小法人に適用されている類似業種比準方式の適用）。
- 七、医療施設に関する相続税制度の改善及び納税猶予制度を創設すること。
- 八、消費税の非課税範囲に、法廷による予防接種・健康診断を追加すること。また医療用医薬品医療機器についても非課税とすること。
- 九、休日・夜間等の救急医療・予防接種・乳幼児検診等各種検診への報酬について、非課税とすること。
- 十、病院・診療所用の建物、付属設備及び医療機器の耐用年数を短縮すること。
- 十一、中小企業新技術体化促進税制の対象となる医療機器を追加すること。
- 十二、老人保健施設に係わる税制上の特例措置を創設すること。
- 十三、医師の研修、研究費について、必要経費の範囲の拡大及び所得税額の特別控除制度を適用すること。
- 十四、生涯教育制度を推進するため、必要経費の範囲の拡大。

五、医療法人に企業法人に認められている試験・研究費の特別控除制度の適用。

六、病院等の防火設備並びに医療機器等にかかる特別償却について、適用期限を延長すること。

七、へき地医療を確保する観点から、へき地医療を担う医師に特別控除等の税制上の配慮を行うこと。

八、看護婦等の人材確保のため次の措置を行なうこと。

①給与所得の非課税限度額の引き上げ。

②夜勤手当の非課税措置。

③看護婦養成施設に対する寄付金に係わる措置の適用範囲の拡大。

九、病院、老健施設等に設置された在宅介護支援センターの整備を促進するため、固定資産税の非課税措置を創設すること。

エイズ対策についての要望書

平成4年12月1日

殿

社団法人 日本病院会
会長 諸 橋 芳 夫



社団法人 日本病院会は、エイズ対策について下記事項について要望いたします。

1. エイズ予防法に則り感染者、患者、医療従事者の権利と責任を徹底する
2. 病院におけるH I V抗体検査の公的費用負担
3. カウンセリング、H I V抗体陽性者並びにエイズ患者の診療に関わる費用の十分な確保が必要
例えば、エイズ管理料等
4. 観血的処置を要する患者群を中心にしてH I V抗体検査が必要と思われる場合にその検査に対し、人権を尊重することを前提に、検査実施の妥当性を社会的、社会保険的に認めること
5. 人間ドック並びに諸健診でのH I V抗体検査の実施を、人権を尊重することを前提に、積極的に推進していく
6. 医療従事者への労働災害保険の確立
7. 病院職員の健康診断に、人権を尊重することを前提に、H I V抗体検査を加える

注：人権を尊重するとは主にインフォームド・コンセントの実践、プライバシーの保護、任意性の遵守をいう

(添付資料)

1. エイズ等対策委員会報告書
2. ストップ エイズ キャンペーン

殿

日本病院会
会長 諸橋 芳夫

特定治療材料の定価設定について（要望）

今回のベースメーカー購入に際して医療機関側に不祥事件の発生したことは誠に遺憾である。

従来から保険請求に際してベースメーカー等の特定治療材料費は、都道府県における購入価格によるものとされてきておりベースメーカーの購入価格は、円の為替相場と連動していないこと（表参照）、購入価格での保険請求では購入に当って企業努力の効果のないことから業者の一方的な価格で販売され、医療費の高騰に連なっていた。このことから昭和61年当時よりベースメーカーの定価設定と円の為替相場上昇による価格の引下げを要望してきた。

三代の保険局医療課長を経て漸くこの4月1日より薬事法（昭和35年法律第145号）による承認番号が決められ夫々の機種により120万円～203万円と定価設定がなされたことは余りに遅すぎたと言わざるを得ない。このため、今回の不祥事件発生の一原因となったものと思われる。

この際、人工骨頭・人工股関節・人工弁・大動脈バルンカテーター等高価な特定治療材料に於ても至急に定価を設定されるよう要望する。

ベースメーカー価格表

品名	会社名	購入年月日	都道府県における購入価格	厚生大臣による設定定価	為替相場1円
マルチコII 402B	コーディス	昭和60. 7.30	153万円		238.85円
マルチコII 402B	コーディス	昭和60. 12.26	153万円		204.00円
マルチコII 402B	コーディス	昭和61. 12.26	149万 8千円		161.80円
マルチコII 402B	コーディス	昭和62. 11.18	149万 8千円		136.65円
マルチコII 402B	コーディス	昭和63. 6.21	144万 8千円		127.30円
マルチコII 402B	コーディス	平成 1. 2. 7	144万 8千円		129.40円
マルチコII 402B	コーディス	平成 4. 4. 1		149万 8千円	135.75円
アケイイトラックス II	ガトロックス	昭和62. 8.19	157万円		147.10円
アケイイトラックス II	ガトロックス	昭和63. 12.12	155万円		122.90円
シークII-IV 240G	コーディス	昭和61. 12.20	169万 8千円		164.10円
シークII-IV 240G	コーディス	昭和63. 5.24	164万 8千円		125.45円
シークII-IV 240G	コーディス	平成 2. 1.19	164万 8千円		146.35円
ワフレックス 8220	テクトロックス & コーディス	平成 1. 12.15	148万円		144.35円
ワフレックス 8218	コーディス	平成 4. 4. 1		148万円	135.75円

平成五年度予算に対する要望

一、社会保険診療報酬の改善に必要な経費について

社会保険診療報酬は、医療機関の経営の基礎をなすものであります。昭和六十年医療法改正付則による医療機関の経営基盤安定化として、地域における適正な医療を確保するために医療機関が果たして

る社会的な重要性にかんがみ、医療機関の経営基盤の安定・業務の円滑な継続を図るための必要な措置を講ずることが掲げられております。しかしながらこの数年間、医療機関の経営基盤の安定・業務の円滑な継続を図るための必要な措置を講ずることが掲げられております。しかしながらこの数年間、医療機関の経営基盤の安定・業務の円滑な継続を図るための必要な措置を講ずることが掲げられております。

表をみて、この数年間、医療機関の経営基盤の安定・業務の円滑な継続を図るための必要な措置を講ずることが掲げられております。しかしながらこの数年間、医療機関の経営基盤の安定・業務の円滑な継続を図るための必要な措置を講ずることが掲げられております。

四・五％、乙表病院八・四％の大幅な赤字となっております。補助金がなく税金のかかる民間病院の経営は更に悪化していることはあきらまかです。診療報酬の改定は、従来より中医協での協議を踏まえ、医療経営の実態、人件費の動向、医療費の動向、物価の動向等及び医療を取り巻く状況を総合的に勘案して行われておりますが、次に掲げる

となどよりみて、病院経営は極めて厳しい現状にあります。このままでは看護婦を始めとするマンパワーの確保が困難となり、国民医療の確保、国民健康水準の維持もできなくなるといわざるを得ません。

(一) 諸情勢からみて病院は閉院せず他の企業並の週休二日制の実施に踏み切らざるを得ない。これに要する人件費増が約一〇％と試算される。

(二) 昨年度三・七％及び今年度は二・八七％、看護職については、それぞれ九・二％、四・〇％に引上げという人事院の給与改定勧告と完全実施による人件費のアップ——病院は人件費五〇％、%

と高い率を占める労働集約型産業であり、職員一人当りの労働生産額は全産業平均の1/9に極めて低い。

(三) 医療費の伸びを国民所得の伸びの範囲内に抑制する政策の一方で、健保組合は史上最高の三、一—一六億円、政管健保も同様に、三、七四七億円という大幅な黒字決算を平成三年度は示している。

以上の現状を直視され、国民医療の確保と病院経営を守るため、大幅引き上げをともなう医療費増定をされるよう要望するものであります。

二、病院の増改築に伴う資本費用に対する公共投資を含めた公的補助について

生活大國にふさわしい療養環境の整備及び国民の医療ニーズの多様性に伴い、今後拡大するアメニティ分野に対応するための病院の整備充実を図るためには多額の投資が必要であります。

人件費の増大、建築費の高騰している現在、現行の診療報酬では資本費用をまかなうのは不可能です。病院の増改築に要する費用について、公共投資を含めた公的補助を確保されるよう要望いたします。

三、看護婦等養成所に係る補助金確保について

病院における看護ケアの拡大で、労働時間短縮と週休二日制の導入、老人保健施設の拡充、地域ケア活動に伴う訪問看護事業の推進などのために、看護職員の不足は一層激化しており、増員対策は急務と考えます。看護婦等の養成については、国立及び公・私立の医療機関等が鋭意推進しているところであり、これら養成に要する経費は、一部貴重な診療報酬の中から賅われ、健全な病院経営が損なわれている現状であります。看護婦等養成に係る補助金を大幅に増額、確保されるよう要望いたします。

平成四年十二月十日

社会団法人 日本病院会



自由民主党 全国組織委員会

国民生活局長

野呂昭彦 殿

自由民主党

政務調査会

社会部長 畑 英次郎 殿

社会保険診療報酬の緊急是正について

(要 望)

殿

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神科医会



社団法人 日本病院会



本年4月の社会保険診療報酬の引上げは、実質2.5%と極めて低率であつたが、実際には2.5%にも及ばず、むしろマイナスとなっているところもあり、病院等の経営を改善するには程遠い結果となりました。今後、週休2日制の導入並びに看護職員等の労働条件の改善に伴う人件費増、医療廃棄物処理経費の増に加えて、医薬品建値制度の実施による薬剤購入費の増、薬価算定方式の変更による薬価差益の減少等により、経営収支はさらに悪化傾向にあるため、病院等の経営は危機的状況にあり、事業の継続は極めて厳しいものがあります。

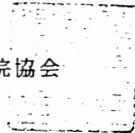
このたび、平成5年度予算の大蔵省原案が示されましたが、4月の診療報酬改定に当りましては、単に医療法の改正に伴う診療報酬改定のみでなく、適正な国民医療を支えるための病院等の経営の安定にも配慮した診療報酬の緊急是正分を加えた予算措置を是非ともなされるよう要望いたします。

平成4年12月25日

看護婦(士)充足のための病院間 格差の是正についての要望書

殿

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



今年4月1日より、良質で安定的な看護サービスの効率的な供給確保のために、基準看護の細分化と基準看護病院の増加を目指した社会保険診療報酬の改定が実施された。四病院団体会員病院においても病院医療の質及び患者サービスの向上と基準看護体制の維持・導入への努力が行われているが、看護の高度化、専門化、人口の高齢化及び病床の増加にともなう看護職員の需要増から看護職員の絶対数が不足(92年88,500人)を来たし、その確保に困難を来たしているのが現状である。一方、公的病院の一部においては医療の高度化、週休二日制の実施等から基準看護の看護婦(士)定数を遥かに超えた人員を確保している病院も相当数あり、このような看護婦(士)の偏在が私的病院及び中小の公的病院の看護婦(士)獲得を一層困難にし、かつ基準看護体制の維持・充実を遅らせる一因となっている。国立・公的病院の一部は公的一般会計から看護職の person 費の助成を受けている。大部分の国立・公的及び殆どの私的病院は看護婦養成に医療費の中から多額の支出をしている。

このような視点に立って我々は、公私病院共存して国民に良質な医療を提供するために、看護婦(士)の偏在による基準看護未実施病院の窮状の打開対策として次の内容について早急な実施を求めるものである。

記

- (1) 公的な一般会計から看護職員の person 費の助成(国立病院等の「看護婦処遇手当」「夜間看護手当」「夜勤手当」等を含む)を受けている国立・公的の基準看護採用病院は必要看護職員に対する看護婦(士)数の比率に関して類別毎に基準看護実施に必要な割合を大幅に超えないこと。但し、看護婦養成を実施している病院はその限りではない。
- (2) 少なくとも看護婦のみによる看護体制を撤廃すること。
- (3) 300床以上の病床を保有する国立・公的病院は看護婦養成施設設置を義務付けること。
- (4) 看護婦養成施設の設置基準を緩和すること。
- (5) 看護婦養成施設に対する施設費及び運営費の大幅な助成を行うこと。
- (6) 看護学生の奨学金については国・都道府県の責任において希望者全員に支給すること。

NHKスペシャル病院再建

—徹底解剖 経営の舞台裏—

(1月13日夜放送のTVを見て)

日本病院会
会長 諸橋 芳夫

NHK放送センターより次の案内を頂いた。

NHKスペシャル

病院再建

—徹底解剖・経営の舞台裏—

去年8月、東京で一つの病院が売買された。売却されたのは教会が経営する下町の病院である。売買額は14億円。買ったのは医療と経営の分離を掲げる、医師と医療コンサルタントのグループである。

80年代、医療費膨張に歯止めをかける様々な政策が打ち出された。その結果民間病院の赤字経営が急増し、91年は65%にも及んでいる。さらに去年、医療の質に焦点を当てたといわれる診療報酬改定により、病院間の経営格差は拡大し、中小病院は益々追い詰められていると言う。

なぜ前経営陣は行き詰まり、どう新経営陣は再建していくのか。

一つの病院の経営交替と再建劇のルポにより、医療費抑制の下で激変する病院経営の舞台裏を描くNHKスペシャル『**病院再建**』は、**1月13日(水)夜7時30分からNHK総合TVで放送します。**ぜひご感想をお寄せ下さい。

東京都足立区にある133床の老人病院が20年間で経営が悪化し、5億5千万円の累積赤字が出て経営難に陥り14億円で某医療経営コンサルタントグループに売却された。その再建の模様を放送したものである。

平成4年は病院の倒産が頻発し、1月から11月迄で41件、342億円

の倒産額に達したが従来から病院倒産の原因としては、エコノミスト92年10月20日号に私が書いたように、放漫経営、他の事業への投資の失敗、他の債務保証による連鎖倒産、院内の葛藤、後継者のいないこと等のほかに、ハイテク医療に対処するため、高額医療機器の設置、アメニティー(快適さ)をよくするための設備投資が医療費の引き締めのため収入増にならなかったこと、熟練した医師・看護婦の確保難等々があげられる。なぜ、このような事態に至ったのか。その原因として、駆け込み増床による病床の過剰と受療率の低下、国の医療費抑制などがあげられる。

この病院では、買収に14億円、改修に6億円、計20億円を要し、この資金は医療機器メーカーより10億円、金融機関からの10億円の融資によるものである。経営の原則は入るを量りて出ざる制すであるが、脇隆治氏は増益・増収策として、受診患者の増、一日当り診療費の増を計ることとして、この病院では高額機器の導入(CT、X線テレビ、電子内視鏡、超音波診断装置等)により検査の充実、採血、検査セットの導入、メニュー化、カウンターショック器機の購入、人工透析70台の設置(患者名簿入手により患者宅訪問、患者集め)、新患の入院(他の施設、老人病院より2~3か月間転入させ、病床利用率をあげる。新患として諸検査を行う)、患者介護お世話料として月6~7万円自己負担の徴集、室料差額室の増設、支出減策として、高齢者事務職員の整理・退職、新しく若い職員の採用、医師の給与削減、看護婦の本俸のアップ・諸手当の縮小、コンピュータ化による超過勤務の減等により人件費70%→58%と減を計った。

このようにして6か月足らずで1日当りの診療費は同規模の病院の全国平均より30%も安かったのを世間並以上に上昇させ経営好転し、平成6年には収入22億6,980万円、支出21億円で1億7千万円の黒字となる見込と言う。因みに買収前の平成3年の収入は6億円で、3億円の赤字であったの比し、驚くべき好転である。

問題点は、1. 強引な患者集め。患者のたらい廻し。高額医療機器の導入が経営にはよいとしても患者にどのように役立っているのか不明であって、カウンターショック器機を50万円で買って1回35,000円の収入があるからと言って乱用されてはたまったものではない。診断の結果が治療にどのように利用されているのかも不明。人工透析の導入が経営の点のみからされた感あり。これでは患者のためよりは経営者だけのための病院経営方針と疑われる。2. 救急医療体制、病々・病診連携が不明である。手に負えない重症の場合何処に送るのか。3. 病院の機能評価の向上について経営者側も大道久氏も語っていない。4. 病院経営の専門家と紹介された大道久教授（日大病院管理学）が優れた医療には安定した病院経営の基盤が必要で国民に医療のシステムを知って頂く必要があり診療内容についてもインフォームドコンセントの重要性を述べたことは適切であるが、病院は国民皆保険後30年たって建て替えの時期に来ているので、その財源のためにも診療内容を変化せざるを得ない、例えば同じ検査を月に1回から2～3回もするなど、又この放送のような病院が他にも相当あるなどと語っているのは誤解を招く恐れがあり、医療の経済性だけでなく、公共性、住民に信頼される医療の提供を推進すべきであること、1980年～1990年のこの10年間に人件費は36%、消費者物価は22.4%上がっているのに保険の診療報酬は実質3.1%（二木立氏論文）しか上がっていない実情を語って欲しかった。これでは医は算術と世の中の人に見られる恐れがある。

最後に昭和23年に制定された医療法による病室の面積1床当り4.3㎡のような狭いものではなく、アメニティーをよくし、病院の拡大再生産の費用の負担を誰がどうするかの議論と諸外国に比し対国民所得比でも1/2～2/3と病床当り職員数でも1/4～1/2と少い金額・人員で働いて国民の健康水準世界第一位を築き上げた医療機関の姿を併せて放映されたかった。

平成5年3月17日

殿

社団法人 日本病院会
会長 諸橋 芳夫

病院診療報酬の緊急改定についての要望

社会保険診療報酬は医療機関の経営の基盤をなすものである。

1985年の医療法改正法付則に、地域における適正な医療を確保するために医療機関が果している社会的役割の重要性にかんがみ、医療機関の経営基盤の安定、業務の円滑な継続を図るため必要な措置を講ずること、が掲げられている。

厚生省は、病院経営は診療報酬、税制、融資の三つの面から総合的に健全化を図ると言明している。

又、診療報酬の改定については、従来から中央社会保険医療協議会（中医協）の協議を踏まえ、医療経営の実態、人件費の動向、医療費の動向、物価の動向や、医療をとりまく状況を総合的に勘案して行われてきているという。

昨年4月1日に医療費の改定が行われたが、その後の病院経営の現状は、各病院の懸命なる努力にも拘らず、医療の高度化、週休二日制実施による人件費増、医療廃棄物処理、院内感染防止、医療の質及び患者サービスの向上などによる経費の増、新薬価制度による影響もあって、厚生省の発表する公的一般病院（265）の移動年計

による医業収支表をみても、改定のあった昨年9月は改定前よりも経営は一段と悪化し、甲表病院4.9%、乙表病院9.3%の赤字になっている。

92の日赤病院の赤字額は平成4年度90億円、115の厚生連病院は58億円、989の公立病院は一般会計より5,500億円繰り入れても1千億円以上の赤字、239の国立病院療養所（らい療養所13を除く）は政策的医療、一般医療に対し、2,405億円繰り入れ、更に建設資金の借入金残高が6,000億円になるなど苦しい状況下にある。補助金のない民間病院の経営は一層悪化し、55.4%が赤字となっている。

以上今年度に入り、急速に経営状態は悪化している。平成4年には表面に出たものだけでも45件の医療機関が倒産し、その額は444億円に達している。その結果医薬品や医療機械の購入代金の支払いが滞り、中には12ヵ月後の支払いともなり、卸会社の倒産となった例もあるなど、多大の被害を及ぼしている。既に平成2年の病院数より昨年7月現在297病院が廃院となっている。

東大、京大を始め多くの国立大学附属病院に於ても同様の支払遅延が報道されている。

病院の経営悪化、倒産については新聞・週刊誌・経済誌などに大きく取り上げられている。高度医療・先進医療・救急医療を始め一次医療を担い、地域医療の確保・水準の向上に尽力し、質の良い医療を提供している大中小の病院がこのように経営が破綻するとすると国民医療に与える影響は極めて大きいものがある。

貴職におかれましては、この実態を直視され、緊急に診療報酬を改定されるよう要望する。

社団法人 日本病院会 役員名簿 (自平成4年4月1日 至平成7年3月31日) (順不同)

顧問・参与

平成5年3月27日現在

役職名	氏名	所属	〒	連絡先	電話
顧問	左奈田 幸夫	システム総合開発研究所顧問	160	東京都新宿区大京町29	03-3359-8941
		自宅	155	御苑プラザビル402号 東京都世田谷区代田4-10-16	03-3328-0830
〃	小野田 敏郎	佼成病院名誉院長	176	東京都練馬区中村南3-24 (自宅)	03-3990-9589
〃	内藤 景岳	総合病院南大阪病院院長	559	大阪府大阪市住之江区東加賀屋 1-18-18	06-685-0221
		自宅	558	大阪府大阪市住吉区帝塚山中1-8-9	06-673-4130
〃	遠山 豪	遠山病院名誉院長	514	三重県津市南新町17-22	0592-27-6171
		自宅	607	京都府京都市山科区御陵封じ山町3-22	075-581-3327
〃	岡山 義雄	東海記念病院理事長	487	愛知県春日井市廻間町字大洞681-47	0568-88-0568
		自宅	461	愛知県名古屋市中区泉1-17-3 第2オレンジビル8F-A	052-951-2420
〃	若月 俊一	佐久総合病院院長	384-03	長野県南佐久郡日田町大字日田197	0267-82-3131
		自宅	384-03	長野県南佐久郡日田町大字日田2211-2	0267-82-2045
〃	財津 晃	長浜赤十字病院名誉院長	522	滋賀県彦根市大藪町225-143 (自宅)	0749-26-2277
〃	小野 肇	大口東総合病院理事長	221	神奈川県横浜市神奈川区入江2-19-1	045-401-2411
		自宅	231	神奈川県横浜市中区石川町2-78	045-641-4879
〃	村瀬 敏郎	日本医師会会長	113	東京都文京区本駒込2-28-16	03-3946-2121
〃	大浜 方栄	参議院議員	100	東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館 733号室	03-3581-3111 内5733
〃	自見 庄三郎	衆議院議員	100	東京都千代田区永田町2-1-2 衆議院第2議員会館 231号室	03-3581-5111 内7231
〃	宮崎 秀樹	前参議院議員	113	東京都文京区本駒込2-28-16 日本医師会内 宮崎秀樹事務所	03-3946-2121
参与	北川 定謙	国立医療・病院管理研究所所長	162	東京都新宿区戸山1-23-1	03-3203-5327
		自宅	351	埼玉県和光市本町31-9-204	0484-66-1239
〃	高久 史磨	国立病院医療センター院長	162	東京都新宿区戸山1-21-1	03-3202-7181
		自宅	176	東京都練馬区旭ヶ丘1-43-40	03-3953-9833
〃	行天 良雄	N H K 解説委員	150	東京都渋谷区神南2-2-1	03-3465-1111
		自宅	240	神奈川県横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘188	045-331-2938
〃	牧野 永城	元聖路加国際病院院長	247	神奈川県横浜市栄区戸戸5-17-2 (自宅)	045-894-0672
〃	内田 卿子	聖路加国際病院副院長	104	東京都中央区明石町9-1	03-3541-5151
		自宅	336	埼玉県浦和市東岸町18-18 パークハイム浦和511号	048-886-3745
〃	有田 幸子	(社)日本看護協会会長	150	東京都渋谷区神宮前5-8-2	03-3400-8331
〃	高橋 則行	(社)日本病院薬剤師会会長	150	東京都渋谷区渋谷2-12-15 長井記念館304号	03-3406-0485
〃	岩崎 榮	日本医科大学医療管理学教授	113	東京都文京区千駄木1-1-5	03-3822-2131
		自宅	121	東京都足立区六月1-36-20-306	03-3860-2747
〃	高橋 政祺	杏林大学医学部教授	181	東京都三鷹市新川6-20-2	0422-47-5511
		自宅	113	東京都文京区本郷5-29-13-704	03-3814-3027
〃	海北 幸男	医療法人きっこう会事務局長	550	大阪府大阪市西区境川1-2-31	06-581-1071
		自宅	650	総合病院多根病院内 兵庫県神戸市中央区港島中町6-14 ポートプラザA棟503	078-302-8927

役員

役職名	都府県道名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	TEL・FAX
会長	千葉県	諸橋 芳夫	総合病院国保旭中央病院	市町村	289-25	旭市イの1326	0479-63-8111
						FAX	0479-62-0330
					289-25	旭市イの1863	0479-62-0368
					153	目黒区中目黒 1-1-17 恵比須苑 211	03-3711-6604
副会長	静岡県	中山 耕作	総合病院聖隷浜松病院	その他人	430	浜松市住吉 2-12-12	0534-74-2222
						FAX	0534-71-6050
"					433	浜松市幸 2-17-1	0534-74-6867
"	茨城県	登内 真	総合病院土浦協同病院	厚生連	300	土浦市真鍋新町 11-7	0298-23-3111
						FAX	0298-23-1160
"					161	新宿区中落合 3-29-6	03-3951-1982
"	岡山県	依田 忠雄	岡山赤十字病院	日赤	700	岡山市青江 65-1	086-222-8811
						FAX	086-222-8841
"					700	岡山市丸の内 2-1-28	086-222-4628
"	東京都	河北 博文	河北総合病院	医療法人	166	杉並区阿佐谷北 1-7-3	03-3339-0330
						FAX	03-3338-2005
"					180	武蔵野市吉祥寺南町 3-4-12	0422-43-4253
常任理事	北海道	上田 侃	札幌循環器クリニック	医療法人	060	札幌市中央区北14条西18丁目	011-747-5821
						FAX	011-758-1452
"					060	札幌市中央区北5条西29丁目	011-641-2166
"	岩手県	小山田 恵	岩手県立中央病院	都道府県	020	盛岡市上田 1-4-1	0196-53-1151
						FAX	0196-53-2528
"					020	盛岡市愛宕町 18-42	0196-22-0401
"	東京都	高橋 勝三	武蔵野赤十字病院	日赤	180	武蔵野市境南町 1-26-1	0422-32-3111
						FAX	0422-32-3525
"					184	小金井市東町 1-15-13	0423-83-1968
"	"	瀬田 克孝	社会保険中央総合病院	全社連	169	新宿区百人町 3-22-1	03-3364-0251
						FAX	03-3364-5663
"					152	目黒区鷹番 1-13-20-206	03-3710-1615
"	"	織本 正慶	織本病院	医療法人	204	清瀬市旭が丘 1-261	0424-91-2121
						FAX	0424-94-1441
"					177	練馬区東大泉 3-38-10	03-3922-1271
"	新潟県	小澤 寛二	国立療養所新潟病院	国	945	柏崎市赤坂町 3-52	0257-22-2126
						FAX	0257-24-9812
"					940	長岡市東神田 2-8-11	0258-35-4399
"	富山県	西能 正一郎	西能病院	医療法人	930	富山市五福 1130	0764-41-2481
						FAX	0764-41-6369
"					930	富山市五福 2576-8	0764-32-3207
"	福井県	藤沢 正清	福井県済生会病院	済生会	910	福井市中央 2-8-6	0776-23-1111
						FAX	0776-26-7535
"					910	福井市大宮 2-10-5	0776-21-2033
"	愛知県	寺田 守	公立陶生病院	市町村	489	瀬戸市西追分町 160	0561-82-5101
						FAX	0561-82-9139
"					489	瀬戸市南山町 3-38	0561-82-7031
"	"	伊藤 研	総合大雄会病院	医療法人	491	一宮市桜 1-9-9	0586-72-1211
						FAX	0586-71-0017
"					491	一宮市東島町 2-40	0586-73-6110

役職名	都府道 府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病 院 所 在 地	TEL・FAX
常任理事	三重県	岡崎通	国立津病院	国	514-11	久居市新町1022 FAX	05925-5-3120 05925-6-2651 0592-25-4030
〃	大阪府	大道學	大道病院	医療法人	514	津市浜見町770-35	
〃	兵庫県	北村行彦	優生病院	個人	660	芦屋市三条町23-5 尼崎市杭瀬本町2-19-15	06-967-7111 06-963-2233 0797-34-0126
〃	広島県	高科成良	広島総合病院	厚生連	738	廿日市市地御前1-3-3 FAX	0829-36-3111 0829-36-5573
〃	山口県	村田寿太郎	村田博愛病院	医療法人	747	防府市三田尻1-1-24 FAX	0835-22-2310 0835-25-1675
〃	長崎県	福井順	長崎記念病院	医療法人	851-03	防府市三田尻1-1-35 FAX	0835-22-3882
〃	沖縄県	廣田耕三	大浜第一病院	医療法人	902	長崎市深堀町1-11-54 FAX	0958-71-1515 0958-71-1510
〃					850	長崎市江川町448-7	0958-78-3512
〃					902	那覇市安里1-7-3	098-866-5171
〃					902	那覇市繁多川5-3-3 グランシャトレ繁多川305	FAX 098-864-1874 098-835-1882
理 事	北海道	芝木秀俊	総合病院北見赤十字病院	日 赤	090	北見市北6条東2丁目	0157-24-3115
〃	秋田県	竹本吉夫	秋田赤十字病院	日 赤	090	北見市幸町1-3-8	0157-23-3365
〃	〃	林雅人	平尾総合病院	厚生連	010	秋田市中通1-4-36	0188-34-3361
〃	〃			自宅	010	秋田市高陽青柳町14-2	0188-24-4484
〃	福島県	遠藤良一	白河厚生総合病院	厚生連	013	横手市駅前町1-30	0182-32-5121
〃	〃			自宅	013	横手市旭川3-3-31	0182-32-1725
〃	〃	星源之助	総合会津中央病院	公益法人	961	白河市横町114	0248-22-2211
〃	〃			自宅	961	白河市昭和町249-3	0248-22-1659
〃	〃			公益法人	965	会津若松市鶴賀町1-1	0242-25-1515
〃	〃			自宅	965	会津若松市日新町6-17	0242-27-9087
〃	埼玉県	横田修	大宮赤十字病院	日 赤	338	与野市上落合903	048-852-1111
〃	〃			自宅	336	浦和市曲本1-6-15	048-861-9277
〃	千葉県	柏戸正英	柏戸病院	医療法人	260	千葉市中央区長洲2-21-8	043-227-8366
〃	〃			自宅	260	千葉市中央区長洲2-21-16	043-222-3759
〃	東京都	小林登	国立小児病院	国立	154	世田谷区太子堂3-35-31	03-3414-8121
〃	〃			自宅	158	世田谷区瀬田5-1-9	03-3700-6286
〃	〃	伊賀六一	東京都済生会中央病院	済生会	108	港区三田1-4-17	03-3451-8211
〃	〃			自宅	150	渋谷区広尾1-7-7-307	03-3407-6794
〃	〃	中川三与三	九段坂病院	共済及び 連 合 会	102	千代田区九段南2-1-39	03-3262-9191
〃	〃			自宅	185	国分寺市富士本1-31-1	0425-72-4687
〃	〃	高山肇	高山整形外科病院	医療法人	125	葛飾区金町3-4-5	03-3607-3260
〃	〃			自宅	271	松戸市中矢切488-28	0473-62-0655

役職名	都道府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	電話
"	東京都	須藤 祐司	嬉泉病院	医療法人 自宅	125	葛飾区東金町 1-35-8	03-3600-9001
					125	葛飾区東金町 6-18-16	03-3608-0016
"	神奈川県	宗雪 武	横浜赤十字病院	日赤 自宅	231	横浜市中区根岸町 2-85	045-622-0101
					235	横浜市磯子区洋光台 4-5-3	045-833-7616
"	"	土屋 章	渕野辺病院	医療法人 自宅	229	相模原市渕野辺 3-2-8	0427-54-2222
					229	相模原市渕野辺 1-8-7	0427-52-5193
"	"	加藤 英夫	国際親善総合病院	その他法人 自宅	245	横浜市泉区西が岡 1-28-1	045-813-0221
					158	東京都世田谷区上用賀 2-5-1-707	03-3420-4879
"	新潟県	笹川 力	新潟市民病院	市町村 自宅	950	新潟市紫竹山 2-6-1	025-241-5151
					950-21	新潟市寺尾西 4-7-4	025-268-4866
"	"	桑名 昭治	桑名病院	医療法人 自宅	950	新潟市古川町 6-4	025-273-2251
					951	新潟市二葉町 1-820	025-223-3741
"	富山県	石田 礼二	富山市立富山市民病院	市町村 自宅	939	富山市今泉292	0764-22-1112
					939	富山市高屋敷855-4	0764-21-0015
"	石川県	道下 忠蔵	石川県立高松病院	都道府県 自宅	929-12	河北郡高松町字高松ヤ36	0762-81-1125
					920	金沢市小立野 2-14-23	0762-31-7698
"	山梨県	許山 隆	許山胃腸病院	医療法人 自宅	400	甲府市中央 1-12-6	0552-33-5107
					400	甲府市中央 1-12-6	0552-33-0534
"	岐阜県	須原 邦和	岐阜県立岐阜病院	都道府県 自宅	500	岐阜市野一色 4-6-1	0582-46-1111
					501-31	岐阜市静が丘町14	0582-42-0459
"	"	木澤 彰	木澤記念病院	医療法人 自宅	505	美濃加茂市古井町下古井 590	0574-25-2181
					505	美濃加茂市古井町下古井 590	0574-25-2181
"	静岡県	島田 恒治	市立島田市民病院	市町村 自宅	427	島田市野田 1200-5	0547-35-2111
					427	島田市中河町 265	0547-37-2890
"	愛知県	福田 浩三	上飯田第一病院	医療法人 自宅	462	名古屋市北区上飯田北町 2-70	052-991-3111
					462	名古屋市北区山田北町 2-28-5	052-914-4048
"	三重県	安保 喜久郎	山本総合病院	医療法人 自宅	511	桑名市寿町 3-11	0594-22-1211
					511	桑名市船馬町11	0594-22-5897
"	京都府	武田 隆男	武田総合病院	医療法人 自宅	601-13	京都市伏見区石田森南町 28-1	075-572-6331
					600	京都市下京区木津屋橋通油小路 東入南町507番地	075-371-2765
"	大阪府	豊島 正忠	中津医療福祉センター	済生会 自宅	530	大阪市北区芝田 2-10-39	06-372-0333
					565	吹田市古江台 1-20-10	06-831-1145
"	"	武田 惇	大阪府済生会泉尾病院	済生会 自宅	551	大阪市大正区北村 3-4-5	06-552-0091
					573	枚方市楠葉美咲 3-12-20	0720-55-0461
"	"	加納 繁美	総合加納病院	医療法人 自宅	531	大阪市北区天神橋 7-5-26	06-351-5381
					662	西宮市霞町 4-17	0798-36-6000
"	"	中後 勝	医療法人愛仁会本部	医療法人 自宅	530	大阪市北区兔我野町 4-12	06-315-0576
					662	ニューナショナルビル 5 F 西宮市愛宕山 15-42	0798-73-7278
"	"	岸口 繁	府中病院	医療法人 自宅	594	和泉市肥子町 1-10-17	0725-41-1646
					589	大阪狭山市大野台 2-25-6	0723-66-6555
"	兵庫県	宮地 知男	宮地病院	医療法人 自宅	658	神戸市東灘区本山中町 4-1-8	078-451-1221
					658	神戸市東灘区岡本 6-1-26	078-431-1088
"	"	荒尾 素次	はりま病院	医療法人 自宅	675	加古川市尾上町長田 525	0794-23-2123
					675	加古川市尾上町池田 769-1	0794-23-5619

役職名	都府道 県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所 在 地	電 話
理事	奈良県	南 溢	秋津鴻池病院	医療法人	639-22	御所市大字池の内 1064	07456-2-2058
				自宅	639-22	御所市大字柏原 1604	07456-2-2765
"	和歌山県	遠藤香苗	和歌浦中央病院	医療法人	641	和歌山市塩屋 6-2-70	0734-44-1600
				自宅	642	海南市日方1188	07348-2-8035
"	"	中村了生	中村病院	医療法人	640	和歌山市友田町 2-28	0734-31-0351
				自宅	640	和歌山市新内 217	0734-22-5138
"	岡山県	上野英高	津山中央病院	公益法人	708	津山市二階町 67	0868-22-6111
				自宅	708	津山市椿高下 16	0868-22-3496
"	広島県	伊藤剛二	伊藤胃腸科病院	個人	734	広島市南区皆実町 6-15-7	082-254-0311
				自宅	734	広島市南区皆実町 6-18-31	082-251-0633
"	愛媛県	重松 授	愛媛県立中央病院	都道府県	790	松山市春日町 83	0899-47-1111
				自宅	790	松山市土居田町 600-1	0899-71-5716
"	高知県	長崎 彬	高知赤十字病院	日赤	780	高知市新本町 2-13-51	0888-22-1201
				自宅	780	高知市薊野 2018	0888-45-7284
"	"	田中稔正	田中整形外科病院	医療法人	780	高知市上町 3-2-6	0888-22-7660
				自宅	780	高知市上町 3-1-8	0888-75-5309
"	福岡県	鎌塚登喜郎	福岡赤十字病院	日赤	815	福岡市南区大楠 3-1-1	092-521-1211
				自宅	815	福岡市南区筑紫丘 2-18-26	092-541-4401
"	熊本県	志摩 清	熊本市民病院	市町村	862	熊本市湖東 1-1-60	096-365-1711
				自宅	862	熊本市保田窪本町 778-5	096-382-6636
"	大分県	肥田木 孜	大分県立病院	都道府県	870	大分市豊鏡 476	0975-46-7112
				自宅	870	大分市春日町 1-14	0975-34-6369

役職名	都府道 県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所 在 地	TEL・FAX
監事	東京都	星 和 夫	青梅市立総合病院	市町村	198	青梅市東青梅 4-16-5	0428-22-3191
				自宅	176	練馬区向山 4-12-18	FAX 0428-24-5126 03-3999-4078
"	千葉県	梶原 優	板倉病院	医療法人	273	船橋市本町 2-10-1	0474-31-2662
				自宅	273	船橋市本町 2-10-1	FAX 0474-32-8578 0474-33-4566

役職名	都府道 県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所 在 地	TEL・FAX
代議員会 議長	福井県	向野 榮	福井赤十字病院	日赤	910	福井市月見 2-4-1	0776-36-3630
				自宅	910	福井市月見 2-4-1	FAX 0776-36-4133 0776-36-0268
代議員会 副議長	神奈川県	山本 敬	衣笠病院	その他法人	238	横須賀市小矢部 2-23-1	0468-52-1182
				自宅	248	鎌倉市七里ヶ浜東 3-7-4	FAX 0468-54-0232 0467-32-2965

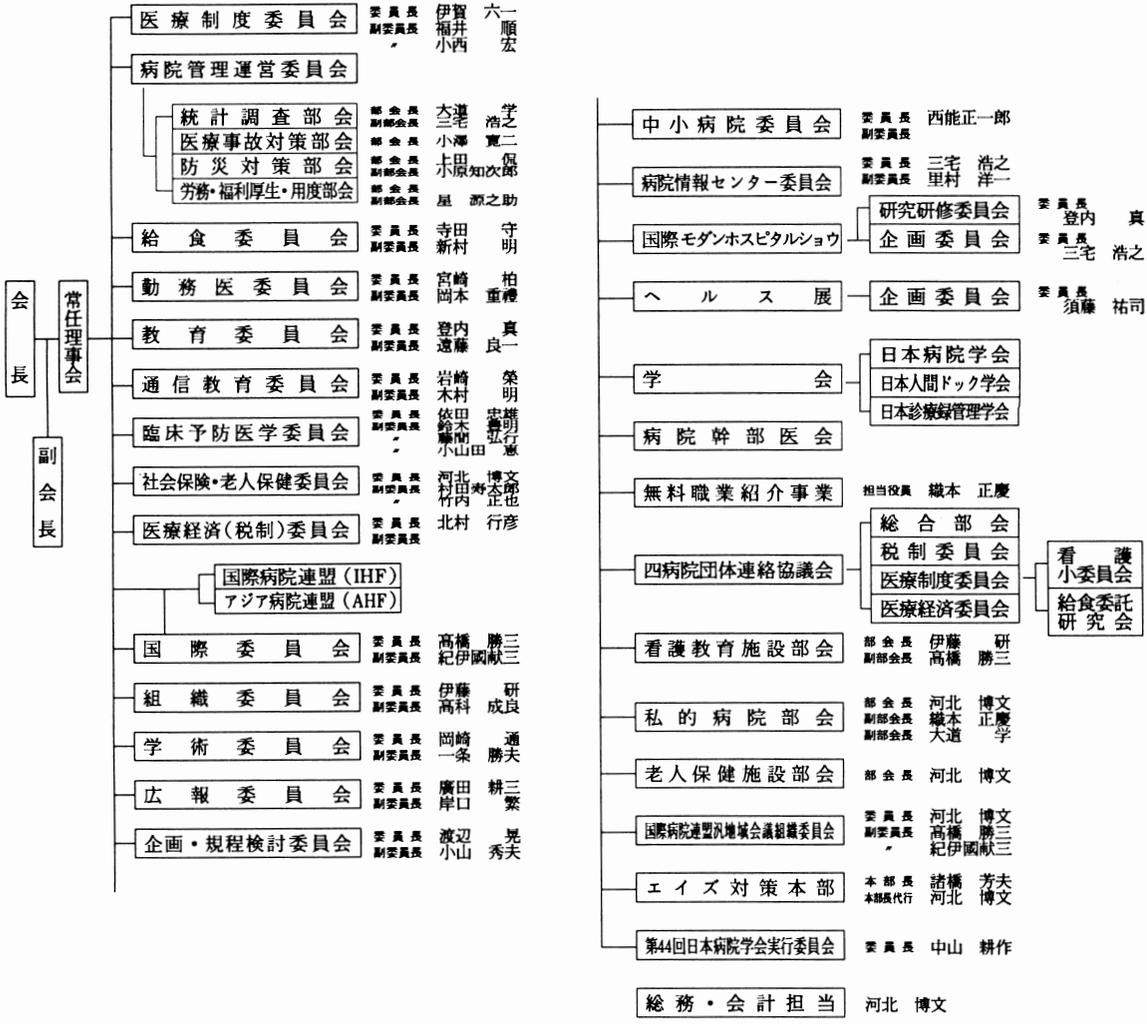
代 議 員

役職名	都府県道名	氏名	病院名	経営主体	〒	病 院 所 在 地	電 話
代議員	北海道	南須原 浩一	砂川市立病院	市町村	073-01	砂川市西四条北2-6-1	01255-4-2131
"	"	菱山 四郎治	旭川赤十字病院	日赤	070	旭川市曙一条1丁目	0166-22-8111
"	"	浦澤 喜一	慈啓会病院	その他法人	064	札幌市中央区旭ヶ丘5-6-50	011-561-8292
"	青森県	津嶋 惠輔	国立弘前病院	国	036	弘前市大字富野町1番地	0172-32-4311
"	"	中村 登喜雄	中村整形外科病院	個人	037	五所川原市字一ツ谷160	0173-34-3315
"	岩手県	遠山 美知	遠山病院	医療法人	020	盛岡市下ノ橋町6-14	0196-51-2111
"	"	金谷 春之	北上済生会病院	済生会	024	北上市花園町1-6-8	0197-64-7722
"	宮城県	佐々木 陸郎	宮城健康保険病院	全社連	982	仙台市長町2-4-18	022-248-0161
"	"	富永 忠弘	仙台オープン病院	公益法人	983	仙台市宮城野区鶴ヶ谷5-22-1	022-252-1111
"	秋田県	岸部 隆	北秋中央病院	厚生連	018-33	北秋田郡鷹巣町花園町10-5	0186-62-1455
"	"	瀬戸 泰士	中通病院	医療法人	010	秋田市南通みその町3-15	0188-33-1122
"	山形県	高橋 浩一	長井市立総合病院	市町村	993	長井市屋城町2-1	0238-84-2161
"	"	仁科 盛章	三友堂病院	公益法人	992	米沢市中央6-1-219	0238-24-3700
"	福島県	本宿 尚	公立藤田総合病院	市町村	969-17	伊達郡国見町大字塚野目字三本木14	0245-85-2121
"	"	渡辺 正光	渡辺内科胃腸科病院	医療法人	960	福島市北町1-40	0245-22-9156
"	茨城県	會澤 孝	大洗海岸病院	医療法人	311-13	東茨城県大洗町大貫町915	0292-67-2191
"	"	石岡 国春	総合病院水戸協同病院	厚生連	310	水戸市宮町3-2-7	0298-31-2371
"	栃木県	奈良 昌治	足利赤十字病院	日赤	326	足利市本城3-2100	0284-21-0121
"	"	長谷川 嗣夫	自治医科大学附属病院	学校法人	329-04	河内郡南河内町薬師寺3311-1	0285-44-2111
"	群馬県	長 洋	前橋赤十字病院	日赤	371	前橋市朝日町3-21-36	0272-24-4585
"	"	山崎 学	慈光会病院	医療法人	370	高崎市上佐野町786-7	0273-47-1177
"	埼玉県	春日 善男	社会保険埼玉中央病院	全社連	336	浦和市北浦和4-9-3	048-832-4951
"	"	井上 寿一	上福岡総合病院	医療法人	356	上福岡市大字福岡931	0492-66-0111
"	"	漆原 彰	大宮共立病院	個人	330	大宮市大字片柳1550	048-686-7151
"	千葉県	森 博志	国立千葉病院	国	260	千葉市中央区椿森4-1-2	043-251-5311
"	"	奥山 武雄	船橋市立医療センター	市町村	273	船橋市金杉1-21-1	0474-38-3321
"	"	三橋 稔	習志野第一病院	医療法人	275	習志野市津田沼5-5-25	0474-54-1511
"	"	早田 正敏	山之内病院	医療法人	297	茂原市町保3	0475-25-1131
"	東京都	中根 晃	都立梅ヶ丘病院	都道府県	156	世田谷区松原6-37-10	03-3323-1621
"	"	高畑 弘	都立台東病院	都道府県	111	台東区千束3-20-5	03-3874-7441
"	"	川瀬 貞臣	社会保険都南総合病院	全社連	140	品川区東大井5-8-12	03-3474-2701
"	"	金地 嘉夫	金地病院	医療法人	114	北区中里1-5-6	03-3821-6433
"	"	加藤 正弘	江戸川病院	その他法人	133	江戸川区東小岩2-24-18	03-3673-1221
"	"	村上 義次	日暮里上宮病院	その他法人	116	荒川区東日暮里2-29-8	03-3891-5291
"	神奈川県	角田 昭夫	県立こども医療センター	都道府県	232	横浜市南区六ツ川2-138-4	045-711-2351
"	"	林 茂	川崎市立川崎病院	市町村	210	川崎市川崎区新川通12-1	044-233-5521
"	"	山本 敬	衣笠病院	その他法人	238	横須賀市小矢部2-23-1	0468-52-1182
"	"	荏原 光夫	高田中央病院	個人	223	横浜市港北区高田町342	045-592-5557
"	新潟県	小山 眞	県立新発田病院	都道府県	957	新発田市大手町4-5-48	0254-22-3121

役職名	都府道 府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	電話
代議員	新潟県	荒井 奥 弘	長岡赤十字病院	日 赤	940	長岡市日赤町2-6-1	0258-35-3600
〃	〃	高橋 昭 二	信楽園病院	その他法人	950-21	新潟市西有明町1-27	025-267-1251
〃	富山県	前田 昭 治	富山県立中央病院	都道府県	930	富山市西長江2-2-78	0764-24-1531
〃	〃	川岸 一 郎	万葉病院	医療法人	933	高岡市西海老坂字大坪362	0766-24-2163
〃	石川県	杉岡 五 郎	国立金沢病院	国	920	金沢市石引3-1-1	0762-62-4161
〃	〃	仲井 信 雄	辰口芳珠記念病院	医療法人	923-12	能美郡辰口町字下開発ル11-1	0761-51-5551
〃	福井県	向野 榮	福井赤十字病院	日 赤	910	福井市月見2-4-1	0776-36-3630
〃	〃	大滝 秀 穂	大滝病院	個人	910	福井市日光1-1-1	0776-23-3215
〃	山梨県	浅沼 弘 一	韭崎市立病院	市町村	407	韭崎市本町3-5-3	0551-22-1221
〃	〃	中澤 忠 明	加納岩総合病院	医療法人	405	山梨市上神内川1309	0553-22-2511
〃	長野県	青木 猛	長野赤十字病院	日 赤	380	長野市大字若里1512-1	0262-26-4131
〃	〃	前田 恒 雄	相澤病院	医療法人	390	松本市本庄2-5-1	0263-33-8600
〃	岐阜県	井戸 豊 彦	岐阜赤十字病院	日 赤	502	岐阜市岩倉町3-36	0582-31-2266
〃	〃	松波 英 一	松波総合病院	医療法人	501-61	羽島郡笠松町田代185-1	05838-8-0111
〃	静岡県	荻原 正 雄	富士市立中央病院	市町村	417	富士市高島町50	0545-52-1131
〃	〃	鈴木 重 世	厚生連遠州総合病院	厚生連	430	浜松市常盤町144-6	0534-53-1111
〃	〃	菊池 貞 徳	順天堂伊豆長岡病院	学校法人	410-22	田方郡伊豆長岡町長岡1129	05594-8-3111
〃	愛知県	吉富 久 吉	東海市民病院	市町村	477	東海市中ノ池3-1-1	0562-33-5500
〃	〃	小田 博	市立岡崎病院	市町村	444	岡崎市若宮町2-2	0564-21-8111
〃	〃	青山 鍵 夫	青山病院	医療法人	489	瀬戸市南山町1-53	0561-21-1118
〃	〃	佐藤 太一郎	八千代病院	会 社	446	安城市東栄町1-10-13	0566-97-8518
〃	三重県	横山 實	松阪市民病院	市町村	515	松阪市殿町1550	0598-23-1515
〃	〃	柳瀬 恒 範	柳瀬病院	個人	514	津市乙部5-3	0592-27-5585
〃	滋賀県	中嶋 重 雄	済生会滋賀県病院	済生会	520-30	栗太郡栗東町大字大橋2-4-1	0775-52-1221
〃	〃	加藤 明	琵琶湖病院	医療法人	520-01	大津市坂本1-8-5	0775-78-2023
〃	京都府	藤田 洋 一	公立南丹病院	市町村	629-01	船井郡八木町大字八木小字上野25	07714-2-2510
〃	〃	大川原 康 夫	山科病院	公益法人	607	京都市山科区竹鼻四丁野町19-4	075-594-2323
〃	〃	中野 進	京都四条病院	医療法人	600	京都市下京区東堀川通四条下ル 四条堀川町272-6	075-361-5471
〃	大阪府	木村 正 治	市立豊中病院	市町村	560	豊中市岡上の町2-1-1	06-843-0101
〃	〃	内野 治 人	大阪赤十字病院	日 赤	543	大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-53	06-771-5131
〃	〃	中野 博 光	中野小児病院	医療法人	535	大阪市旭区新森4-13-17	06-952-4771
〃	〃	川合 弘 毅	若草第一病院	医療法人	579	東大阪市若草町1-6	0729-88-1409
〃	〃	辻本 兵 博	愛染橋病院	その他法人	556	大阪市浪速区日本橋東3-1-11	06-633-2801
〃	兵庫県	塩見 文 俊	神戸市立西市民病院	市町村	653	神戸市長田区一番町2-4	078-576-5251
〃	〃	岡田 康 男	姫路赤十字病院	日 赤	670	姫路市龍野町5-30-1	0792-94-2251
〃	〃	安田 俊 吉	広野高原病院	医療法人	673-02	神戸市西区北山台3-1-1	078-994-1155
〃	〃	松浦 梅 春	姫路第一病院	医療法人	671-02	姫路市御国野町国分寺143	0792-52-0581
〃	奈良県	松本 功	西奈良中央病院	医療法人	631	奈良市百楽園5-2-6	0742-43-3333
〃	〃	巽 典 三	巽病院	医療法人	634	橿原市見瀬町11-1	07442-7-1115

役職名	都道府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	電話
代議員	和歌山県	藤田一郎	海南市民病院	市町村	642	海南市日方1272-3	0734-82-4521
"	"	濱正純	浜病院	医療法人	640	和歌山市吹上2-4-7	0734-36-2141
"	"	月山和男	月山病院	個人	640	和歌山市小松原通1-3	0734-23-2300
"	鳥取県	岩宮緑	鳥取県立中央病院	都道府県	680	鳥取市江津730	0857-26-2271
"	"	野島丈夫	野島病院	医療法人	682	倉吉市瀬崎町2714-1	0858-22-6231
"	島根県	高橋勝	松江赤十字病院	日赤	690	松江市母衣町200	0852-24-2111
"	"	杉原徹彦	松江記念病院	医療法人	690	松江市上乃木町3-4-1	0852-27-8111
"	岡山県	浅野健夫	岡山市立市民病院	市町村	700	岡山市天瀬6-10	086-225-3171
"	"	木田恵三	新見中央病院	医療法人	718	新見市新見827-1	086-772-2110
"	"	滝沢千之助	水島第一病院	医療法人	712	倉敷市神田2-3-33	086-444-5333
"	広島県	岩森茂	広島市立安佐市民病院	市町村	731-02	広島市安佐北区可部南2-1-1	082-815-5211
"	"	高杉敬久	博愛病院	個人	737	呉市本通6-2-4	0823-23-8911
"	山口県	波多野光紀	小野田市立病院	市町村	756	小野田市大字東高泊1863-1	08368-3-2355
"	"	西田健一	阿知須同仁病院	医療法人	754-12	吉敷郡阿知須町4241-4	0836-65-2130
"	徳島県	松家豊	国立療養所徳島病院	国	776	麻植郡鳴島町敷地1354	0883-24-2161
"	"	松森茂	小松島赤十字病院	日赤	773	小松島市中田町字新開28-1	08853-2-2555
"	香川県	美馬恭一	香川県済生会病院	済生会	760	高松市桜町1-16-4	0878-33-1551
"	"	大林幸	キナシ大林病院	医療法人	761	高松市鬼無町佐藤54-1	0878-81-3631
"	愛媛県	桑島恵一	松山赤十字病院	日赤	790	松山市文京町1	0899-24-1111
"	"	宮田信濃	松山市民病院	公益法人	790	松山市大手町2-6-5	0899-43-1151
"	高知県	山本彰芳	高知市立市民病院	市町村	780	高知市丸の内1-7-45	0888-22-6111
"	"	細木秀美	細木病院	医療法人	780	高知市大膳町37	0888-22-7211
"	福岡県	武谷溶	九州中央病院	共済及び連	815	福岡市南区塩原3-23-1	092-541-4936
"	"	佐々木勇之進	福岡病院	医療法人	811-32	宗像郡福岡町2310	0940-42-0145
"	"	安藤精彌	西福岡病院	医療法人	814	福岡市西区生の松原3-18-8	092-881-1331
"	佐賀県	花田基典	唐津赤十字病院	日赤	847	唐津市二夕子1-5-1	0955-72-5111
"	"	山口弾之	至誠会病院	医療法人	840	佐賀市田代2-7-24	0952-24-5325
"	長崎県	寺本成美	国立長崎中央病院	国	856	大村市久原2-1001-1	0957-52-3121
"	"	高木忠一郎	十善会病院	その他法人	850	長崎市籠町7-18	0958-21-1214
"	熊本県	松金秀暢	熊本赤十字病院	日赤	862	熊本市長嶺町2255-209	096-384-2111
"	"	高野正博	高野病院	医療法人	862	熊本市帯山4-2-88	096-384-1011
"	大分県	家永睿	国立別府病院	国	874-01	別府市亀川内竈1473	0977-67-1111
"	"	清田正司	大分赤十字病院	日赤	870	大分市千代町3-2-37	0975-32-6181
"	宮崎県	本松研一	宮崎県立宮崎病院	都道府県	880	宮崎市北高松町5-30	0985-24-4181
"	"	千代反田泉	千代田病院	医療法人	883	日向市鶴町2-9-20	0982-52-7111
"	鹿児島県	新村健	鹿児島赤十字病院	日赤	891-01	鹿児島市平川町2545	0992-61-2111
"	"	崎元哲郎	花倉病院	個人	892	鹿児島市吉野町9846	0992-47-7320
"	沖縄県	比嘉實	沖縄赤十字病院	日赤	900	那覇市古波蔵4-11-1	0988-53-3134
"	"	大山朝弘	敬愛会中頭病院	医療法人	904-21	沖縄市字知花723	09893-9-1300

委員 会 等 所 掌 一 覧 表



委員会委員名簿

1. 医療制度委員会 (担当副会長 河北博文)

委員長	伊賀六一	東京都済生会中央病院	院長	東京都	03-3451-8211
副委員長	福井順	長崎記念病院	理事長	長崎県	0958-71-1515
〃	小西宏	(元・済生会神奈川県支部)		神奈川県	045-662-4721
	天本宏	天本病院	院長	東京都	0423-75-9581
	荒井蝶子	聖路加看護大学	教授	東京都	03-3543-6391
	池上直己	慶應義塾大学	教授	東京都	03-3353-1211
	石井孝宜	森公認会計士共同事務所	公認会計士	東京都	03-3839-5960
	今井重信	湘南中央病院	院長	神奈川県	0466-36-8151
	岩崎榮	日本医科大学医療管理学教室	教授	東京都	03-3822-2131
	大道久	日本大学医学部医療管理学教室	教授	東京都	03-3972-8111
	大道學	医療法人大道会	理事長	大阪府	06-962-9621
	嶋崎佐智子	(社)日本看護協会	常任理事	東京都	03-3400-8331
	星和夫	青梅市立総合病院	院長	東京都	0428-22-3191
	星源之助	総合会津中央病院	院長	福島県	0242-25-1515

2. 病院管理運営委員会

1) 統計調査部会 (担当副会長 依田忠雄)

部会長	大道學	医療法人大道会	理事長	大阪府	06-962-9621
副部会長	三宅浩之	関東逋信病院	顧問	東京都	03-3448-6537
	梅里良正	日本大学医学部	助手	東京都	03-3972-8111
	関田康慶	東北大学医学部	助手	宮城県	022-274-1111
	田辺俊男	医療法人大道会	企画調査室長	大阪府	06-962-9621
	中後勝	医療法人愛仁会	理事長	大阪府	06-315-0576
	宮崎柏	栃木県済生会宇都宮病院	名誉院長	栃木県	0286-36-6702

2) 医療事故対策部会 (担当副会長 登内 真)

部会長	小澤寛二	国立療養所新潟病院	院長	新潟県	0257-22-2126
	遠藤良一	白河厚生総合病院	院長	福島県	0248-22-2211
	佐藤とく	東京警察病院	総看護婦長	東京都	03-3263-1371

林 茂	川崎市立川崎病院	院長	神奈川県	044-233-552
藤森暢路	藤森病院	理事長	兵庫県	0792-24-135
前田マスヨ	(前・東海大学医療技術短期大学学部長)		神奈川県	0463-93-176 (自宅)
森光徳子	日本赤十字社医療センター	看護部長	東京都	03-3400-131

3) 防災対策部会 (担当副会長 登内 真)

部会長	上田 侃	札幌循環器クリニック	理事長	北海道	011-747-582
副部会長	小原 知次郎	小原病院	院長	兵庫県	078-521-122
	石田 貞治	医療法人財団慈啓会	常務理事	神奈川県	045-401-241
	上林 三郎	聖路加国際病院	事務部顧問	東京都	03-3541-515
	岸上 香	東海記念病院	参与	愛知県	0568-88-056
	倉持 一雄	学校法人順天堂	本館建設本部事務局	東京都	03-3813-311
顧問	岡山 義雄	東海記念病院	理事長	愛知県	0568-88-056

4) 労務・福利厚生・用度部会 (担当副会長 依田忠雄)

部会長					
副部会長	星 源之助	総合会津中央病院	院長	福島県	0242-25-151
	梅津 勝男	日比谷病院	庶務課長	東京都	03-3502-723
	大塚 暢	聖隷福祉事業団	専務理事	静岡県	0534-73-215
	緒方 廣市	武蔵野赤十字病院	事務部長	東京都	0422-32-311
	藪部 雅一	(前・兵庫医科大学理事)		兵庫県	0797-22-020 (自宅)
	本宿 尚	公立藤田総合病院	院長	福島県	0245-85-212

3. 給食委員会 (担当副会長 依田忠雄)

委員長	寺田 守	公立陶生病院	院長	愛知県	0561-82-510
副委員長	新村 明	篠ノ井総合病院	名誉院長	長野県	0262-92-226
	宇井 美代子	聖路加国際病院	栄養科長	東京都	03-3717-539 (自宅)
	佐藤 一義	新潟県立吉田病院	給食課長	新潟県	0256-92-511
	吉野 節子	吉祥院病院	給食部長	京都府	075-672-133
	米山 貞治	東京衛生病院	栄養科長	東京都	03-3738-822
	山本 辰芳	H D S 研究所	所長	東京都	03-3818-349

4. 勤務医委員会 (担当副会長 中山耕作)

委員長	宮崎 柏	栃木県済生会宇都宮病院	院長	栃木県	0286-34-2151
副委員長	岡本重禮	聖路加国際病院	副院長	東京都	03-3541-5151
	有賀 徹	公立昭和病院	脳神経外科医長	東京都	0424-61-0052
	安東三郎	いなみ野病院	院長	兵庫県	078-941-1730
	鍬塚登喜郎	福岡赤十字病院	院長	福岡県	092-521-1211
	佐々英達	佐々総合病院	理事長	東京都	0424-61-1535
	笹森典雄	牧田総合病院	副院長	東京都	03-3762-4671

5. 教育委員会 (担当副会長 中山耕作)

委員長	登内 真	総合病院土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
副委員長	遠藤良一	白河厚生総合病院	院長	福島県	0248-22-2211
	松林恵子	(社)日本看護協会	常任理事	東京都	03-3400-8331
	三宅浩之	関東通信病院	顧問	東京都	03-3448-6537
	宗雪 武	横浜赤十字病院	院長	神奈川県	045-622-0101
	澤島政行	横浜船員保険病院	院長	神奈川県	045-331-1251
	北林悦子	九段坂病院	看護部長	東京都	03-3262-9191

6. 通信教育委員会 (担当副会長 中山耕作)

委員長	岩崎 榮	日本医科大学医療管理学教室	教授	東京都	03-3822-2131
副委員長	木村 明	新潟市民病院	副院長	新潟県	025-241-5151
	竹本吉夫	秋田赤十字病院	院長	秋田県	0188-34-3361
	一条勝夫	病院管理研究協会	常任理事	東京都	03-3202-0791
	黒田幸男	国家公務員等共済組合連合会	参与	東京都	03-3222-1841
	長澤哲夫	北里大学東病院	病歴室長	神奈川県	0427-48-9111
	中村彰吾	聖路加国際病院	事務長	東京都	03-3541-5151

7. 臨床予防医学委員会 (担当副会長 依田忠雄)

委員長	依田忠雄	岡山赤十字病院	院長	岡山県	086-222-8811
副委員長	鈴木豊明	東京警察病院	顧問	東京都	03-3263-1371
	“ 藤間弘行	藤間病院	名誉院長	埼玉県	0485-22-0600
“	小山田 恵	岩手県立中央病院	院長	岩手県	0196-53-1151
	安藤幸夫	聖路加国際病院	名誉医長	東京都	03-3541-5151

宇津典彦	国立久留米病院	院長	福岡県	0942-21-457
大川日出夫	日本鋼管病院	副院長	神奈川県	044-333-559
小関忠尚	明治鍼灸大学附属病院	院長	京都府	07717-2-122
金澤鉄男	公立七戸病院	院長	青森県	0176-62-210
清瀬 闊	新東京病院	顧問	千葉県	0473-66-700
笹森典雄	牧田総合病院	副院長	東京都	03-3762-467
田中剛二	総合高津中央病院	副院長	神奈川県	044-822-612
寺田由紀夫	大阪赤十字病院	健診部長	大阪府	06-771-513
二本杉 皎	大阪赤十字病院	名誉院長	大阪府	06-771-513
松岡 研	P L 病院	副院長	大阪府	07212-4-310
三木 徹	丸山病院	院長	兵庫県	078-642-103

8. 社会保険・老人保健委員会 (担当副会長 河北博文)

委員長	河北博文	河北総合病院	理事長	東京都	03-3339-212
副委員長	村田寿太郎	村田博愛病院	院長	山口県	0835-22-231
〃	竹内正也	社会保険 いばらき健康管理センター	センター長	茨城県	0292-43-622
	安藤高夫	永生病院	理事長	東京都	0426-61-410
	梅津勝男	日比谷病院	事務次長	東京都	03-3502-723
	川渊孝一	国立医療病院管理研究所 医療経済研究部	研究員	東京都	03-3203-532
	児玉博行	大原記念病院	院長	京都府	075-744-312
	櫻井 裕	北里大学公衆衛生学	講師	神奈川県	0427-78-811
	嶋崎 佐智子	(社)日本看護協会	常任理事	東京都	03-3400-833
	千葉兼三	千葉病院	事務長	東京都	03-3471-757
	益子邦洋	日本医科大学救急医学科	助教授	東京都	03-3822-213
	三宅祥三	武蔵野赤十字病院	内科部長	東京都	0422-32-311

9. 医療経済(税制)委員会 (担当副会長 河北博文)

委員長	北村行彦	優生病院	院長	兵庫県	06-488-185
	飯田修平	練馬総合病院	院長	東京都	03-3972-100
	石井孝宜	森公認会計士共同事務所	公認会計士	東京都	03-3839-596
	岩本 晋	山口大学医学部公衆衛生学	講師	山口県	0836-22-231
	海北幸男	多根病院	事務長	大阪府	06-581-107

濃 沼 信 夫	東北大学医学部病院管理学	教 授	宮 城 県	022-274-1111
中 橋 彌 光	西 陣 病 院	院 長	京 都 府	075-461-8800
米 満 弘 之	熊 本 機 能 病 院	院 長	熊 本 県	096-345-8111
元 原 利 武	明 舞 中 央 病 院	院 長	兵 庫 県	078-917-2020

1. 国 際 委 員 会 (担当副会長 河北博文)

委員長	高 橋 勝 三	武 蔵 野 赤 十 字 病 院	院 長	東 京 都	0422-32-3111
副委員長	紀伊國 献 三	筑 波 大 学	教 授	茨 城 県	0298-53-3067
	高 橋 淑 郎	ト ロ ン ト 大 学 医 学 部	助 教 授	東 京 都	03-3326-6735 (自宅)
	竹 内 正 也	社会保険 いばらき健康管理センター	センター長	茨 城 県	0292-43-6220
	長 澤 泰	東 京 大 学 工 学 部	助 教 授	東 京 都	03-3812-2111
	波 多 野 誠	日 経 B P 社 診 療 所	所 長	東 京 都	03-5210-8407
	牧 野 永 城	聖 路 加 国 際 病 院	顧 問	神 奈 川 県	045-894-0672 (自宅)

2. 組 織 委 員 会 (担当副会長 依田忠雄)

委員長	伊 藤 研	医 療 法 人 大 雄 会	理 事 長	愛 知 県	0586-72-1211
副委員長	高 科 成 良	廣 島 総 合 病 院	院 長	広 島 県	0829-36-3111
	上 田 侃	札 幌 循 環 器 ク リ ニ ッ ク	理 事 長	北 海 道	011-747-5821
	北 村 行 彦	優 生 病 院	院 長	兵 庫 県	06-488-1851
	西 能 正 一 郎	西 能 病 院	理 事 長	富 山 県	0764-41-2481
	登 内 真	土 浦 協 同 病 院	院 長	茨 城 県	0298-23-3111
	廣 田 耕 三	大 浜 第 一 病 院	院 長	沖 縄 県	098-866-5171
	南 溢	秋 津 鴻 池 病 院	理 事 長	奈 良 県	07456-3-0601

3. 学 術 委 員 会 (担当副会長 中山耕作)

委員長	星 和 夫	青 梅 市 立 総 合 病 院	院 長	東 京 都	0428-22-3191
副委員長	一 条 勝 夫	病 院 管 理 研 究 協 会	常 任 理 事	東 京 都	03-3202-0791
	岩 淵 勉	河 北 総 合 病 院 附 属 ク リ ニ ッ ク	院 長	東 京 都	03-5377-2511
	北 原 哲 夫	(元・東 京 通 信 病 院 院 長)		東 京 都	03-3328-5610 (自宅)
	高 橋 政 祺	杏 林 大 学 医 学 部	教 授	東 京 都	0422-47-5511
	三 宅 浩 之	関 東 通 信 病 院	顧 問	東 京 都	03-3448-6537

13. 広報委員会（担当 副会長 河北博文）

委員長	廣田 耕三	大浜第一病院	院長	沖縄県	098-866-51
副委員長	岸口 繁	府中病院	理事長	大阪府	0725-41-16
	奥山 武雄	船橋市立医療センター	院長	千葉県	0474-38-33
	須藤 祐司	嬉泉病院	院長	東京都	03-3600-90
	須磨 忠昭	メディアーク経営研究所	所長	大阪府	06-324-33
	高木 安雄	社会保障研究所	主任研究員	東京都	03-3589-13
	名原 剛	日本生命保険相互会社	東海営業 総局長	愛知県	052-952-78
参与	行天 良雄	日本放送協会	解説委員	東京都	045-331-29 (自)

14. 企画・規程検討委員会（担当副会長 河北博文）

委員長	渡辺 晃	秦病院	院長	茨城県	0294-36-25
副委員長	小山 秀夫	国立医療・病院管理研究所 医療経済研究部	部長	東京都	03-3203-53
	中山 耕作	総合病院聖隷浜松病院	院長	静岡県	0534-74-22
	登内 真	総合病院土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-31
	依田 忠雄	岡山赤十字病院	院長	岡山県	086-222-88
	荒尾 素次	はりま病院	理事長	兵庫県	0794-23-21
	桑名 昭治	桑名病院	院長	新潟県	025-273-22
	中後 勝	高槻病院	理事長	大阪府	0726-81-38
	瀬田 克孝	社会保険中央総合病院	院長	東京都	03-3364-02
	山口 昇	公立みつぎ総合病院	院長	広島県	08487-6-11
	井出 健	(株)日本病院会	事務局長	東京都	03-3265-00

15. 中小病院委員会（担当副会長 中山耕作）

委員長	西能 正一郎	西能病院	理事長	富山県	0764-41-24
	川合 弘毅	若草第一病院	理事長	大阪府	0729-88-14
	中川 三与三	九段坂病院	院長	東京都	03-3262-91
	中村 仁	国保八日市場市立病院	院長	千葉県	0479-72-15
	木村 篤人	立川中央病院	院長	東京都	0425-22-71
	岡田 玲一郎	社会医療研究所	所長	東京都	03-3914-55
	関田 康慶	東北大学医学部病院管理学教室	助手	宮城県	022-274-11

〔部 会〕

・看護教育施設部会（担当副会長 中山耕作）

会 長	諸 橋 芳 夫	国 保 旭 中 央 病 院	院 長	千 葉 県	0479-63-8111
部 会 長	伊 藤 研	医 療 法 人 大 雄 会	理 事 長	愛 知 県	0586-72-1211
副 部 会 長	高 橋 勝 三	武 蔵 野 赤 十 字 病 院	院 長	東 京 都	0422-32-3111
常 任 幹 事	登 内 真	土 浦 協 同 病 院	院 長	茨 城 県	0298-23-3111
〃	小 澤 寛 二	国 立 療 養 所 新 潟 病 院	院 長	新 潟 県	0257-22-2126
〃	星 源 之 助	総 合 会 津 中 央 病 院	院 長	福 島 県	0242-25-1515
〃	笹 川 力	新 潟 市 民 病 院	院 長	新 潟 県	025-241-5151

・私 的 病 院 部 会（担当副会長 河北博文）

部 会 長	河 北 博 文	河 北 総 合 病 院	理 事 長	東 京 都	03-3339-2121
副 部 会 長	織 本 正 慶	織 本 病 院	理 事 長	東 京 都	0424-91-2121
〃	大 道 學	大 道 病 院	理 事 長	大 阪 府	06-967-7111
	伊 藤 研	総 合 大 雄 会 病 院	理 事 長	愛 知 県	0586-72-1211
	西 能 正 一 郎	西 能 病 院	理 事 長	富 山 県	0764-41-2481
	佐 藤 真 杉	佐 藤 病 院	院 長	大 阪 府	0720-50-8711
	竹 川 節 男	竹 川 病 院	院 長	東 京 都	03-3966-8781
	西 島 英 利	小 倉 蒲 生 病 院	理 事 長	福 岡 県	093-961-3238
	福 井 順	長 崎 記 念 病 院	理 事 長	長 崎 県	0958-71-1515
	中 山 耕 作	総 合 病 院 聖 隷 浜 松 病 院	院 長	静 岡 県	0534-74-2222

・老 人 保 健 施 設 部 会（担当副会長 河北博文）

部 会 長	河 北 博 文	河 北 総 合 病 院	理 事 長	東 京 都	03-3339-2121
	伊 藤 研	医 療 法 人 大 雄 会	理 事 長	愛 知 県	0586-72-1211
	南 溢	秋 津 鴻 池 病 院	院 長	奈 良 県	07456-3-0601
	漆 原 彰	大 宮 共 立 病 院	院 長	埼 玉 県	048-686-7151
	寺 田 一 郎	水 原 郷 病 院	名 誉 院 長	新 潟 県	0250-62-2780

4. エイズ対策本部 (担当副会長 河北博文)

本部長	諸橋芳夫	日本病院会	会長	東京都	03-3265-007
本部長代行	河北博文	日本病院会	副会長	東京都	03-3265-007
副本部長	瀬田克孝	社会保険中央総合病院	院長	東京都	03-3364-025
	登内真	日本病院会	副会長	東京都	03-3265-007
	伊賀六一	東京都済生会中央病院	院長	東京都	03-3451-821
	伊藤研	総合大雄会病院	理事長	愛知県	0586-72-121
	岩崎榮	日本医科大学	医療管理 学教授	東京都	03-3822-213
	岡崎通	国立津病院	院長	三重県	05925-5-312
	島田馨	東京大学医科学研究所	付属病院長	東京都	03-3443-811
	須藤祐司	嬉泉病院	院長	東京都	03-3600-900
	高橋勝三	武蔵野赤十字病院	院長	東京都	0422-32-311
	田所昌夫	河北総合病院	院長	東京都	03-3339-212
	星和夫	青梅市立総合病院	院長	東京都	0428-22-319
	渡辺晃	秦病院	院長	茨城県	0294-36-255

(オブザーバー)

	相川直樹	慶応義塾大学	医学部救急 科教授	東京都	03-3353-121
	大江健二	国保旭中央病院	中央検査科 長	千葉県	0479-63-811
	尾寄新平	厚生省保健医療局	結核・感染症 対策室長	東京都	03-3503-171
	菅野治重	千葉大学医学部付属病院	検査部感染症 専門講師	千葉県	043-222-717
	紀伊國献三	筑波大学社会医学系	医学社会学 教授	茨城県	0298-53-321
	斎藤毅	日本歯科医師会	HIV調査検討 委員会 座長	東京都	03-3219-800
	嵯峨清喜	嵯峨星野法律事務所	弁護士	東京都	03-3496-512
	高柳和江	日本医科大学	医療管理 学助教授	東京都	03-3822-213

[特別委員会]

1. 病院情報センター委員会 (担当副会長 河北博文)

委員長	三宅浩之	関東通信病院	顧問	東京都	03-3448-653
副委員長	里村洋一	千葉大学附属病院	部長	千葉県	0472-22-717
	青木禧和	荒病院	統轄専務	福島県	0244-36-273

一条勝夫	病院管理研究協会	理事	東京都	03-3202-0791
大道久	日本大学医学部医療管理学教室	教授	東京都	03-3972-8111
土井義行	舞子台病院	事務長	兵庫県	078-782-0055
谷口正和	N T T データ通信(株)	部長	東京都	03-3509-8595

国際モダンホスピタルショー (担当副会長 登内 真)

担当副会長	登内 真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
研究研修 委員長	登内 真	〃	〃	〃	〃
企画委員長	三宅浩之	関東通信病院	顧問	東京都	03-3448-6537

ヘルス展 (担当副会長 登内 真)

担当副会長	登内 真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
企画委員長	須藤祐司	嬉泉病院	院長	東京都	03-3600-9001

国際病院連盟汎地域会議 組織委員会 (担当副会長 河北博文)

会長	諸橋芳夫	日本病院会	会長	東京都	03-3265-0077
委員長	河北博文	河北総合病院	理事長	東京都	03-3339-2121
副委員長	高橋勝三	武蔵野赤十字病院	院長	東京都	0422-32-3111
	紀伊國献三	筑波大学医学専門学群	教授	茨城県	0298-53-3067
委員	中山耕作	総合病院聖隷浜松病院	院長	静岡県	0534-74-2222
	依田忠雄	岡山赤十字病院	院長	岡山県	0862-22-8811
	牧野永城	聖路加国際病院	顧問	神奈川県	045-894-0672 (自宅)
	吉野晶雄	厚生科学研究所	所長	東京都	03-3470-4661
	エロル・ピカリング	国際病院連盟本部	事務局長	ロンドン	

国際病院連盟汎地域会議 運営委員会

委員長	高橋勝三	武蔵野赤十字病院	院長	東京都	0422-32-3111
副委員長	吉野晶雄	厚生科学研究所	所長	東京都	03-3470-4661
委員	小山秀夫	国立医療・病院管理研究所	部長	東京都	03-3203-5327
	川渕孝一	国立医療・病院管理研究所	主任研究員	東京都	03-3203-5327
	高橋淑郎	トロント大学医学部	助教授	東京都	03-3326-6735 (自宅)
	岡本悦司	近畿大学医学部	助手	大阪府	0723-66-0221

国際病院連盟汎地域会議 学術委員会

委員長	牧野永城	聖路加国際病院	顧問	神奈川県	045-894-067 (自宅)
副委員長	紀伊國献三	筑波大学医学専門学群	教授	茨城県	0298-53-306
委員	長澤泰	東京大学工学部	助教授	東京都	03-3812-211
	竹内正也	社会保険 いばらき健康管理センター	センター長	茨城県	0292-43-622
	波多野誠	日経B.P社診療所	所長	東京都	03-5210-840
	岡崎通	国立津病院	院長	三重県	05925-5-312

国際病院連盟汎地域会議 財務委員会

委員長	河北博文	河北総合病院	理事長	東京都	03-3339-212
-----	------	--------	-----	-----	-------------

5. 第44回日本病院学会 実行委員会

学会長	諸橋芳夫	日本病院会	会長	東京都	03-3265-007
副学会長	登内真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-311
	依田忠雄	岡山赤十字病院	院長	岡山県	0862-22-881
	河北博文	河北総合病院	理事長	東京都	03-3339-212
委員長	中山耕作	聖隷浜松病院	院長	静岡県	0534-74-222
委員	小山田恵	岩手県立中央病院	院長	岩手県	0196-53-115
	梶原優	板倉病院	院長	千葉県	0474-31-266
	星和夫	青梅市立総合病院	院長	東京都	0428-22-319
	高橋勝三	武蔵野赤十字病院	院長	東京都	0422-32-311
	瀬田克孝	社会保険中央総合病院	院長	東京都	03-3364-025
	織本正慶	織本病院	理事長	東京都	0424-91-212
	伊賀六一	東京都済生会中央病院	院長	東京都	03-3451-821
	宗雪武	横浜赤十字病院	院長	神奈川県	045-622-010
	山本敬	衣笠病院	院長	神奈川県	0468-52-118
	寺田守	公立陶生病院	院長	愛知県	0561-82-510
	伊藤研	総合大雄会病院	理事長	愛知県	0586-72-121
	岡崎通	国立津病院	院長	三重県	05925-5-312
	大道學	大道病院	理事長	大阪府	06-967-711
	高橋彦太郎	日本病院共済会	取締役	東京都	03-3264-988
	井出健	日本病院会	事務局長	東京都	03-3265-007

第44回日本病院学会 運営委員会

担 副 当 副 学 会 長	依田忠雄	岡山赤十字病院	院長	岡山県	086-222-8811
	中山耕作	聖隷浜松病院	院長	静岡県	0534-74-2222
	登内真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
	河北博文	河北総合病院	理事長	東京都	03-3339-2121
委員長	大道學	大道病院	理事長	大阪府	06-967-7111
委員	小山田恵	岩手県立中央病院	院長	岩手県	0196-53-1151
	高橋勝三	武蔵野赤十字病院	院長	東京都	0422-32-3111
	中川三与三	九段坂病院	院長	東京都	03-3262-9191
	須藤祐司	嬉泉病院	院長	東京都	03-3600-9001
	山本敬	衣笠病院	院長	神奈川県	0468-52-1182
	藤沢正清	福井県済生会病院	院長	福井県	0776-23-1111
	寺田守	公立陶生病院	院長	愛知県	0561-82-5101
	北村行彦	優生病院	院長	兵庫県	06-488-1851
	廣田耕三	大浜第一病院	院長	沖縄県	098-866-5171
	高橋彦太郎	日本病院共済会	取締役	東京都	03-3264-9888
	井出健	日本病院会	事務局長	東京都	03-3265-0077

第44回日本病院学会 学術委員会

担 副 当 副 学 会 長	登内真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
	中山耕作	聖隷浜松病院	院長	静岡県	0534-74-2222
	依田忠雄	岡山赤十字病院	院長	岡山県	086-222-8811
	河北博文	河北総合病院	理事長	東京都	03-3339-2121
委員長	岡崎通	国立津病院	院長	三重県	05925-5-3120
委員	上田侃	札幌循環器クリニック	理事長	北海道	011-747-5821
	小林登	国立小児病院	院長	東京都	03-3414-8121
	伊賀六一	東京都済生会中央病院	院長	東京都	03-3451-8211
	宗雪武	横浜赤十字病院	院長	神奈川県	045-622-0101
	小澤寛二	国立療養所新潟病院	院長	新潟県	0257-22-2126
	西能正一郎	西能病院	理事長	富山県	0764-41-2481
	村田寿太郎	村田博愛病院	院長	山口県	0835-22-2310
	福井順	長崎記念病院	理事長	長崎県	0958-71-1515
	高橋彦太郎	日本病院共済会	取締役	東京都	03-3264-9888
	井出健	日本病院会	事務局長	東京都	03-3265-0077

第44回日本病院学会 財務委員会

担当 副学会長	河北博文	河北総合病院	理事長	東京都	03-3339-21
副学会長	中山耕作	聖隷浜松病院	院長	静岡県	0534-74-21
	登内真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-31
	依田忠雄	岡山赤十字病院	院長	岡山県	086-222-86
委員長	伊藤研	総合大雄会病院	理事長	愛知県	0586-72-12
委員	瀬田克孝	社会保険中央総合病院	院長	東京都	03-3364-02
	織本正慶	織本病院	理事長	東京都	0424-91-21
	高山瑩	高山整形外科病院	院長	東京都	03-3607-32
	向野榮	福井赤十字病院	院長	福井県	0776-36-36
	高科成良	厚生連広島総合病院	院長	広島県	0829-36-31
	高橋彦太郎	日本病院共済会	取締役	東京都	03-3264-98
	井出健	日本病院会	事務局長	東京都	03-3265-00
学会監事	星和夫	青梅市立総合病院	院長	東京都	0428-22-31
	梶原優	板倉病院	院長	千葉県	0474-31-26

〔他団体との連絡協議〕

1. 四病院団体連絡協議会（代表委員 諸橋芳夫）

<総合部会>

諸橋芳夫	国保旭中央病院	院長	千葉県	04796-3-811
依田忠雄	岡山赤十字病院	院長	岡山県	086-222-881
河北博文	河北総合病院	理事長	東京都	03-3339-212
大道學	医療法人大道会	理事長	大阪府	06-962-962

<税制委員会>

石井孝宜	森公認会計士共同事務所	公認会計士	東京都	03-3839-596
------	-------------	-------	-----	-------------

〔医療制度委員会〕

大道 學	医療法人大道会	理事長	大阪府	06-962-9621
渡辺 晃 秦	病院	院長	茨城県	0294-36-2551

〔医療経済委員会〕

河北博文	河北総合病院	理事長	東京都	03-3339-2121
伊藤 研	医療法人大雄会	理事長	愛知県	0586-72-1211
北村行彦	優生病院	院長	兵庫県	06-488-1851
宗雪 武	横浜赤十字病院	院長	神奈川県	045-622-0101

〔看護小委員会〕

伊藤 研	医療法人大雄会	理事長	愛知県	0586-72-1211
高橋勝三	武蔵野赤十字病院	院長	東京都	0422-32-3111

〔給食委託研究会〕

寺田 守	公立陶生病院	院長	愛知県	0561-82-5101
柏戸正英	柏戸病院	院長	千葉県	043-227-8366

研究会委員名簿

1. 診療システム研究会

顧問	嶋田和正	都立広尾病院	顧問	(03)3489-7901 (自宅)
委員長	澤島政行	横浜船員保険病院	院長	(045)331-1251
編集委員	柴田俊郎	(株)日立戸塚総合病院	院長	(045)881-1221
副委員長	加藤正弘	江戸川病院	院長	(03)3673-1221
	杉浦昌也	都立広尾病院	院長	(03)3444-1181
	諏訪城三	神奈川県立こども医療センター	院長	(045)711-2351
	土居通泰	都立台東病院	院長	(03)3874-7441
	新納憲司	大口東総合病院	副院長	(045)401-2411
	星和夫	青梅市立総合病院	院長	(0428)22-3191
	村上義次	日暮里上宮病院	院長	(03)3891-5291
	浜田一美	(株)日本病院会	事業課	(03)3265-0077

2. 事務管理研究会

顧問	益田啓作	(前)横浜赤十字病院	事務部長	(045)771-3002 (自宅)
顧問	上林三郎	聖路加国際病院	事務部顧問	(03)3541-5151
委員長	安田尚之	順天堂大学医学部附属順天堂医院	事務部長	(03)3813-3111
副委員長	山本敏博	聖隷福祉事業団	常務理事	(0534)73-2150
編集委員	田中實	足利赤十字病院	事務部長	(0284)21-0121
	海北幸男	医療法人きっこう会	事務局長	(06)581-1071
	黒田幸男	国家公務員等共済組合連合会	参与	(03)3222-1841
	佐々木和男	河北総合病院	事務長	(03)3339-2121
	平野栄次	東十条病院	事務長	(03)3911-5511
	山下昭雄	杏雲堂病院	事務長	(03)3292-2051
	中村彰吾	聖路加国際病院	事務長	(03)3541-5151
	大内全	(株)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

3. 医事研究会

顧問	加藤雄二	病院システム研究会	代表	(0423)26-3898
顧問	三上晃	三井記念病院	医事課顧問	(03)3862-9111
委員長	中野隆男	本島総合病院	業務課長	(0276)22-7131
副委員長	大西正利	河北総合病院附属診療所	事務長	(03)3339-2121
編集委員	船津浩	虎の門病院分院	総務課長	(044)877-5111
	石坂恵介	虎の門病院	医事課保険係長	(03)3588-1111
	岩瀬英二	織本病院	医事課長	(0424)91-2121
	藪純夫	聖路加国際病院	医事課外来係長	(03)3541-5151
	武田匡弘	横浜総合病院	医事課入院係長	(045)902-0001
	大内全	(株)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

4. 総務研究会

顧問	青山博	(元)三井記念病院	総務課長	(03)3759-5437 (自宅)
委員長	石山稔	聖路加国際病院	病床管理室長	(03)3541-5151
副委員長	松田詔	西東京警察病院	医事課長	(0423)21-2031
	篠塚功	河北総合病院	人事課長	(03)3339-2121
	田島誠一	聖隷福祉事業団	総務部長	(0534)73-2150
	中永久光	西能病院	常務理事	(0764)41-2481
	渡辺謙太郎	亀田総合研究所	副所長	(04709)2-2211
	一之瀬秀樹	(株)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

5. 用度研究会

委員長	塩山雅英	聖路加国際病院	事務次長	(03)3541-5151
副委員長	梅津勝男	日比谷病院	事務次長	(03)3502-7231
編集委員	大石洋司	成城木下病院	事務長	(03)3482-1702
	中村明良	三楽病院	職員係長	(03)3292-3981
	平林和玄	公立昭和病院	用度課長	(0424)61-0052
	松島雅夫	北里メディカルセンター病院	経理課長	(0485)93-1212
	山口敏男	日通健保東京病院	経理課長	(03)3946-5151
	中田彬	(株)日本病院会	企画調整課	(03)3265-0077

6. 施設研究会

顧問	上林三郎	聖路加国際病院	事務部顧問	(03)3541-5151
委員長	倉持一雄	学校法人順天堂	本館建設本部事務局	(03)3813-3111
副委員長	中島昭二郎	北品川総合病院	施設課長	(03)3474-1831
	小峰建二	武蔵野赤十字病院	施設課長	(0422)32-3111
	佐藤辰夫	虎の門病院	施設課長	(03)3588-1111
編集委員	瀬川篤宏	河北総合病院	施設部長	(03)3339-2121
	中西照録	都立豊島病院	主事	(03)3961-3281
	辺見九十九	東京都済生会向島病院	施設業務顧問	(03)3610-3651
	千須和美直	(株)日本病院会	企画調整課	(03)3265-0328

7. 会計経理研究会

顧問	酒泉春雄	河北総合病院	財団事務局顧問	(03)3339-2121
委員長	小沢武男	東大和病院	事務長	(0425)62-1411
副委員長	別府勇	虎の門病院分院	事務部長	(044)877-5111
編集委員	小林則人	中野総合病院	経理課	(03)3382-1231
	徳野雅彦	三楽病院	財政課係長	(03)3292-3981
	横山達治	聖路加国際病院サービスセンター	常務取締役	(03)3542-9746
	太刀川東吾	(株)日本病院会	会計課	(03)3265-0077
	臼杵豊			

8. 人事労務研究会

顧問	稲垣武	(株)全国病院理学療法協会	事務所長	(03)3494-1948
委員長	西浦捷裕	東京衛生病院	人事課長	(03)3392-6151
副委員長	斉藤正夫	石和温泉病院	事務長	(0552)63-0111
	阿部宏子	虎の門病院	総務課長	(03)3588-1111
	大塚辰雄	賛育会病院	総務課長	(03)3622-9191
	酒井武	産業労働調査所附属日本病院経営研究所	参与	(03)3237-1601
	垂水正紀	三楽病院	庶務課長補佐	(03)3292-3981
	一之瀬秀樹	(株)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

9. 看護管理研究会

顧問	内田 卿子	聖路加国際病院	副院長	(03)3541-5151
委員長	北林 悦子	九段坂病院	看護部長	(03)3262-9191
副委員長	家入 秀子	港区立特養老人ホーム・高齢者 在宅サービスセンター白金の森	看護・介護課長	(03)3449-9611
	大久保 和恵	練馬総合病院	総婦長	(03)3972-1001
	木部 玲子	北里研究所病院	副看護部長	(03)3444-6161
	達子 房	順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院	看護部長	(0473)53-3111
	竹内 幸枝	日本赤十字社医療センター	婦長	(03)3400-1311
	嶋崎 佐智子	(社)日本看護協会	常任理事	(03)3400-8331
	長谷川 スミ子	癌研究会附属病院	総婦長	(03)3918-0111
編集委員	宮越 和子	都立府中病院	看護部長	(0423)23-5111
	由井 尚美	社会保険横浜中央病院	総婦長	(045)641-1921
	浜田 一美	(社)日本病院会	事業課	(03)3265-0077

10. 薬事管理研究会

顧問	高橋 則行	(社)日本病院薬剤師会	会長	(03)3406-0485
顧問	吉本 与一	(社)日本薬剤師会	副会長	(03)3580-9611
委員長	佐野 寿夫	日本赤十字社医療センター	薬剤部長	(03)3400-1311
副委員長	八木下 将也	同愛記念病院	薬剤科長	(03)3625-6381
編集委員	樺山 照一	杏林大学医学部付属病院	薬剤科長	(0422)47-5511
	飯沼 弘義	都立神経病院	薬剤科長	(0423)23-5110
	石井 漱一	国立がんセンター東病院	薬剤部長	(0471)33-1111
	磯崎 貞夫	東京逋信病院	薬剤部長	(03)3238-7167
	海老沼 廣	東京警察病院	薬剤部長	(03)3263-1371
	片山 孝一	聖路加国際病院	薬局長	(03)3541-5151
	高橋 美篤	武蔵野赤十字病院	薬剤部長	(0422)32-3111
	永井 昇	東京厚生年金病院	薬剤部長	(03)3269-8111
	大内 全	(社)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

11. 栄養管理研究会

顧問	馬場 昂	エアロビクスクリニック	栄養室長	(0423)43-1573 (自宅)
委員長	佐藤 節夫	順天堂大学医学部附属順天堂医院	栄養部長	(03)3813-3111
副委員長	長崎 洋三	健保川崎中央病院	栄養課長	(044)288-2601
副委員長	米山 貞治	東京衛生病院	栄養科長	(03)3392-6151
	宇井 美代子	(前) 聖路加国際病院	栄養科長	(03)3717-5390 (自宅)
	下 房子	関越病院	栄養科	(0492)85-3161
編集委員	住田 佳寿子	心臓血管研究所附属病院	栄養科管理室長	(03)3408-2151
	中川 渉男	江東病院	栄養課長	(03)3685-2166
	中西 靖子	河北総合病院	栄養科長	(03)3339-2121
	水上 美津子	横浜赤十字病院	栄養課長	(045)622-0101
	吉田 美津子	都立府中病院	栄養科長	(0423)23-5111
	浜田 一美	㈩日本病院会	事業課	(03)3265-0077

12. 調理研究会

委員長	佐藤 亘	東邦大学医学部附属大森病院	調理上席室長	(03)3762-4151
副委員長	小林 武夫	都立駒込病院	栄養科技能長	(03)3823-2101
	杉本 和治	(元)三楽病院	調理主任	(044)411-5254 (自宅)
編集委員	倍賞 玉之助	東京衛生病院	調理主任	(03)3392-6151
	吉川 恒司	国立療養所東京病院	調理師	(0424)91-2111
	浜田 一美	㈩日本病院会	事業課	(03)3265-0077

13. 診療録管理研究会

委員長	木村 明	新潟市民病院	副院長	(025)241-5151
副委員長	三竹 年世子	済生会神奈川県病院	病歴室顧問	(045)432-1111
編集委員	有坂 馨	松村総合病院	診療録管理部長	(0246)23-2161
	大島 京子	北里研究所病院	病歴室主任	(03)3444-6161
	小泉 智子	杏林大学医学部付属病院	病歴室主任	(0422)47-5511
	桜井 勉	慶応義塾大学病院	中央病歴室主任	(03)3353-1211
	武田 純子	松戸市立病院	診療記録管理室主任	(0473)63-2171
	西野 泰吉	東京医科大学病院	中央病歴室	(03)3342-6111
	丸林 葉子	順天堂大学医学部附属順天堂医院	診療録中央管理室係長	(03)3813-3111

吉崎悦子	濟生会神奈川 県病院	病歴図書室主任	(045)432-1111
北川芳兼	(社)日本病院会	通信教育課	(03)3265-0079

14. 病院管理総合研究会

顧問	小林保	(前)板橋中央臨床検査研究所	在宅医療室長	(03)3967-6011
委員長	矢作忠政	京浜総合病院	理事長	(044)777-3254
副委員長	金地嘉夫	金地病院	理事長	(03)3821-6433
編集委員	外池美和子	朝日生命成人病研究所附属病院	医事課長	(03)3343-2151
	金森頼長	東京警察病院	栄養科長	(03)3263-1371
	熊沢宏光	京浜総合病院	事務局次長	(044)777-3251
	高田カメ	河井病院	総婦長	(03)3951-9116
	中原久江	武蔵野赤十字病院	ICU・HCU婦長	(0422)32-3111
	中村彰吾	聖路加国際病院	事務長	(03)3541-5151
	湯川すが	関東逋信病院	副看護部長	(03)3448-6021
	大内全	(社)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

15. 放射線研究会

顧問	西田義夫	佼成病院	健康管理相談室長	03(3383)1281
顧問	松岡龍平	聖路加国際病院	放射線科部長	(03)3541-5151
顧問	松本泰二	三楽病院	副院長	(03)3292-3981
委員長	虎渡勇二	(前)おかむら健クリニック	放射線室長	(03)3847-9051
副委員長	村越秀光	日本医科大学附属病院	放射線科係長	(03)3822-2131
	大内周信	聖テレジア病院	顧問	(0467)32-4125
	栗田道雄	東京女子医科大学 こころ原リウマチ痛風センター	技師	(03)5269-1711
	佐藤尚義	北品川総合病院	放射線技術部課長	(03)3474-5861
	杉尾敏憲	国立東京第二病院	副技師長	(03)3411-0111
編集委員	関孝一	都立清瀬小児病院	放射線科係長	(0424)91-0011
	平和夫	東京都済生会中央病院	放射線科長	(03)3451-8211
	藤田良三	東京医科大学霞ヶ浦病院	放射線科技師長	(0298)87-1161
編集委員	松元和敏	川崎幸病院	放射線科技師長	(044)544-4611
	一之瀬秀樹	(社)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

16. 臨床検査管理研究会

顧問	佐藤和身	(前) 駿河台日本大学病院	技 術 長	(045)881-3869 (自宅)
委員長	川越 功	浜松赤十字病院	技 師 長	(0534)72-1151
副委員長	小金沢宗雄	河北総合病院	技 師 長	(03)3339-2121
編集委員	高橋貞嗣	済生会横浜市南部病院	技 師 長	(045)832-1111
副委員長	宇津木道弘	東京医科大学病院	技 師 長	(03)3342-6111
	川畑貞美	順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院	技 師 長	(0473)53-3111
	島袋宏明	日本大学医学部附属板橋病院	検査科主任	(03)3972-8111
	鈴木勝治	春日部市立病院	医事課長	(0487)35-1261
	成田周市	板橋中央総合病院	検査科次長	(03)3967-6011
	平沢政人	昭和大学病院	技 師 長	(03)3784-8484
	前畑英介	三井記念病院	技 師 長	(03)3862-9111
	浜田一美	㈱日本病院会	事業課	(03)3265-0077

17. ハウスキーピング研究会

顧問	近藤英二	国際医療管理専門学校	講 師	(0471)33-5307 (自宅)
委員長	井上加代子	(前) 杏林大学医学部付属病院	庶務課次長	(0422)47-5511
編集委員	伊藤ユキ子	(元) 都立府中病院	家政係長	(0422)48-2268 (自宅)
副委員長	石川幸子	都立神経病院	家政係長	(0423)23-5111
	粕谷 良	(元) 虎の門病院	整備課長	(0423)21-1894 (自宅)
	海江田 宝	都立豊島病院	家政係長	(03)3961-3281
	栗原君代	済生会横浜市南部病院	施設課ハウスキーパー	(045)832-1111
	高崎とし子	虎の門病院分院	ハウスキーパー	(044)877-5111
	友安直子	杏林大学医学部	講 師	(03)3300-8397 (自宅)
	水野淑子	(元) 順天堂医院	家政係長	(03)3307-1335 (自宅)
	浜田一美	㈱日本病院会	事業課	(03)3265-0077

18. 図書室研究会

顧問	後藤久夫	片瀬学園	園長	(0466)22-4462
委員長	石澤實枝	東京厚生年金病院	事務主任	(03)3269-8111
副委員長	篠原寿美江	川崎市立川崎病院	司書	(044)233-5521
編集委員	上原みどり	三井記念病院	事務副主任	(03)3862-9111
	有田由美子	新潟県立がんセンター新潟病院	図書室主任	(025)266-5111
	飯田育子	浜松赤十字病院	主事	(0534)72-1151
	奥出麻里	川鉄健保千葉病院	司書	(0472)61-5111
	岡橋郁子	社会保険広島市民病院	総務課主事	(0822)21-2291
	直江理子	旭川市立旭川病院	事務吏員	(0166)24-3181
	吉富まち子	竹田総合病院	事務員	(0242)27-5511
	大内全	(社)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

19. 職場リーダー研修会

委員長	内藤均	聖路加国際病院	用度課長	(03)3541-5151
副委員長	神田幸助	昭和大学病院	中央放射線部技師長	(03)3784-8418
	緒方廣市	武蔵野赤十字病院	事務部長	(0422)32-3111
	設楽正登	佼成病院	臨床検査技師長	(03)3383-1281
	平井千枝	東京医科大学病院	栄養課課長補佐	(03)3342-6111
	平沢政人	昭和大学病院	臨床検査技師長	(03)3784-8484
	井上新一	(社)日本病院会	総務課	(03)3265-0077
	西川幸一	〃	〃	〃

会 員 状 況

平成5年3月31日現在

都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数
北 海 道	66	石 川	20	岡 山	72
青 森	23	福 井	18	広 島	48
岩 手	19	山 梨	26	山 口	33
宮 城	25	長 野	36	徳 島	6
秋 田	27	岐 阜	37	香 川	17
山 形	16	静 岡	73	愛 媛	33
福 島	38	愛 知	144	高 知	48
茨 城	52	三 重	46	福 岡	91
栃 木	20	滋 賀	30	佐 賀	9
群 馬	41	京 都	68	長 崎	43
埼 玉	63	大 阪	184	熊 本	30
千 葉	110	兵 庫	161	大 分	13
東 京	262	奈 良	41	宮 崎	13
神 奈 川	134	和 歌 山	68	鹿 児 島	16
新 潟	67	鳥 取	15	沖 縄	12
富 山	27	島 根	13	合 計	2,454

会 員 種 別	平成5年3月31日	平成4年3月31日	増 減
正 会 員	2,454	2,442	12
賛 助 会 員 A	146	151	△ 5
” B	195	190	5
” C	0	0	0
” D	74	78	△ 4
” 計	415	419	△ 4